

平成 21 年度総務省事業

「インターネットの特性を踏まえた  
情報の受発信・情報交換についての  
指導内容等に関する調査研究」  
報告書

平成 22 年 3 月

株式会社 内田洋行  
教育総合研究所

## 目次

はじめに .....	1
<b>1. 事業の概要と背景</b> .....	2
1-1 本事業の背景.....	2
1-2 本事業の目的.....	3
1-3 本事業の実施体制.....	3
1-4 本事業のスケジュール .....	5
<b>2. 既存教材の調査</b> .....	7
2-1 目的.....	7
2-2 方法.....	7
2-2-1 調査対象.....	7
2-2-2 調査内容.....	7
2-2-3 調査方法.....	8
2-3 結果.....	9
2-4 考察及び結論.....	26
2-5 付録.....	27
<b>3. カリキュラム設計</b> .....	29
3-1 目的.....	29
3-2 方法.....	29
3-2-1 ICTメディアリテラシー学習項目（中学生・高校生用）の作成.....	29
3-2-2 カリキュラムの作成.....	29
3-3 結果.....	30
3-3-1 ICTメディアリテラシー学習項目（中学生・高校生用）.....	30
3-3-2 カリキュラム.....	34
<b>4. 指導資料等の製作</b> .....	37
4-1 目的.....	37
4-2 方法.....	39
4-2-1 指導資料等の製作方法.....	39
4-2-2 補助資料の製作方法.....	40
4-3 結果.....	46
4-3-1 指導資料の結果.....	46
4-3-2 補助資料の結果.....	47
4-4 付録：映像シナリオ最終稿 .....	56
<b>5. モデル授業の実施と指導項目・指導資料等の評価</b> .....	61
5-1 目的.....	61
5-2 方法.....	61
5-2-1 評価の方法.....	61
5-2-2 アンケート項目.....	65
5-2-3 モデル授業実施概要.....	68
5-3 第 1 回モデル授業の評価.....	69

5-3-1	第 1 回モデル授業において使用した指導資料、補助資料	69
5-3-2	第 1 回モデル授業の評価結果	75
5-3-3	第 1 回モデル授業に関する考察	82
5-4	第 2 回～第 4 回モデル授業の評価	84
5-4-1	第 2 回～第 4 回モデル授業で使用した指導資料、補助資料	84
5-4-2	第 2 回～第 4 回モデル授業の評価結果	91
5-4-3	第 2 回～第 4 回モデル授業に関する考察	101
5-5	モデル授業、指導内容、指導資料等についてのまとめ	107
5-6	付録	109
5-6-1	アンケート用紙及びヒアリングフロー	109
5-6-2	第 1 回モデル授業アンケート結果	117
5-6-2	第 2 回～第 4 回モデル授業アンケート結果	120
6.	まとめと提案	123
6-1	まとめ	123
6-2	提案	125
6-2-1	教材開発	125
6-2-2	普及方策	126

## はじめに

近年、ケータイやインターネットなどの ICT メディアを子どもたちが日常的に利用するようになり、ICT メディアの子どもたちの生活における位置づけが大きくなる中で、ICT メディアに関連した様々なトラブルや事件が発生するようになってきました。

今回、総務省より受託を受け、「インターネットの特性を踏まえた情報の受発信・情報交換についての指導内容等に関する調査研究」を行いました。本調査研究の目的は、中学生・高校生を主な対象とし、虚実が混在するインターネット上の情報を主体的に読み解く能力を身につけ、インターネットの特性を理解した上で、メールやブログなどの情報を適切に受発信し情報交換できる能力、情報発信の観点から被害者になるだけでなく、知らない間に加害者になってしまわないために必要な能力、等の向上を図るための指導内容や指導資料等について調査研究を行い、ICT メディアの健全な利用の促進に資することです。

本調査研究では、プロジェクトチームを構成し、①コミュニケーション、情報モラル等の教育に関する専門家（大学教授）、②学習対象者に対して、日常的に教育活動を行っている者（中学校・高等学校の現職教師）、③コミュニケーション、情報モラル等に関する授業・セミナー等の実績のある組織（専門企業）の三者が産学連携のもと、以下のように調査研究を進めました。

- (1) Plan : ICT メディアリテラシーや情報モラル育成に関する既存の教材やカリキュラムの調査、分析。
- (2) Do : 調査結果をもとに、インターネットの特性を踏まえた情報の受発信・情報交換についての指導内容に関するカリキュラム案の作成、ビデオクリップを含む教材開発及びワークシートの作成と授業での試行実践。
- (3) Check : 開発したカリキュラムの評価、開発した教材の評価と改善。
- (4) Action : カリキュラムや教材の普及をはかり、授業実践を進める。

このように PDCA サイクルで調査研究を進めてきました。初年度の今年度は、既存の教材の調査分析やカリキュラム案を試作し、ブログに関するビデオクリップやワークシートを開発し、授業で試行していただきました。カリキュラムや教材の普及は次年度以降、継続的に取り組んでいく所存です。

ぜひ、本調査研究報告書をご一読いただいた後、開発したカリキュラムやビデオクリップ教材をお使いいただければ幸いです。最後になりましたが、教材の授業での試行実践にご協力いただきました中学校・高等学校の校長先生をはじめ、先生方にお礼申し上げます。

2010 年 3 月吉日  
調査研究プロジェクト委員長  
滋賀大学教育学部教授  
宮 田 仁

## 1. 事業の概要と背景

### 1-1 本事業の背景

総務省「通信利用動向調査」(2009 年)によると、13 歳から 19 歳までのインターネット利用率は、95.5%と高い割合を示している。インターネットを利用するための端末については、内閣府「第 5 回情報化社会と青少年に関する意識調査」(2007 年)に詳しく記載されている。コンピュータでのインターネット利用率は、高校生は 74.5%、中学生は 68.7%であり、携帯電話によるインターネットの利用率は、高校生では 95.5%、中学生は 56.3%というデータを示している。インターネットや携帯電話などの ICT メディアが、子どもたちにとって身近なものになっていることがわかる。

中学生・高校生は、インターネットを使って何をしているのであろうか。2009 年に実施された文部科学省「子どもの携帯電話等の利用に関する調査」によると、メールのやりとりをしている中学 2 年生は 67% (うち携帯電話 49.0%、コンピュータは 15.3%) であるが、高校 2 年生になると 95% (うち携帯電話 90.5%、コンピュータは 1.5%) にまで上昇する。自分のプロフィールを公開しているという中学 2 年生は 7.9%、他人のプロフィールやブログなどに書き込みをする生徒は 13.8%であるが、高校 2 年生では前者は 44.2% (うち携帯電話 40.1%、コンピュータは 2.0%)、後者は 41.6% (うち携帯電話 35.5%、コンピュータは 3.9%) と伸びている。学年が上がるにつれ、携帯電話の利用が増え、また 1 対 1 のコミュニケーションに加え、1 対多のコミュニケーションをとるようになっていくことがわかる。

一方、インターネットや携帯電話などの ICT メディアの利用に伴い、さまざまな事件やトラブルが発生している。例えば、2008 年 5 月、プロフィールへの書き込みに腹を立てて暴行したとして、東京都大田区の中学 3 年生ら少女 7 人が逮捕された事件、同年 7 月、群馬県桐生市で高校 1 年の男子生徒が、自分のプロフィールに書き込んだ内容のことで元同級生の無職少年とトラブルになり、暴行を受け死亡した事件などの例がある。このような傷害事件に至るケースは稀としても、何気ない一言から友人同士のトラブルに発展するなど、子どものコミュニケーション能力に関係するものは少なくない。また、プロフィールで自分の情報を公開する際に、友人しか見ていないと思っていたり、サイト上に誹謗中傷を書き込んでも誰が書いたかわからないかと思っていたり、インターネットの特性を理解しないまま ICT メディアを利用していることも、このようなトラブルの原因の一つと考えられる。

こうした状況の中で、子どもにインターネットの危険性を教え、自覚を促す「情報安全教育」が行われている。例えば、東京都教育委員会は、子どもたちを犯罪の被害者や加害者にしないために、警察と連携して小学校、中学校、高等学校、特別支援学校における、非行・犯罪被害防止教育の一環として「セーフティ教室」を実施している。また、携帯電話会社も、社会貢献の一環として携帯電話に関する安全教室を開催し、携帯電話の安全な使い方を教えている。

これらの「情報安全教育」に加え、中学生・高校生がインターネット上の情報を主体的に読み解く能力を身につけ、インターネットの特性を理解した上で、メールやブログなどの情報を適切に受発信しコミュニケーションできる能力を身につけるための教育が必要であると考えられる。

子どもたちは、未来社会を生きていく人間であり、社会をけん引する役割を担っている。今の中学生は、生まれたときからインターネットや携帯電話のある環境で育ち、新しい形の情報化社会を創造する可能性を秘めている。未来を担う子どもたちに対して、親の世代は学校や家庭において、「情報化社会を生き抜く能力」を育て、ともに学び合うことが今求められているのではないだろうか。

#### 【参考文献】

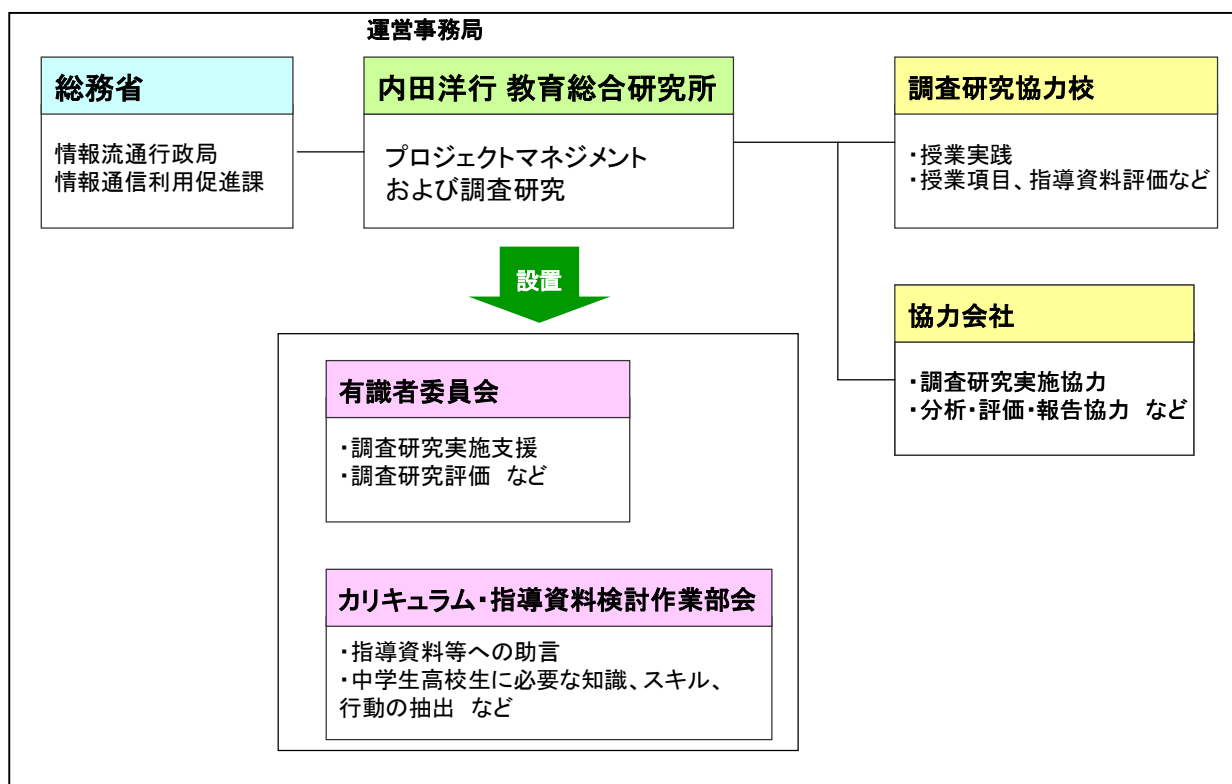
- ・総務省「通信利用動向調査」(2009)  
[http://www.soumu.go.jp/main\\_content/000016027.pdf](http://www.soumu.go.jp/main_content/000016027.pdf)
- ・内閣府「第 5 回情報化社会と青少年に関する意識調査」(2007)  
<http://www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/jouhou5/gaiyou.pdf>
- ・文部科学省「子どもの携帯電話等の利用に関する調査」(2009)  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/21/05/1266484.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/21/05/1266484.htm)
- ・東京都教育委員会「セーフティ教室」  
<http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/buka/shidou/safe.htm>

## 1-2 本事業の目的

中学生・高校生を主な対象とし、虚実が混在するインターネット上の情報を主体的に読み解く能力を身につけ、インターネットの特性を理解した上で、メールやブログなどの情報を適切に受発信し、情報交換できる能力（情報発信の観点から、被害者だけでなく加害者とならないために必要な能力を含む）等の向上を図るための指導内容や指導資料について調査研究を行い、もって ICT メディアの健全な利用の促進に資する。

## 1-3 本事業の実施体制

本事業の実施体制は下記のとおりである。



### (1) 内田洋行教育総合研究所

本事業全般における実施主体であり、運営管理業務を行った。具体的には、下記(2)有識者委員会や(3)カリキュラム・指導資料検討作業部会における事務局業務及び委員との協議、協力会社との連携、モデル授業、調査等を行った。

### (2) 有識者委員会

コミュニケーション・情報モラル等に関する専門家、学習対象者に対して日常的に教育活動を行っている者、コミュニケーション、情報モラル等に関する授業・セミナー等の実績のある者が有識者委員として就任した。本事業における調査研究への支援及び評価等を実施した。

分野	委員
○コミュニケーション、情報モラル等の教育に関する専門家	・滋賀大学 宮田仁先生
○学習対象者に対して、日常的に教育活動を行っている者	・東京都立江東商業高等学校 榎本竜二先生 ・小平市立小平第三中学校 小野有紀子先生 ・青梅市立第一中学校 紙澤雅一先生 ・東京都立板橋有徳高等学校 黒田英子先生
○コミュニケーション、情報モラル等に関する授業・セミナー等の実績のある者	・株式会社コドモット 渡邊純子氏

(3) カリキュラム・指導資料検討作業部会（以下、作業部会とする）

有識者委員のうち、学習対象者に対して日常的に教育活動を行っている者及びコミュニケーション、情報モラル等に関する授業・セミナー等の実績のある者が作業部会委員として、既存教材調査、指導資料作成、カリキュラム作成等の支援を実施した。

(4) 調査研究協力校

本事業の指導資料を使用したモデル授業の実践及びアンケート等の調査に協力した。

(5) 協力会社

指導資料及び教材製作、モデル授業の実施等を支援した（株式会社ユーミックス）。

本報告書内では、(1) 内田洋行教育総合研究所と (5) 協力会社とを合わせた名称として「事務局」と表記する。事務局及び有識者委員は、日常は、メーリングリストを利用して情報共有、意見交換を行い、事業を進めてきた。また、計 3 回の有識者委員会及び作業部会を設け、対面での意見交換を行った。有識者委員会、作業部会の日程及び議題は、次のとおりである。

第 1 回 有識者委員会	
日時	2009 年 12 月 13 日 13 : 30 ～ 15 : 30
議題	1.総務省挨拶 2.事務局挨拶 3.委員紹介 4.委員長挨拶 5.調査研究概要 6.事業進捗報告 6-1.既存教材の調査 6-2.カリキュラムの設計 6-3.指導資料等の製作 6-4.指導項目、指導資料等の評価 7.調査検討課題の討議 7-1.既存教材の調査 7-2.カリキュラムの設計 7-3.指導資料等の製作 7-4.指導項目、指導資料等の評価 8.今後のスケジュール 9.次回、開催について

第 1 回 作業部会	
日時	2010 年 1 月 30 日 13 : 10 ～ 16 : 00
議題	1.指導資料の検討 (1)映像教材の視聴 (2)榎本先生による指導案紹介 (3)小野先生による指導案紹介 (4)事務局による指導資料紹介 2.ICT メディアリテラシー学習項目中学生・高校生用の検討 (1)委員チェックと事務局チェックの結果報告 (2)ICT メディアリテラシー学習項目の議論 3.中学生・高校生のメディアリテラシーを向上させるためのカリキュラムの検討

第 2 回 有識者委員会	
日時	2010 年 2 月 20 日 13 : 10 ～ 16 : 00
議題	1. 総務省挨拶 2. 事務局挨拶 3. 委員長挨拶 4. 事業進捗報告および検討 4-1.既存教材の調査及びカリキュラムの設計 ・既存教材と ICT メディアリテラシー学習項目との対応付けの確認 ・上記対応付けを元にした「既存教材の整理表」の承認依頼 ・「ICT メディアリテラシー学習項目・中学生・高校生版」の検討 ・「カリキュラム案」の検討 4-2.指導資料等の製作及びモデル授業の実施 ・映像教材の確認 ・モデル授業 1 の紹介 ・モデル授業 2 の紹介 ・アンケートの紹介 5. 報告書の目次案 6. 今後のスケジュール

#### 1-4 本事業のスケジュール

本事業では、以下の 4 つを実施した。

1. 既存教材の調査及びカリキュラム設計
2. 指導資料等の製作
3. モデル授業の実施と指導項目・指導資料等の評価
4. 事業実施に関する報告書の作成

各項目の実施スケジュール詳細は、以下のとおりである。



作業項目	10月	11月	12月	1月	2月	3月
<b>1. 既存教材の調査及びカリキュラム設計</b>						
ア. 既存教材の調査						
①各教材の調査	→					
②調査結果の分析	→	→				
イ. カリキュラム設計						
①指導項目の抽出	→	→				
②指導案の作成	→	→				
<b>2. 指導資料等の製作</b>						
ア. 指導資料						
指導資料製作・修正	→ 作成	→ 修正	→ 修正	→ 修正	→ 修正	● 完成
短時間版指導資料製作・修正	→ 作成	→ 修正	→ 修正	→ 修正	→ 修正	● 完成
イ. ビデオクリップ						
基本設計	→					
シナリオ作成		→	→			
映像収録・編集			→	→	● 完成	
ウ. ワークシート			→ 修正	→ 修正	→ 修正	● 完成
エ. キーシーン黒板用掛図			→ 修正	→ 修正	→ 修正	● 完成
<b>3. モデル授業の実施、指導項目・指導資料等の評価、見直し</b>						
ア. モデル授業の実施					● ●	
イ. アンケート・ヒアリングの実施・分析				→	→	→
ウ. 評価・見直し				→	→	→
<b>4. 報告書の作成</b>						
報告書の作成					→	完成

第 1 期：10 月～11 月

- ・事務局による委員への事業説明
- ・既存教材の調査及び分析
- ・指導のためのカリキュラム設計
- ・指導資料等の試作

第 2 期：12 月～1 月

- ・第 1 回有識者委員会
- ・ビデオクリップの製作

第 3 期：1 月～2 月

- ・第 1 回作業部会
- ・モデル授業の実施
- ・アンケート集計・分析、ヒアリング
- ・指導資料等の修正

第 4 期：2 月～3 月

- ・第 2 回有識者委員会
- ・事業報告書を作成

## 2. 既存教材の調査

### 2-1 目的

インターネットの特性を踏まえた情報の受発信・情報交換についての指導内容に関する、既存の教材を調査し、それらの教材の概要や特徴（内容、指導資料等の有無）を把握するとともに、既存の教材における指導項目の豊富な分野、乏しい分野を明らかにして、カリキュラムの設計に資することを目的とする。

### 2-2 方法

#### 2-2-1 調査対象

本事業で開発する教材が、中学生・高校生を対象とした映像教材であることから、下記の条件にあてはまる教材を調査対象とした。

- ・中学生・高校生を対象とした教材
- ・「インターネットの特性を踏まえた情報の受発信・情報交換についての指導内容」に関する教材
- ・無償で配布されている映像教材

条件に該当するものとして、調査を行った教材は、表 2-1 のとおりである。

表 2-1 事前調査の対象教材

番号	発行元	タイトル名	収録数
1	文部科学省	「ちょっと待って、ケータイ」	4 話
2	警察庁	「情報セキュリティ対策ビデオ」	6 話
3	キッズケータイ活用プロジェクト	「春野家ケータイ物語」	8 話
4	NHK エデュケーショナル	「ケータイ・ネット社会の落とし穴」シリーズ	10 話
5	株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ	「ケータイ安全教室」	5 話
6	財団法人国際電信電話共済会	「ケータイ教室」	10 話
合計			43 話

#### 2-2-2 調査内容

既存教材の概要を把握するため、以下 15 項目について調査した。

- ①教材名 ②開発元 ③内容 ④あらすじ ⑤対象学年 ⑥指導資料等の有無  
⑦ワークシートの有無 ⑧ボードセットの有無 ⑨その他ツールの有無  
⑩情報モラル指導モデルカリキュラム\*1 との対比 ⑪教材の配布方法

⑫再生時間 ⑬価格 ⑭出前授業の有無 ⑮ICT メディアリテラシー学習項目との対比

### 2-2-3 調査方法

- (1) 既存教材に関する Web サイト及び教材に付属する資料を閲覧する。
- (2) 既存教材を視聴し、各教材で扱われている内容が「ICT メディアリテラシー学習項目（小学 5・6 年生用）」\*2 のいずれの項目に該当するか関連付けを行う。
- (3) 1 の関連付けの妥当性を確認するため、有識者委員が既存教材を視聴し、同様に関連付けを行う。関連付けが異なる場合は、コメントを付記する。
- (4) 有識者委員のコメントを元に、既存教材と「ICT メディアリテラシー学習項目（小学 5・6 年生用）」との関連付けについて有識者委員会で再度検討し、決定する。

\*1 「情報モラル指導モデルカリキュラム」は、平成 19 年度 5 月に文部科学省より発表された。学校における情報モラル教育を体系的に推進するため、情報モラルの指導内容を 5 つの分類（1.情報社会の倫理、2.法の理解と遵守、3.安全への知恵、4.情報セキュリティ、5.公共的なネットワーク社会の構築）に整理し、それぞれの分類ごとに、児童生徒の発達段階に応じて大目標・中目標レベルの指導目標を設定したものである。

\*2 「ICT メディアリテラシー学習項目（小学 5・6 年生用）」は、平成 18 年度総務省事業「ユビキタスネット時代における新たな ICT メディアリテラシー育成手法の調査・開発」において承認された、以下の 11 項目から成る学習項目である。

1. ICT メディアの特性を理解する能力
2. ICT メディアを操作できる能力
3. 情報を収集する能力
4. 情報を処理・編集する能力
5. 情報を表現する能力
6. 情報を伝達する能力
7. ICT メディアにおける送り手の意図を批判的に読み解く能力
8. 主体的にコミュニケーションする能力
9. コミュニケーションする相手を尊重する能力
10. ICT メディアを安全に使う能力
11. 情報の権利を保護する能力

11 項目は、それぞれの能力を具体的に定義する小項目に分かれており、小項目は更に「知識・スキル」の項目と「行動」の項目の 2 種類に分かれている。

## 2-3 結果

既存教材の概要を、表 2-2 に記す。教材の個別のストーリーによって異なる③ねらい、④あらすじについては、表 2-3 にまとめた。⑫再生時間については、表 2-6 に記載した。既存教材において扱われている指導項目については表 2-4 としてまとめた。

表 2-2 既存教材の概要 (1/6)

①教材名	ちょっと待って、ケータイ
②開発元	文部科学省
⑤対象	青少年（主要な登場人物が小学生・中学生）、保護者
⑥⑦⑧⑨ 指導資料等の有無	無し
⑩情報モラル指導 モデルカリキュラ ムとの対応	無し
⑪教材の配布方法	DVD 送付、インターネット視聴
⑬価格	無償
⑭出前授業の実施	無し
概要	携帯電話を介してつながるインターネット上の有害情報について、意識啓発することを狙いとした映像教材。全 4 話構成（各 6～7 分）で、メールへの依存、架空請求等の迷惑メール、プロフでの個人情報公開、いわゆる学校裏サイトの誹謗中傷、の 4 つのテーマが取り上げられている。各話毎に解説が付いている。青少年向けと保護者向けの 2 種類の映像が用意されており、DVD のほか Web サイトでの視聴が可能。
詳細	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. メール落とし穴</li> <li>2. ケータイに忍び寄る罠</li> <li>3. プロフの危険な誘惑</li> <li>4. 学校裏サイトの闇</li> </ol>
備考	2010 年 3 月に「ちょっと待って、ケータイ 2」を発表

表 2-2 既存教材の概要 (2/6)

①教材名	警察庁 情報セキュリティ対策ビデオ
②開発元	警察庁
⑤対象	指定無し（主要な登場人物が中学生・高校生）
⑥⑦⑧⑨ 指導資料等の有無	無し
⑩情報モラル指導 モデルカリキュラ ムとの対応	無し
⑪教材の配布方法	インターネット動画
⑬価格	無償
⑭出前授業の実施	無し
概要	インターネット犯罪の被害者にならないための意識啓発を目的とした映像教材。架空請求、学校裏サイト、出会い系サイトなどのテーマが取り上げられている。事例を出しているストーリーもあり、犯罪がいかにして起こり、その被害に遭うのかが詳細に描かれ、危機意識を高める内容となっている。
詳細	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アクセスの代償～あなたの知らないネットの裏側～</li> <li>・ 嘘～出会い系サイトによる犯罪被害に遭わないために～ （第 1 編～第 4 編）</li> <li>・ サイバー犯罪事件簿 2 ～危険なアクセス～</li> </ul>
備考	

表 2-2 既存教材の概要 (3/6)

①教材名	春野家ケータイ物語
②開発元	キッズケータイ活用プロジェクト（旧独立行政法人メディア教育開発センター）協力：株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ
⑤対象	小学校低学年～高校生
⑥⑦⑧⑨ 指導資料等の有無	有り（指導資料、ワークシート、ボードセット）
⑩情報モラル指導 モデルカリキュラムとの対応	有り
⑪教材の配布方法	DVD 送付
⑬価格	無償
⑭出前授業の実施	無し
概要	ケータイに関する情報モラルをテーマとした映像教材。 映像の中では、ケータイの「良い使い方」と「良くない使い方」の両方が取り上げられ、「大切なのはメディアの使い方である」ということを学べるよう構成されている。全 8 話収録（各 10 分程度）で、ケータイをめぐる様々なトラブルに巻き込まれながらも、家族や仲間と話し合い、助け合って解決する展開になっている。
詳細	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第 1 話「忘れずに マナーもいっしょに ケータイしよう」</li> <li>・第 2 話「ケータイの ルールを家族で 話し合い」</li> <li>・第 3 話「ぼくたちの 個人情報 ねらわれる？」</li> <li>・第 4 話「言葉には できない思いを 文字にして」</li> <li>・第 5 話「情報を 発信するのに 守ること」</li> <li>・第 6 話「情報は 信じる前に 裏をとれ」</li> <li>・第 7 話「ケータイで かしこくオトク ショッピング」</li> <li>・第 8 話「立ち向かえ ひきょうな書き込み 深まるキズナ」</li> </ul>
備考	情報モラル指導モデルカリキュラムとの対応有り

表 2-2 既存教材の概要 (4/6)

①教材名	ケータイ・ネット社会の落とし穴
②開発元	NHK エデュケーショナル
⑤対象	小学生～中学生
⑥⑦⑧⑨ 指導資料等の有無	有り (指導資料)
⑩情報モラル指導 モデルカリキュラムとの対応	無し
⑪教材の配布方法	DVD 販売
⑬価格	9.975 円 (税込価格) *3
⑭出前授業の実施	無し
概要	携帯電話とインターネットに関するトラブルを描いた映像教材。メールを介しての友人関係、ネットいじめ、ブログなど、小学生・中学生に身近なテーマを幅広く取り上げている。DVD4 巻に、全 10 話 (各 4 分～14 分) と、各話への解説が収録されている。DVD にはテーマ別学習指導案が同梱されている。学校・図書館での放映や貸し出しが想定されており、そのための著作権処理がされている。
詳細	<p>&lt;ケータイ・ネット社会の落とし穴&gt;</p> <p>Vol.1 ネット社会の道しるべ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 架空請求と個人情報</li> <li>・ メール交換と友達関係</li> <li>・ 掲示板となりすまし</li> </ul> <p>Vol.2 ケータイ社会の落とし穴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ メールと依存症</li> <li>・ ケータイサイトと不正請求</li> </ul> <p>Vol.3 ブログ社会の落とし穴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ブログと個人情報 ～「日常」が「情報」に変わるとき～</li> <li>・ ブログと個人侵害 ～ランキング競争が招くトラブル～</li> </ul> <p>&lt;ネットいじめに向き合うために&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ うちのルール</li> <li>・ 匿名メール</li> <li>・ ネットいじめ</li> </ul>
備考	過去にテレビ放映有り

\*3 過去にテレビ放映の実績があるため、本調査では無償扱いとした。

表 2-2 既存教材の概要 (5/6)

①教材名	ケータイ安全教室
②開発元	株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ
⑤対象	小学生～高校生、保護者、教師、シニア
⑥⑦⑧⑨ 指導資料等の有無	有り（指導資料、テキスト、スライド、ワークシート）
⑩情報モラル指導 モデルカリキュラムとの対応	無し
⑪教材の配布方法	講師派遣、DVD/VHS 送付
⑬価格	無償
⑭出前授業の実施	有り
概要	携帯電話に関する情報モラルやトラブルへの対処法を伝えることを狙いとしている。要望のあった小学校・中学校・高等学校および地域コミュニティなどの団体に講師を派遣し、教室を開講する形式を取っている。講師派遣以外にも、映像教材（DVD/VHS）を学校・団体に無料で配布している。教室・映像教材ともに対象は、小学生向け、中学及び高校生向け、保護者及び教師向け、シニア向け、の4つの内容が用意され、それぞれ対象に適した内容となっている。
詳細	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生・高校生向け</li> <li>ケータイの安心・安全な使い方、使う上でのルールやマナーを、被害者の立場と加害者の立場それぞれの観点から具体的な事例を紹介しながらスライドで説明</li> <li>1.ケータイのこと正しく知ってる？</li> <li>2.メールがきっかけでトラブルに？</li> <li>3.トラブルから身を守る機能ってある？</li> <li>4.加害者にならないためには？</li> <li>5.ケータイと正しく付き合うためには？</li> </ul>
備考	講師育成研修有り



表 2-2 既存教材の概要 (6/6)

①教材名	ケータイ教室
②開発元	財団法人国際電信電話共済会 (KDDI 共済会)
⑤対象	小学生～高校生、保護者、教師
⑥⑦⑧⑨ 指導資料等の有無	有り (テキスト)
⑩情報モラル指導 モデルカリキュラムとの対応	無し
⑪教材の配布方法	講師派遣、DVD 送付
⑬価格	無償
⑭出前授業の実施	有り
概要	携帯電話を使用する際のルールとマナー、トラブルの対処法などをテーマとしている。要望のあった小学校に講師を派遣し教室を開講する形式を取っており、主として高学年を対象とする。教室とは別に映像教材とテキスト教材も用意されており、無料で配布している。テキスト教材は、小学生向け、中学生・高校生向け、保護者・教師向けの 3 種類がある。映像は全 10 話収録で、コミュニケーションサイトやプロフなど、子どもたちが巻き込まれやすいトラブルを描いている。
詳細	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「コミュニケーションサイト」篇</li> <li>2. 「プロフ」篇</li> <li>3. 「すれ違いメール」篇</li> <li>4. 「チェーンメール」篇</li> <li>5. 「なりすましメール」篇</li> <li>6. 「犯罪予告」篇</li> <li>7. 「ネット犯罪」篇</li> <li>8. 「ネットいじめ」篇</li> <li>9. 「マナー」篇</li> <li>10. 「子どもたちを守るために」篇</li> </ol>
備考	

以下、表 2-3 に、教材の個別のストーリーごとに、内容とあらすじをまとめる。  
「③内容」「④あらすじ」の③④は、前述 2-2-2 「調査内容」の項目番号である。

表 2-3 既存教材の内容、あらすじ (1/10)

教材名	テーマ	③内容	④あらすじ
ちょっと待って、ケータイ	1. メール依存 (メールの落とし穴)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文字だけでは本当の気持ちが伝わらない。</li> <li>・メールを送るときは、相手の状況を考える。</li> <li>・友だちとの間で、携帯電話のルールを作る。</li> <li>・チェーンメールは絶対に転送しない。</li> </ul>	小学生の女儿が友だちと携帯電話のメールをやりとりしている。すぐに返信するため、食事中も携帯電話を手放すことができず、就寝時間が深夜になっている。最近「即レス」へのプレッシャーを感じ始めた。友だちと話し合い、メールだけのやりとりではなく、会って話す大切さを知る。
	2. 架空請求等の迷惑メール (ネットの罠)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・覚えのないメールは無視する。</li> <li>・不当請求されても、お金は払わない。</li> <li>・トラブルにあったときは、保護者や先生に相談する。</li> </ul>	小学生の男児は、母親が仕事をしているので、連絡用に携帯電話を渡された。いつもは、ケータイゲームを楽しんでいる。ある日、「無料でゲームソフトを提供します」と書かれたサイトを見ていて「配信停止」のボタンを押したところ、それをきっかけに、架空請求、不当請求のメールがたくさん送られてきた。
	3. プロフの危険性 (プロフの危険な誘惑)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネット上で、自分の情報を教えない。</li> <li>・ネット上に流れた情報は、取り戻すことができない。</li> <li>・ネット上で知り合った人と会うのは、もっと危険なこと。</li> <li>・ネットの向こう側には、悪意のある大人が潜んでいる可能性がある。</li> </ul>	中学生の女子生徒が、プロフを始めた。ある日、男子高校生からの書込みがあった。女子生徒は、悩みなどを聞いてもらって、いい先輩だと思えるようになった。一度、直接会うことになって、待ち合わせの場所に行ってみると、男子高校生とは似ても似つかぬ大人が待ち受けていた。
	4. 学校裏サイトによる誹謗中傷 (学校裏サイトの闇)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・匿名でネットいじめを行う行為は、卑劣な行為である。</li> <li>・悪質な書込みをした人は、特定できる。</li> <li>・ネット上の書込みは、多くの人の目にさらされるため、いじめに発展する。</li> <li>・文字表現はきつく感じるため、書込みには十分注意する。</li> <li>・文字だけでは、気持ちは十分に伝わらない。</li> <li>・いじめにあったときは、ひとりで抱えこまない。保護者や先生に相談する。</li> </ul>	中学 2 年生の男子生徒が、学校裏サイトにクラスの優等生の女子生徒のことを書き込んだ。すると、それをきっかけに女子生徒の悪口、誹謗中傷が相次いで書き込まれた。また、女子生徒になりすましたにせのプロフが公開された。それを見た女子生徒は傷ついて、学校を休むようになってしまった。

【参照】「ちょっと待って、ケータイ」視聴用ページ  
[http://www.elnet.go.jp/elnet\\_docs/keitai-dvd.htm](http://www.elnet.go.jp/elnet_docs/keitai-dvd.htm)

表 2-3 既存教材の内容、あらすじ (2/10)

教材名	テーマ	③内容	④あらすじ
情報セキュリティ対策ビデオ～アクセスの代償～	ネットでの誹謗・中傷 トラブル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SNS、ブログなどのコミュニティサイトを通じて楽しむ一方で、さまざまな危険が潜んでいる。</li> <li>・プロフなどに個人情報をのせない。</li> <li>・他人の個人情報を許可なく掲載することは、慎む。</li> <li>・オンラインゲームの不正アクセスの被害にあわないように、自分のパスワードを他人に教えない。</li> </ul>	<p>中学3年生のあおいは、ケータイを使ってメールやプロフなどを楽しんでいる。同級生の伸吾は、勉強の息抜きにオンラインゲームをするのが楽しみ。ある日、あおいは「学校裏サイト」でクラスメイトが誹謗・中傷されているのを知る。一方伸吾は、ゲームの対戦相手にだまされ、アイテムを全部とられてしまう。</p>
情報セキュリティ対策ビデオ～嘘～	出会い系サイトによる犯罪の危険性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出会い系サイトで被害にあった人の8割以上が18歳未満である。</li> <li>・遊ぶためのお金を得たいという軽い気持ちから出会い系サイトを利用し、いかがわしい写真を撮られ、脅迫された事例を紹介。</li> <li>・法律で禁止されている行動を提示。</li> <li>・出会い系サイトで知り合った人と会い、暴行を受けた結果死亡した女子高生の事例を紹介。</li> <li>・写真やプロフィールがいいからといって、すぐ信じてしまうと、思わぬ被害を受ける。</li> <li>・ちょっとした遊び感覚で始めた売春行為で逮捕された女子高生の事例を紹介。</li> </ul>	<p>遊ぶためのお金を得たいという軽い気持ちから出会い系サイトを利用し、いかがわしい写真を撮られ、脅迫された事例を紹介。金銭目的での掲示板の書き込みや、相手の財布からお金を抜き取ることは法律に違反することも指摘している。</p> <p>写真やプロフィールがいいからといって、すぐ信じてしまうと、思わぬ被害を受ける。出会い系サイトで知り合った人と会い、暴行を受けた結果死亡した女子高生の事例を紹介。</p> <p>ちょっとした遊び感覚で始めた売春あつせんで逮捕された女子高生の事例を紹介。法律で禁止されている行動を提示。</p> <p>写真やプロフィールがいいからといって、すぐ信じてしまうと、思わぬ被害を受ける。ネットの向こうの相手が女性とは限らない。女性と信じて、自分の裸の写真を送ってしまい、それがネットに流出してしまう。</p>
情報セキュリティ対策ビデオ～サイバー犯罪事件簿 2～	ネット詐欺と架空請求	<p>ネット・オークション詐欺の注意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人や物事を簡単に信用しない。</li> <li>・十分注意して、確認をとる。</li> <li>・事件に巻き込まれたと思ったら、警察に相談する。</li> </ul> <p>フィッシング詐欺の注意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・銀行などの金融機関を装ったメールなどに暗証番号、クレジットカードの番号などを入力しない。</li> </ul>	<p>父はインターネットオークションで詐欺に合い、息子はアダルトサイトのしつこい架空請求に悩まされ、娘は出会い系サイトで知り合った男にストーカーのように付きまわられている。さらに、母が作っているホームページに何者かが不正アクセスし、スパイウェアを感染させるソフトが仕込まれていた。</p>

【参照】 警視庁サイバー犯罪対策 情報セキュリティ対策ビデオ

<http://www.npa.go.jp/cyber/video/index.html>

表 2-3 既存教材の内容、あらすじ (3/10)

教材名	テーマ	③内容	④あらすじ
春野家 ケータイ物語	ルールやマナーを守る (忘れずにマナーもいっしょにケータイしよう)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケータイを使うと、いつでも、どこでも、連絡をとることができる。</li> <li>・ケータイは、使う場所や場面など、ルールやマナーを守らないと、周りの人に迷惑をかける場合がある。</li> <li>・「ながらケータイ」は、大変危険な行為である。</li> <li>・ルールやマナーは、お互いが気持ちよく過ごすため、また、安全・安心に暮らすためにある。</li> </ul>	春野家のメンバーを紹介しながら、ケータイ利用の基本であるマナーを中心にストーリーが展開。中学生の夏樹は、電車の中で、マナー違反に遭遇する。一方、母親の明子は、授業参観中に携帯電話が鳴りだし、小学生の夏美にたしなめられる。祖父の誠一郎が「マナーを守るのはむずかしいことではなく、周りの人をいやな気持ちにしないこと」と諭す。
	安全な利用とルール作り ーケータイのルールを家族で話し合い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが使っているケータイは、親が契約して借りているものなので、親とよく相談し、家族で話し合うことが大切である。</li> <li>・ルールは、使用する機能、使用する時間帯、利用場所、利用金額などを盛り込む。</li> <li>・子ども用ケータイの安全・安心機能である防犯ブザー、居場所を知らせる機能について、理解する。</li> </ul>	ケータイを使うときの約束を家族で話し合う。夏樹は、友だちとのメールのやりとりで、ついつい夜更かししてしまう。父幸市は、他の兄弟も含めて「家族のルールを決める」と言い出す。
	個人情報の保護 (ぼくたちの個人情報ねられる?)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チェーンメールは絶対に転送しない。チェーンメールを送ると、個人情報も送られてしまうことがある。</li> <li>・アンケートや懸賞が当たったなどといった手口で、個人情報が聞き出されることがある。</li> <li>・ケータイに保存してある個人情報が流出しないよう、パスワードを設定する。</li> </ul>	ある日、春野家の望美のところに、チェーンメールが送られてきた。高校生の兄・啓太は、ネット上のサイトでアンケートに答えてしまい、個人情報を漏洩してしまった。
	相手を思いやるコミュニケーション (言葉にはできない思いを文字にして)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気持ちが伝わるコミュニケーションの基本は、相手への思いやりである。</li> <li>・メールでこそ伝えられる気持ちや場面がある。</li> <li>・気持ちを伝えるには、さまざまな表現手段があり、それぞれの長所、短所を知って、状況に応じて使い分ける。</li> <li>・日常生活の場面では、相手に伝えたいことが伝わらなかつたり、誤解を受けてしまうことがある。</li> </ul>	啓太は、カナという同級生をメールでデートに誘った。妹の夏樹は、デートプランをアドバイスし、初デートは成功。カナから啓太に「また誘ってね」というメールが届く。
	責任ある情報発信 (情報を発信するのを守る)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報発信のルールとマナーをきちんと考える。</li> <li>・文章、イラスト、キャラクターなどの著作物は著作権者の了解を得ないで、勝手にのせることはできない。</li> <li>・人物の写真を勝手にのせると、肖像権の侵害になる。</li> </ul>	ブログからの情報の発信者の責任を考える。夏樹は、ブログを立ち上げた。花の写真や花ことばをのせ、友だちの評判も上々。新しいネタを探しているうちに、妹の望美の寝顔をのせてしまった。

表 2-3 既存教材の内容、あらすじ (4/10)

教材名	テーマ	③内容	④あらすじ
春野家 ケータイ物 語	情報の信憑性 (情報は信じる前に 裏をとれ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットから、生活に役立つ情報を入手することができる。</li> <li>・しかし、インターネットには常に正しい情報が発信されているとは限らないので、情報の信憑性を確かめる必要がある。</li> </ul>	ネットの情報の使い方について考える。啓太は、カナとのデート中の会話をどうしたら盛り上げることができるかを考えている。望美は、カナが好きなお笑いのブログを紹介。ブログに掲載されたお笑いライブにでかけてみると、ライブは行われていなかった。
	電子商取引 のルール (ケータイでかしこ くオトクにショッピ ング)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットの商取引を利用することで、実際にお店に行かなくても、商品を購入することができる。</li> <li>・インターネットの商取引は、届いた商品が想定したものと異なるなど、経済的な被害を受けることがある。</li> </ul>	インターネット・ショッピングやオークションの利点と注意点を考える。母親の明子は、インターネットのオークション・サイトで、セーターを落札。次にカーディガンも落札したが、色がちがっていた。
	掲示板の使い方 (立ち向かえ！ひき ょうな書き込み 深 まるキズナ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・掲示板での書き込みは、誰が書いたかわからないので、不安が増長しやすい。</li> <li>・誹謗中傷を書き込まれた側は、相手や内容に対して不安感を持つ。</li> <li>・不安になっている友だちを支えるには、仲間がいることを知らせる。</li> <li>・掲示板への書き込みは、誰がどこで書いたかわかる。</li> </ul>	掲示板の正しい使い方について考える。掲示板に、啓太へ執拗ないやがらせの書き込みが続き、実際にいじめも始まった。誰が書いているのかわからず、啓太は不安をつのらせた。家族は、一致団結していじめに立ち向かう。

【参照】キッズケータイ活用プロジェクト  
<http://kids-ktai.jp/>

表 2-3 既存教材の内容、あらすじ (5/10)

教材名	テーマ	③内容	④あらすじ
ケータイ・ネット社会の落とし穴 vol.1	1. 架空請求と個人情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報をむやみに教えない。</li> <li>・ネット社会には悪意のある人もいる。</li> <li>・被害にあったときは、大人に相談する。</li> </ul>	子どもたちの間でアダルトサイトがひそかに話題になっている。マモルは興味本位でアクセスし、サイトの誘いに騙されて、個人情報を送ってしまう。そして数日後、マモルの元に高額な請求が来た。
	2. メール交換と友達関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メールの特性（相手の顔が見えない、文字の伝達）</li> <li>・メールの使い方を間違えると、人間関係が悪化することがある。</li> <li>・メールを転送するときは、相手のメールの内容をそのまま転送しない。</li> <li>・メールでコミュニケーションするときは、相手の心を傷つけないように、注意する。</li> </ul>	由衣、奈菜、咲は、いつもメールを交換している仲良し3人組。しかし、ちょっとしたメールの表現や引用がきっかけで、誤解を生じてしまった。やがて、3人の友情にひびが入ってしまう。
	3. 掲示板となりすまし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・掲示板で知り合った人と会わない。</li> <li>・ネット社会には、悪意のある人もいる。</li> <li>・インターネットは便利だが、陰の部分もあるので、慎重に利用する。</li> </ul>	あさみは、人気音楽グループが大好き。ファンクラブの掲示板で、女子大生と名乗る人物と知り合いになり、実際に会うことになった。しかし、待ち合わせ場所に現れたのは…。
ケータイ・ネット社会の落とし穴 vol.2	1. メールと依存症	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケータイの使い方、メールの送受信について考える。</li> <li>・ケータイの活用が自分の生活にどのような影響を与えているかを考える。</li> </ul>	中学生の麻耶は、友だちからのメールにすぐに返信しなければと思いこんでいる。友だちの葬からの返信がなかなか来ないことにいらつき、食事中でもケータイを手放すことができない。やがて麻耶はケータイ依存症になっていく。
	2. ケータイサイトと不正請求	<ul style="list-style-type: none"> <li>・詐欺メール、架空請求・不当請求メールなどの事例を説明し、具体的な対応策（「無視する」「返信しない」「保護者や先生に相談する」など）を理解する。</li> <li>・架空請求・不当請求メールが送られるしくみを説明。</li> </ul>	男子中学生の信吾のところに「あや」からメールが届く。信吾は気になって返信したところ、やがて請求のメールが届き、督促の電話もかかってくるようになった。誰にも相談できない信吾は、母親の財布に手を伸ばす…。
ケータイ・ネット社会の落とし穴 vol.3	1. ブログと個人情報～「日常」が「情報」に変わるとき～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブログからの個人情報の流出を防ぐ。個人情報を書かなくても、学校の様子や学校や家での出来事を継続して発信することにより、発信者が特定される。</li> <li>・ブログから発信するときは、肖像権を侵害しないように注意する。</li> </ul>	ありさは、最近ブログを立ち上げた。日常生活のできごとや日頃思っていることをブログから発信している。ありさに好意を持つ同級生の静夫は、ありさのブログを探し出した。ブログに書かれたありさの「日常」は、次第にありさを知るための「情報」へと変わっていく。一方、ありさのブログに関心を持つ別の男もいた。

表 2-3 既存教材の内容、あらすじ (6/10)

教材名	テーマ	③内容	④あらすじ
ケータイ・ネット社会の落とし穴 vol.3	2. ブログと権利侵害～ランキング競争が招くトラブル～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブログには正確な情報を掲載する。</li> <li>・ブログから発信するときは、著作権を侵害しないように注意する。無断で他人の文章、画像、音楽、イラストなどを載せない。</li> <li>・ブログから発信するときは、人を傷つけてしまうような内容を書かない。人を思いやる。</li> </ul>	<p>中学校の新聞委員の 3 人は、ブログを立ち上げ、アクセス数のランキングを上げようと競争している。リーダーの進が「みんなが興味を持つような内容に変えよう！」という言葉をきっかけに、ランキング競争が激化していく。次第に、友だちのうわさを流すなど、他人の画像や音楽をダウンロードできるようなブログに変わってしまった。</p>
ネットいじめと向き合うために	1. うちのルール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メールの特性（相手の様子が見えない、手軽に連絡できるなど）</li> <li>・メールを利用する際のルールを作る（夜遅くにメールを送らない、相手にも都合があることを理解したうえでメールを送る など）</li> <li>・メールは、都合がいいときに返信すればよい。</li> </ul>	<p>仲良し 3 人組。新しくケータイを購入した楓は、恵理や美沙からのメールにすぐに返信せず、メールの分量も少ない。そこで、恵理と美沙は、楓のことを無視し、2人でケータイメールに関する「うちのルール」を作ることにした。しかし、美沙はだんだん夜遅くのメールの返信に疲れてきた。恵理と美沙は、仲間うちのルールでお互いに縛ることを反省し、3人は仲直りした。</p>
	2. 匿名メール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットの特性、ネット上で起こっている問題</li> <li>・匿名メールの被害にあったときの対処法</li> <li>・トラブルを一人で抱え込まない。</li> <li>・ネット上では、発信者が特定されることを認識したうえで、情報を発信する。</li> </ul>	<p>中学生の亨のもとに、毎日数十件の匿名メールが送られてくる。その内容は「ウザイ」「キモい」など、誹謗中傷ばかり。亨は、複数のアドレスから送られてくる匿名メールに悩まされる。亨と母親が警察に相談したところ、匿名メールのメールの送り主は、塾の友だちの郁夫であることを突き止めた。</p>
	3. ネットいじめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめの被害者が安心していられる場所を確保する。家庭と学校が連携する。</li> <li>・加害者のいじめをしてしまう原因を取り除く。</li> <li>・ネットいじめは解決できる。</li> <li>・ネットいじめが発生したら、信頼できる大人に相談する。</li> </ul>	<p>掲示板でのささいな書込みをきっかけに、サイト上での佳奈へのいじめが始まった。中傷の書込みは増大し、佳奈は、学校での居場所を失ってしまった。先生や友人は、どのような対策をとって、いじめを解決していくのかを追う。</p>

【参照】ケータイ・ネット社会の落とし穴

[http://www.nhk-ep.com/shop/commodity\\_param/shc/0/cmc/09529AA](http://www.nhk-ep.com/shop/commodity_param/shc/0/cmc/09529AA)

表 2-3 既存教材の内容、あらすじ (7/10)

教材名	テーマ	③内容	④あらすじ
ケータイ安全教室	1.ケータイのこと正しく知ってる？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活のさまざまな場面で使われるケータイの機能 (電話、メール、インターネット、写真撮影、音楽のダウンロードなど)</li> <li>・ケータイを使った犯罪に巻き込まれる危険性</li> </ul>	ケータイの機能を悪用した犯罪やトラブルが増えていること、中高生を狙った犯罪が年々増えていること、中高生が悪意を持った者のターゲットにされていることに注意を喚起。自分自身が加害者、被害者にならないように、ルールとマナーを守ることを呼びかける。
	2.メールがきっかけでトラブルに？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・迷惑メールの種類 (出会い系サイト誘引メール、チェーンメール、架空請求メール、ワンクリック詐欺誘引メール、販売系メールなど)</li> <li>・事件に巻き込まれないための対処方法</li> <li>・出会い系サイトの手口と犯罪に巻き込まれる危険性 (出会い系サイト規制法、誘った子どもも罰せられる)</li> </ul>	迷惑メールを受け取ったときの注意ポイント(身に覚えのないメールは無視する、安易に返信したり、URLをクリックしたりしない)、出会い系サイトに関係した事件の被害者は女子生徒が圧倒的に多いことに注意を喚起している。出会い系サイトに関係した事件を未然に防ぐための「出会い系サイト規制法」を紹介する。
	3.トラブルから身を守る機能ってある？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・迷惑メールの届く仕組み</li> <li>・被害者にならないための安心・安全のサービス (受信/拒否設定)</li> <li>・有害サイトにつながらなくなるサービス (フィルタリングサービス)</li> </ul>	迷惑メールを受信しないための受信/拒否設定、フィルタリング(アクセス制限)サービスを紹介。 2009年4月「青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備等に関する法律」により、ケータイを購入するときはフィルタリングサービスに加入することを説明している。
	4.加害者にならないためには？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チェーンメールの種類と対処方法 (幸福/不幸の手紙系、宣伝系、募集系、誹謗中傷系など)</li> <li>・インターネット上のコミュニケーションツールを利用する際の注意点 (プロフ、SNS、ブログ、肖像権の侵害、個人情報の流出など)</li> <li>・書込みがエスカレートすることの危険性 (学校裏サイトなど)</li> <li>・インターネットの非匿名性と法律について (犯行予告など)</li> </ul>	チェーンメールが回ってきたら、転送しないこと、削除して自分のところで止めることを注意を促す。「プロフ・ブログ」の再現ドラマでは、プロフに顔写真や個人情報をのせたこと、リアルに自分の行動をリアルタイムに書き込んだことにより、ストーカーに狙われる危険性を提示している。 「学校裏サイト」の再現ドラマでは、クラスメイトのなにげない書込みが発端で、他のクラスメイトの書込みの内容がエスカレートした事例を扱っている。自分が悪口を書き込まれたらどういう気持ちになるのか相手の立場になって考えることについて、注意を促している。



表 2-3 既存教材の内容、あらすじ (8/10)

教材名	テーマ	③内容	④あらすじ
ケータイ安全教室	5.ケータイと正しく付き合うためには？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・節度ある使い方をするために(ケータイ依存、高額請求)</li> <li>・ルール・マナーを守った安全な使い方の重要性</li> </ul>	「ケータイ依存」の再現ドラマでは、友だちからのメールに「即レス」するために、食事中もお風呂に入っているときもケータイを手放せない主人公が、ケータイに振り回されずに、友だちとコミュニケーションすることの大切さに気づく。主人公は、友だちの顔をうかがってまでメールを送ることをやめることにした。

【参照】ケータイ安全教室

<http://www.nttdocomo.co.jp/corporate/csr/social/educational/safety/index.html>

表 2-3 既存教材の内容、あらすじ (9/10)

教材名	テーマ	③内容	④あらすじ
ケータイ教室	1. 「コミュニケーションサイト」篇 ～コミュニケーションサイト～出会いの先にあるワナ～	インターネットを通じて知り合った相手に暴力を受けたり、お金をだまされたりする事件が増えている。出会い系サイトはもちろん、ゲームサイト、プロフィールサイトなど、コミュニケーションサービスにも危険が潜んでいるので、注意する。	高校生のクミコは、ゲームサイトで知り合った「アキオ」という名前の男子生徒とゲーム攻略法などについて、情報を交換している。ある日、直接会うことになって、待ち合わせ場所に出かけると、ゲームサイトに掲載している写真とは似ても似つかぬ男性が現れた。
	2. 「プロフ」篇 ～見ているのは友達だけじゃない～	ケータイから書き込んでいる情報は、誰が見ているのかわからない。一度書き込んだ情報は、消すことができない。名前、連絡先、友だちや家族などの個人情報は、悪用されないよう、インターネット上に公開しない。	高校生のユカコは、最近プロフデジューした。本名、顔写真、生年月日などの個人情報をのせてしまった。すぐに友だちの書込みがあったが、見ず知らずの人の書込みもあった。そこには「今日は帰りが遅かったね」「ファミレスの制服がかわいい」など、ストーカーと思われるような内容があり、ユカコは怖くなった。
	3. 「すれ違いメール」篇 ～文字では伝わらない気持ちがある～	「〇分ルール」といった相手の事情を考えずに、すぐに返信することを強要するようなメールのやりとりをやめる。また、直接話せば、相手の表情は声の調子、話し方でわかることが、メールではうまく伝わらず、思わぬ誤解からトラブルになったり、友だちを傷つけたりすることもあるので、メールを送る前に、内容を確認する。	家族で家族旅行の話で盛り上がっていたとき、友だちのクミコから「買い物につきあってくれない？」とメールが来た。ユカコは、「今取り込み中」と返信したところ、無視されたと誤解したクミコは、怒ってしまう。
	4. 「チェーンメール」篇 ～その情報はウソ？ホント？～	チェーンメールは転送せずに、削除する。	小学生のココミのところに「ラッキーメール」が届いた。不安に感じたココミは、友だちにメールを転送してしまった。
	5. 「なりすましメール」篇 ～思わぬ人から思わぬメールが～	なりすましメールの被害にあわないために、なりすましメールを受信しないように設定し、むやみにメールアドレスを教えない。	ユカコの部活の友だちが学校を休んでいる。その理由は、ユカコになりすました人がいやがらせのメールを送ったのが原因らしいことがわかった。
	6. 「犯罪予告」篇 ～ネット掲示板への書き込みが犯罪に！！～	通信記録から、書き込んだ犯人を特定することができるので、悪口や犯罪に発展するような書き込みはしないようにする。	マラソン大会に参加したくないユカコとクミコは、掲示板に「マラソン大会を中止しろ。これに従わないと、生徒に危害が加わるぞ」と書き込んだ。

表 2-3 既存教材の内容、あらすじ (10/10)

教材名	テーマ	③内容	④あらすじ
ケータイ教室	7.「ネット犯罪」篇 ～突然届く「迷惑メール」～	迷惑メールは無視する。注意点は、 ①知らない人からのメールには返信しない。 ②迷惑メールのリンク先をクリックしない。 ③覚えのない請求メールや脅迫メールは無視する。 ④個人情報を教えない。	ココミのところに「絵文字ダウンロード無料。登録はこちら」とのメールが来て、登録するサイトの URL をクリックしてしまった。すると、出会い系サイトにつながり、登録料の支払いを促す画面が表示された。ユカコのところにも音楽取り放題サイトから延滞料の支払いを促すメールが届いた。「覚えのない人はこちらに連絡してください」と書いてあったので、ユカコは、電話してしまう。
	8.「ネットいじめ」篇 ～軽い気持ちで始まる犯罪～	メールや学校裏サイトなどを利用したいじめが増えている。軽い気持ちで始めたことが、だんだんエスカレートし、最後にはいじめられた生徒が不登校になったり、自殺してしまったりといった事件が起こっている。ケータイを使うときのルールを守る。	ユカコがクラスメートの男子生徒と仲良くしていることがきっかけで、学校裏サイトに悪口を書かれた。
	9.「マナー」篇 ～ケータイのマナーを守ろう～	ケータイを使うときには、時間と場所にあわせて守らなければいけないマナーがある。 ①使ってはいけない場所 電車やバスの優先席近く、飛行機の中、病院の中など、ケータイの利用が禁止されている場所では、ケータイの電源を切る。 ②使うと迷惑な時間には、ケータイの利用を避ける。 ③カメラの使い方について注意	ココミがケータイを使いながら自転車に乗っていたことを母親から注意された。その後で、親子で、場所ごとにケータイを使用するときのマナー、カメラの使い方について、話し合った。
	10.「子どもたちを守るために」篇 ～「ケータイルール」作り～	ケータイから起こるトラブルや犯罪から子どもたちを守るために、まずは家庭の中で次のことに取り組む。 ①ケータイを使う目的を明確にして、ケータイの使い方を話し合い、家族全員が守るルールを作る。 ②ルールに合わせて、ケータイの制限設定をする。 ③ケータイの使用状況を見守り、ルールを見直す。 ④トラブルが発生した場合は、子どもの相談をよく聞き、解決に向けて行動する。	ココミは、最近ケータイに「ロック」をかけた。両親が、だれと話しているのか、メールをやりとりしているのか教えてほしいと頼んでも、「プライバシーの侵害」といって、いうことを聞かない。一方、ユカコは「フィルタリングを解除して」といいだした。

【参照】ケータイ教室＜マナーと正しい使い方＞  
<http://www.kddi.or.jp/kyoshitsu/index.html>

表 2-4 は、既存教材において扱われている指導項目についての調査結果である。

表中の、●は事務局が行った関連付け、○は有識者委員が行った関連付けを示す。また、網掛けの箇所は、事務局と有識者委員の関連付けに差異があった箇所を示す。関連付けは、ICT メディアリテラシー学習項目（小学校 5・6 年生用）の小項目をベースとして行っており、小項目レベルで 1 つでも差異があった場合に、網掛けを付けている。

表 2-4 については有識者委員会及び作業部会で検討し、有識者委員の関連付け（○）を最終的な結果として承認し、カリキュラム作成の参考とした。

表 2-4 既存教材において扱われている指導項目

通し	識別	開発元	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11												
			ICTメディアの特性を理解する能力 <インターネットの特性を理解し、適切な情報発信ができる>	ICTメディアを操作できる能力 <ソフトウェアやハードウェアの仕組みを理解し、正しく操作できる>	情報を収集する能力 <適切なメディアを選択し、正しい情報を収集できる>	情報を処理・編集する能力 <適切な情報を評価・選択し、その情報を加工・整理できる>	情報を表現する能力 <情報の特性や表現方法を理解し、自分なりに情報を表現できる>	情報を伝達する能力 <受け手や情報の特性等を踏まえ、適切な情報を伝達できる>	ICTメディアにおける送りの意図を批判的に読み解く能力 <情報が及ぼす影響を理解し、収集した情報に対し、適切な判断ができる>	主体的にコミュニケーションする能力 <社会生活の中でのICTメディアが果たしている役割や有用性を理解した上で、他の人と積極的にコミュニケーションできる>	コミュニケーションする相手の尊重する能力 <コミュニケーションを大切にする考え方を理解し、ルールやマナーを守ることができる>	ICTメディアを安全に使う能力 <情報に対する責任や不適切な情報への対処方法を理解し、インターネットを安全に使うことができる>	情報の権利を保護する能力 <著作権や肖像権などの権利を理解し、それらの権利を守ることができる>												
1	M-1	文部科学省	●	○																					
2	M-2	文部科学省																							
3	M-3	文部科学省	●	○																					
4	M-4	文部科学省	●	○																					
5	K-1	警察庁	●	○																					
6	K-2	警察庁																							
7	K-3	警察庁	●	○																					
8	K-4	警察庁	●	○																					
9	K-5	警察庁	●	○																					
10	K-6	警察庁	●	○																					
11	D-1	キッズケータイ活用プロジェクト																							
12	D-2	キッズケータイ活用プロジェクト																							
13	D-3	キッズケータイ活用プロジェクト																							
14	D-4	キッズケータイ活用プロジェクト	●	○																					
15	D-5	キッズケータイ活用プロジェクト	●	○																					
16	D-6	キッズケータイ活用プロジェクト																							
17	D-7	キッズケータイ活用プロジェクト																							
18	D-8	キッズケータイ活用プロジェクト	●	○																					
19	N-1	NHKエデュケーショナル																							
20	N-2	NHKエデュケーショナル	●	○																					
21	N-3	NHKエデュケーショナル	●	○																					
22	N-4	NHKエデュケーショナル	●	○																					
23	N-5	NHKエデュケーショナル	●	○																					
24	N-6	NHKエデュケーショナル	●	○																					
25	N-7	NHKエデュケーショナル	●	○																					
26	N-8	NHKエデュケーショナル	●	○																					
27	N-9	NHKエデュケーショナル	●	○																					
28	N-10	NHKエデュケーショナル	●	○																					
29	NT-01	株式会社エヌ・ティ・ティ・コム																							
30	NT-02	株式会社エヌ・ティ・ティ・コム																							
31	NT-03	株式会社エヌ・ティ・ティ・コム																							
32	NT-04	株式会社エヌ・ティ・ティ・コム	●	○																					
33	NT-05	株式会社エヌ・ティ・ティ・コム	●	○																					
34	KD-01	財団法人国際電話共済会																							
35	KD-02	財団法人国際電話共済会	●	○																					
36	KD-03	財団法人国際電話共済会	●	○																					
37	KD-04	財団法人国際電話共済会	●	○																					
38	KD-05	財団法人国際電話共済会	●	○																					
39	KD-06	財団法人国際電話共済会	●	○																					
40	KD-07	財団法人国際電話共済会																							
41	KD-08	財団法人国際電話共済会	●	○																					
42	KD-09	財団法人国際電話共済会																							
43	KD-10	財団法人国際電話共済会																							
			28	25	0	0	2	2	0	0	0	0	0	9	10	3	4	0	1	13	17	22	22	5	6

\*保護者向けにて該当なし

## 2-4 考察及び結論

既存教材と ICT メディアリテラシー学習項目（小学 5・6 年生用）の関連付けについて、表 2-4 を元に、既存教材における取扱いの多さによって「ICT メディアリテラシー学習項目（小学 5・6 年生用）」の 11 項目を以下のように分類した（表 2-5）。

表 2-5 学習項目の頻出度

取扱い	頻出度	ICT メディアリテラシー学習項目（小学 5・6 年生用）
多  ↓	1	1. ICT メディアの特性を理解する能力 6. 情報を伝達する能力 9. コミュニケーションする相手を尊重する能力 10. ICT メディアを安全に使う能力
	2	3. 情報を収集する能力 7. ICT メディアにおける送り手の意図を批判的に読み解く能力 11. 情報の権利を保護する能力
少	3	2. ICT メディアを操作できる能力 4. 情報を処理・編集する能力 5. 情報を表現する能力 8. 主体的にコミュニケーションする能力

上記表 2-5 で、頻出度が 1 に分類される項目は、既存教材において取扱いが多い項目、頻出度が 2 と分類される項目は、既存教材において取扱いはあるが多くはない項目、頻出度が 3 のものは、既存教材において取扱いが少ない項目である。

頻出度 2 と 3 に分類される項目は、中学生・高校生においても必要とされる内容と考えられるにも関わらず、既存教材では扱いが少ない。かつ、頻出度 2 と 3 の項目は、本事業においてその向上を目指す「虚実が混在するインターネット上の情報を主体的に読み解く能力」及び「インターネットの特性を理解した上で、メールやブログなどの情報を適切に受発信し、情報交換できる能力」に結びつく内容でもある。

この考察を受けて、頻出度 2 及び 3 の項目の内容を必要な指導項目とみなし、カリキュラムに取り入れることとした。この方針について、有識者委員会で合意を得た。

2-5 付録

表 2-6 既存教材の詳細 (1/2)

教材名	テーマ	再生時間	対象	指導資料	ワークシート	ボードセット	ツール類その他	価格	媒体	出前授業	情報モラル指導モデルカリキュラムとの対応	ICTメディアリテラシーとの関連付け
「ちょっと待って、ケータイ」	1. メール依存	7分 35秒	青少年、 保護者	×	×	×	×	無料	DVD・ ネット動画	無	指定なし	1.6.9.10
「ちょっと待って、ケータイ」	2. 架空請求等の 迷惑メール	5分 37秒	青少年、 保護者	×	×	×	×	無料	DVD・ ネット動画	無	指定なし	10
「ちょっと待って、ケータイ」	3. プロフの危険性	7分 59秒	青少年、 保護者	×	×	×	×	無料	DVD・ ネット動画	無	指定なし	1.6.10
「ちょっと待って、ケータイ」	4. 学校裏サイトによる 誹謗中傷	7分 15秒	青少年、 保護者	×	×	×	×	無料	DVD・ ネット動画	無	指定なし	1.6.9
情報セキュリティ 対策ビデオ ～アクセスの代償 あなたの知らない ネットの裏側～	ネットでの誹謗・ 中傷トラブル	26分 40秒	指定なし	×	×	×	×	無料	ネット動画	無	指定なし	1.7.9.10
情報セキュリティ 対策ビデオ ～嘘～	1. 出会い系サイト による犯罪の危険性	16分 31秒	指定なし	×	×	×	×	無料	ネット動画	無	指定なし	10
情報セキュリティ 対策ビデオ ～嘘～	2. 出会い系サイト による犯罪の危険性	7分 25秒	指定なし	×	×	×	×	無料	ネット動画	無	指定なし	1.10
情報セキュリティ 対策ビデオ ～嘘～	3. 出会い系サイト による犯罪の危険性	8分 42秒	指定なし	×	×	×	×	無料	ネット動画	無	指定なし	1
情報セキュリティ 対策ビデオ ～嘘～	4. 出会い系サイト による犯罪の危険性	6分 24秒	指定なし	×	×	×	×	無料	ネット動画	無	指定なし	1.11
情報セキュリティ 対策ビデオ サイバー犯罪事件 簿2	ネット詐欺と架空請求	30分 6秒	指定なし	×	×	×	×	無料	ネット動画	無	指定なし	1.10
春野家ケータイ物語	1. ルールやマナー を守る	10分 37秒	小学校 低学年 ～高校生	○	○	○	×	無料	DVD	無	2法の理解と 遵守 5公共的な ネット ワーク社会 の構築	9
春野家ケータイ物語	2. 安全な利用とルール 作り	9分 51秒	小学校 低学年 ～高校生	○	○	○	×	無料	DVD	無	3安全への 知恵	9
春野家ケータイ物語	3. 個人情報の保護	8分	小学校 低学年 ～高校生	○	○	○	×	無料	DVD	無	3安全への 知恵 4情報セキュ リティ	7.10
春野家ケータイ物語	4. 相手を思いやる コミュニケーション	9分 27秒	小学校 中学年 ～高校生	○	○	○	×	無料	DVD	無	1情報社会 の倫理	1.3.6
春野家ケータイ物語	5. 責任ある情報発信	8分 49秒	小学校 中学年 ～高校生	○	○	○	×	無料	DVD	無	2法の理解と 遵守	1.8.11
春野家ケータイ物語	6. 情報の信憑性	6分 57秒	小学校 中学年 ～高校生	○	○	○	×	無料	DVD	無	4情報セキュ リティ	7.
春野家ケータイ物語	7. 電子商取引 のルール	9分 43秒	小学校 高学年 ～高校生	○	○	○	×	無料	DVD	無	4情報セキュ リティ	3.7
春野家ケータイ物語	8. 掲示板の使い方	13分 41秒	小学校 高学年 ～高校生	○	○	○	×	無料	DVD	無	1情報社会 の倫理 5公共的な ネット ワーク社会 の構築	1.9.10

表 2-6 既存教材の詳細 (2/2)

教材名	テーマ	再生時間	対象	指導資料	ワークシート	ボードセット	ツール類その他	価格	媒体	出前授業	情報モラル指導モデルカリキュラムとの対応	ICTメディアリテラシーとの関連付け
ケータイ・ネット社会の落とし穴Vol.1	1. 架空請求と個人情報	4分52秒	小学生～中学生	○	×	×	×	9975円	DVD	無	指定なし	10
ケータイ・ネット社会の落とし穴Vol.1	2. メール交換と友達関係	5分52秒	小学生～中学生	○	×	×	×	9975円	DVD	無	指定なし	1.9
ケータイ・ネット社会の落とし穴Vol.1	3. 掲示板となすまし	5分51秒	小学生～中学生	○	×	×	×	9975円	DVD	無	指定なし	1.6.10
ケータイ・ネット社会の落とし穴Vol.2	1. メールと依存症	8分11秒	小学生～中学生	○	×	×	×	9975円	DVD	無	指定なし	1.9
ケータイ・ネット社会の落とし穴Vol.2	2. ケータイサイトと不正請求	8分19秒	小学生～中学生	○	×	×	×	9975円	DVD	無	指定なし	1.10
ケータイ・ネット社会の落とし穴Vol.3	1. ブログと個人情報～「日常」が「情報」に変わるとき～	10分58秒	小学生～中学生	○	×	×	×	9975円	DVD	無	指定なし	1.6.10.11
ケータイ・ネット社会の落とし穴Vol.3	2. ブログと権利侵害～ランキング競争が招くトラブル～	10分15秒	小学生～中学生	○	×	×	×	9975円	DVD	無	指定なし	1.6.11
ネットいじめに向き合うために	1. うちのルール	5分27秒	小学生～中学生	○	×	×	×	9975円	DVD	無	指定なし	1.9
ネットいじめに向き合うために	2. 匿名メール	5分26秒	小学生～中学生	○	×	×	×	9975円	DVD	無	指定なし	1.9
ネットいじめに向き合うために	3. ネットいじめ	13分22秒	小学生～中学生	○	×	×	×	9975円	DVD	無	指定なし	1.6.9
ケータイ安全教室	1.ケータイのこと正しく知ってる？	1分21秒	中学生～高校生	○	×	×	・テキスト ・スライド ・ワークシート	無料	DVD	有	指定なし	10.
ケータイ安全教室	2.メールがきっかけでトラブルに？	5分8秒	中学生～高校生	○	×	×	・テキスト ・スライド ・ワークシート	無料	DVD	有	指定なし	10
ケータイ安全教室	3.トラブルから身を守る機能ってある？	1分28秒	中学生～高校生	○	×	×	・テキスト ・スライド ・ワークシート	無料	DVD	有	指定なし	10
ケータイ安全教室	4.加害者にならないためには？	19分37秒	中学生～高校生	○	×	×	・テキスト ・スライド ・ワークシート	無料	DVD	有	指定なし	1.6.9.10.11
ケータイ安全教室	5.ケータイと正しく付き合うためには？	7分30秒	中学生～高校生	○	×	×	・テキスト ・スライド ・ワークシート	無料	DVD	有	指定なし	1.9.
ケータイ教室	1.「コミュニケーションサイト」篇～コミュニケーションサイト～出会いの先にあるワナ～	2分31秒	小学生～高校生	×	×	×	・テキスト	無料	DVD	有	指定なし	10.
ケータイ教室	2.「プロフ」篇～見ているのは友達だけじゃない～	3分29秒	小学生～高校生	×	×	×	・テキスト	無料	DVD	有	指定なし	1.10
ケータイ教室	3.「すれ違いメール」篇～文字では伝わらない気持ちがある～	3分46秒	小学生～高校生	×	×	×	・テキスト	無料	DVD	有	指定なし	1.6.9
ケータイ教室	4.「チェーンメール」篇～その情報はウソ？ホント？～	4分24秒	小学生～高校生	×	×	×	・テキスト	無料	DVD	有	指定なし	1.9.10
ケータイ教室	5.「なりすましメール」篇～思わぬ人から思わぬメールが～	4分21秒	小学生～高校生	×	×	×	・テキスト	無料	DVD	有	指定なし	1.10
ケータイ教室	6.「犯罪予告」篇～ネット掲示板への書き込みが犯罪に！！	3分23秒	小学生～高校生	×	×	×	・テキスト	無料	DVD	有	指定なし	1.
ケータイ教室	7.「ネット犯罪」篇～突然届く「迷惑メール」～	6分17秒	小学生～高校生	×	×	×	・テキスト	無料	DVD	有	指定なし	10
ケータイ教室	8.「ネットいじめ」篇～軽い気持ちで始まる犯罪～	3分37秒	小学生～高校生	×	×	×	・テキスト	無料	DVD	有	指定なし	1.9.
ケータイ教室	9.「マナー」篇～ケータイのマナーを守ろう～	4分39秒	小学生～高校生	×	×	×	・テキスト	無料	DVD	有	指定なし	9.11

### 3.カリキュラム設計

#### 3-1 目的

既存教材の調査結果を元に有識者と協議し、虚実が混在するインターネット上の情報を主体的に読み解く能力を身につけ、インターネットの特性を理解した上で、メールやブログなどの情報を適切に受発信し、情報交換できる能力（情報発信の観点から、被害者だけでなく加害者とならないために必要な能力を含む）等の向上を図るための指導項目を分析し、とりまとめる。とりまとめた指導項目を、指導者や学習者が理解しやすいよう体系化し、カリキュラムの形式にまとめることで、より効果的な指導の実践を図る。

#### 3-2 方法

##### 3-2-1 ICTメディアリテラシー学習項目（中学生・高校生用）の作成

中学生・高校生が対象であることに伴い、「ICTメディアリテラシー学習項目（小学5・6年生用）」の見直しを行い、新たに「ICTメディアリテラシー学習項目（中学生・高校生用）」を作成した。

小学生において必要と考えられる学習内容に加え、中学生・高校生において必要となる学習内容を抽出するためである。

有識者委員会及び作業部会にて、中学生・高校生時に身につけることが望ましいと考えられる内容、中学生・高校生の現状を鑑みて必要と思われる内容等について議論し、「ICTメディアリテラシー学習項目（小学5・6年生用）」に追記、修正を行った。

##### 3-2-2 カリキュラムの作成

既存教材とICTメディアリテラシー学習項目（小学5・6年生用）の関連付けの調査結果を元に、有識者委員会及び作業部会での議論、メーリングリストでの意見交換を行った。その中から、「虚実が混在するインターネット上の情報を主体的に読み解く能力」及び「インターネットの特性を理解した上で、メールやブログなどの情報を適切に受発信し、情報交換できる能力」に結びつく内容を取り出し、カリキュラムとした。



### 3-3 結果

#### 3-3-1 ICTメディアリテラシー学習項目（中学生・高校生用）

表 3-1 ICTメディアリテラシー学習項目（中学生・高校生用）においては、「ICTメディアリテラシー学習項目（小学 5・6 年生用）」の小項目に追記・修正がされたことに加え、大項目として「12. 情報化社会を生き抜く能力」が追加された。

これは、有識者委員会及び作業部会で「小学生においては ICT メディアを適切に利用することができれば良いが、中学生・高校生においては、ICT メディアを使った発信とその責任を理解し、健全なネットワーク社会の実現に参画する姿勢を求めたい」という見解が出され、それに基づいて追加されたものである。

表 3-1 における「小」マーク欄の学習項目は、ICTメディアリテラシー学習項目（小学 5・6 年生用）の項目から変更がない項目、「中高」マークの欄の学習項目は、ICTメディアリテラシー学習項目（小学 5・6 年生用）の項目に修正・追加をした項目である。また、「●」は知識、「■」はスキルを表している。

表 3-1 ICTメディアリテラシー学習項目（中学生・高校生用）（1/3）

ICTメディアリテラシー		本事業で教材を制作するために定めた中学生・高校生に必要な知識・スキル・行動	行動
1. ICTメディアの特性を理解する能力 ＜インターネットの特性を理解し、適切な情報発信ができる＞	●インターネットでは、コミュニケーションツール（ブログやメールなど）を使って自分の考えや意見を簡単に発信できることを理解する。	●インターネットでは、情報が伝わるスピードがとて速いことを理解する。	●インターネットの特性を理解した上で、目的に応じてインターネットを他のメディア（図書、テレビ、新聞など）と区別して使っている。
	●インターネットでは、情報が伝わる範囲がとて広いことを理解する。	●インターネットでは、情報が伝わる範囲がとて広いことを理解する。	●インターネットの特性を理解したうえで、ブログなどから情報を発信している。
2. ICTメディアを操作できる能力 ＜ソフトウェアやハードウェアの仕組みを理解し、正しく操作できる＞	●自分が使うコミュニケーションツール（ブログやメールなど）の使い方の概要を理解する。	●デジタルデータは移動したり、コピーしたりできることを理解する。	●コミュニケーションツール（ブログやメールなど）を使って、自分が伝えたい内容を書いている。
	●コミュニケーションツール（ブログやメールなど）の基本的な操作を行うことができる。	●デジタルデータは移動したり、コピーしたりできることを理解する。	●コミュニケーションツール（ブログやメールなど）を使って、自分が伝えたい内容を書いている。
3. 情報を収集する能力 ＜適切なメディアを選択し、正しい情報を収集できる＞	●メディアによって、情報の収集の仕方と内容が異なることを理解する。	●インターネットには、情報を探すとときに役立つウェブサイトがあることを知っている。	●テレビや新聞などの他のメディアと比較しながらインターネットから必要な情報を収集している。
	●収集した情報から、自分の目的にあう情報を選択することができる。	●メディアによって、情報の収集の仕方と内容が異なることを理解する。	●探したい情報に応じて、適切なメディア（図書、テレビ、新聞、インターネットなど）を使い分けている。
4. 情報を処理・編集する能力 ＜適切な情報を評価・選択し、その情報を加工・整理できる＞	●インターネットから自分の求めている情報を検索し、収集することができる。	●収集した情報と自分の考えや意見をまとめることができる。	●さまざまなメディア（図書、テレビ、新聞、インターネットなど）から情報を収集している。
	●収集した情報を使いやすく伝えることができる。	●収集した情報と自分の考えや意見をまとめることができる。	●検索の方法や特性を理解し、インターネット上の情報を収集している。
5. 情報を表現する能力 ＜情報の特性や表現方法を理解し、自分なりに情報を表現できる＞	●伝えたい情報や伝えたい相手によって、適切な表現方法（図表やグラフ、絵や写真など）があることを理解する。	●伝えたい情報や伝えたい相手によって、適切な表現方法（図表やグラフ、絵や写真など）があることを理解する。	●望ましくない情報や自分を傷つける情報には近づかない。
	●必要なソフトウェアやツールなどを使って、自分の考えや意図を生かした図表やグラフ、絵や写真などを描くことができる。	●必要なソフトウェアやツールなどを使って、自分の考えや意図を生かした図表やグラフ、絵や写真などを描くことができる。	●収集した情報を自分の目的に応じて、整理したり組み合わせたりしている。

表 3-1 ICTメディアリテラシー学習項目（中学生・高校生用）(2/3)

ICTメディアリテラシー	本事業で教材を制作するために定めた中学生・高校生に必要な知識・スキル・行動	知識・スキル(■)	行動
<p>6. 情報を伝達する能力</p> <p>&lt;受け手や情報の特徴等を踏まえ、適切な情報を伝達できる&gt;</p>	<p>●インターネット上のコミュニケーション(ブログやメールなど)の先に自分の考えや意見が伝えられることを理解する。</p> <p>●自分の考えや意見は、伝え方によって伝わらなったり、誤解されたりする場合があることを理解する。</p> <p>■自分が伝えたい考えや意見を分かりやすい表現を使って適切に伝えることができる。</p> <p>●コミュニケーション手法(会って話す、メール、電話など)の特徴を理解する。</p> <p>■コミュニケーション手法の特徴を理解したうえで、適切に使い分けができる。</p>	<p>●インターネット上のコミュニケーション(ブログやメールなど)の先に自分の考えや意見が伝えられることを理解する。</p> <p>●自分の考えや意見は、伝え方によって伝わらなったり、誤解されたりする場合があることを理解する。</p> <p>■自分が伝えたい考えや意見を分かりやすい表現を使って適切に伝えることができる。</p> <p>●コミュニケーション手法(会って話す、メール、電話など)の特徴を理解する。</p> <p>■コミュニケーション手法の特徴を理解したうえで、適切に使い分けができる。</p>	<p>●インターネット上のコミュニケーション(ブログやメールなど)の先に自分の考えや意見が伝えられることを理解する。</p> <p>●自分の考えや意見は、伝え方によって伝わらなったり、誤解されたりする場合があることを理解する。</p> <p>■自分が伝えたい考えや意見を分かりやすい表現を使って適切に伝えることができる。</p> <p>●コミュニケーション手法(会って話す、メール、電話など)の特徴を理解する。</p> <p>■コミュニケーション手法の特徴を理解したうえで、適切に使い分けができる。</p>
<p>7. ICTメディアにおける送り手の意図を批判的に読み解く能力</p> <p>&lt;情報が及ぼす影響を理解し、収集した情報に対して適切な判断ができる&gt;</p>	<p>●インターネットには、正しい情報だけでなく誤った情報もあることを理解する。</p> <p>●インターネットにある情報は、常に送り手の意見や考えによって作られていることを理解する。</p> <p>■インターネットにある情報を鵜呑みにせず、自分で判断して適切な情報を選択できる。</p> <p>■利用しているサービスのサイトが適切かどうかを判断することができる。</p> <p>■チャットメールの特徴を見分けすることができる。</p>	<p>●インターネットには、正しい情報だけでなく誤った情報もあることを理解する。</p> <p>●インターネットにある情報は、常に送り手の意見や考えによって作られていることを理解する。</p> <p>■インターネットにある情報を鵜呑みにせず、自分で判断して適切な情報を選択できる。</p> <p>■利用しているサービスのサイトが適切かどうかを判断することができる。</p> <p>■チャットメールの特徴を見分けすることができる。</p>	<p>●インターネットにある一つの情報を鵜呑みにせず、他の情報と比較しながら送り手の意図を考えて読み解いている。</p> <p>●インターネットにある情報を鵜呑みにせず、自分の判断に基づいて適切な情報を選択して行動している。</p> <p>●インターネットを活用したサービス(ブログやメールなど)の先に自分の考えや意見が伝えられることを理解する。</p> <p>●チャットメールの特徴を見分け、チャットメールを作成したり、転送したりしない。</p> <p>●コンピュータや携帯電話などを使って、インターネットの先にいる人と積極的に意見や情報やりとりしている。</p>
<p>8. 主体的にコミュニケーションする能力</p> <p>&lt;社会生活の中でICTメディアが果たしている役割や有用性を理解した上で、他の人と積極的コミュニケーションできる&gt;</p>	<p>●インターネットでは、他の人と意見や情報やりとりできることを理解する。</p> <p>●コンピュータや携帯電話、インターネットなどを使うことで、より豊かな生活が送れることを理解する。</p> <p>●インターネット上のコミュニケーションは、さまざまな情報をやりとりできることを理解する。</p> <p>●インターネットはグローバルに広がるメディアであることと理解し、さまざまな国の人々とコミュニケーションし、意見や考えを交換することができることを理解する。</p> <p>●言語以外のさまざまな方法を使うことで、自分の気持ちが伝わりやすくなることを理解する。</p> <p>●相手の気持ちを尊重しつつも、自分の気持ちをきちんと伝えるコミュニケーションの方法があることを理解する。</p> <p>■インターネット上のコミュニケーション(ブログやメールなど)でも自分の気持ちも相手の気持ちも尊重してコミュニケーションができる。</p>	<p>●インターネットでは、他の人と意見や情報やりとりできることを理解する。</p> <p>●コンピュータや携帯電話、インターネットなどを使うことで、より豊かな生活が送れることを理解する。</p> <p>●インターネット上のコミュニケーションは、さまざまな情報をやりとりできることを理解する。</p> <p>●インターネットはグローバルに広がるメディアであることと理解し、さまざまな国の人々とコミュニケーションし、意見や考えを交換することができることを理解する。</p> <p>●言語以外のさまざまな方法を使うことで、自分の気持ちが伝わりやすくなることを理解する。</p> <p>●相手の気持ちを尊重しつつも、自分の気持ちをきちんと伝えるコミュニケーションの方法があることを理解する。</p> <p>■インターネット上のコミュニケーション(ブログやメールなど)でも自分の気持ちも相手の気持ちも尊重してコミュニケーションができる。</p>	<p>●相手の気持ちを尊重しつつも、自分の気持ちをきちんと伝えるコミュニケーションをしている。</p> <p>●インターネット上のコミュニケーション(ブログやメールなど)でも、自分の気持ちも相手の気持ちも尊重してコミュニケーションしている。</p>
<p>9. コミュニケーションする相手を尊重する能力</p> <p>&lt;コミュニケーションを大切にすることを理解し、ルールやマナーを守ることができる&gt;</p>	<p>●インターネットでは、自分と考え方や意見が異なる人を認め合うことが大切なことになり、感情的になつたりする人がいることを理解する。</p> <p>●インターネット上のコミュニケーションや携帯電話の利用についても、日常生活と同じようにルールやマナーがあることを理解する。</p> <p>●インターネットの先には自分と考え方や意見が異なる人がいることを理解して、コミュニケーションすることができる。</p> <p>●「仲間のルール」は社会的に通用しないことがあることを理解する。</p> <p>●コミュニケーションするときは、相手を思いやり、気持ちを大切にすることを理解する。</p> <p>●相手の気持ちを思いやり、また自分も言いたいことを適切に伝えるコミュニケーションの方法を理解する。</p> <p>■ブログや掲示板などに、だれかが嫌悪感を持つようなこと(誹謗中傷など)を書き込まない。</p>	<p>●インターネットでは、自分と考え方や意見が異なる人を認め合うことが大切なことになり、感情的になつたりする人がいることを理解する。</p> <p>●インターネット上のコミュニケーションや携帯電話の利用についても、日常生活と同じようにルールやマナーがあることを理解する。</p> <p>●インターネットの先には自分と考え方や意見が異なる人がいることを理解して、コミュニケーションすることができる。</p> <p>●「仲間のルール」は社会的に通用しないことがあることを理解する。</p> <p>●コミュニケーションするときは、相手を尊重して行動している。</p> <p>●相手の気持ちを思いやり、また自分も言いたいことを率直に言うコミュニケーションの方法を身につけている。</p> <p>●誹謗中傷などの口に出して言えないことを書かないようにしている。</p>	<p>●インターネットの先には自分と考え方や意見が異なる人と礼儀や思いやりをもってやりとりしている。</p> <p>●インターネット上のコミュニケーションや携帯電話の利用について、ルールやマナーを身につけようとする。</p> <p>●「仲間のルール」は社会的に通用しないことがあると理解して行動している。</p> <p>●相手の気持ちを思いやり、自分にも相手にも適切なルールを作り、守っている。</p> <p>●コミュニケーションする相手を尊重して行動している。</p> <p>●相手の気持ちを思いやり、また自分も言いたいことを率直に言うコミュニケーションの方法を身につけている。</p> <p>●誹謗中傷などの口に出して言えないことを書かないようにしている。</p>

表 3-1 ICTメディアリテラシー学習項目（中学生・高校生用）(3/3)

ICTメディアリテラシー		本事業で教材を制作するために定めた中学生・高校生に必要な知識・スキル・行動
10. ICTメディアを安全に使う能力 ＜情報に対する責任や適切な情報への対処方法を理解し、インターネットを安全に使うことができる＞	<ul style="list-style-type: none"> <li>●IDやパスワードを他の人に教えると、さまざまなトラブルに巻き込まれる恐れがあることを理解する。</li> <li>●自分や他の人の個人情報やチャットなどに書き込むと、悪意をもった人がその情報を悪用する恐れがあることを理解する。</li> <li>●インターネットでは、本人が望んでいない情報や悪意のある情報を見たり、受信したりする恐れがあることを理解する。</li> <li>●望ましくない情報に出会ったときの適切な対処方法について理解する。</li> <li>●コンピュータや携帯電話などには、たさんの大切なデータや個人情報（氏名や住所など）が含まれていることを理解する。</li> <li>■コンピュータや携帯電話の中のデータや個人情報（氏名や住所など）が、人に利用されないように、気をつけることができる。</li> <li>■望ましくない情報や自分を傷つける情報に接したときに適切な対処ができる。</li> <li>■自分や他の人の個人を特定できる情報などをむやみにインターネットで流すべきではないことを理解する。</li> <li>■トラブルにあったときは、一人で思い悩まずに、保護者や先生に相談する。</li> <li>■スキルを悪用した場合（なりすまし、不正アクセスなど）は、罪に問われることがあることを理解する。</li> </ul>	<p>IDやパスワードを設定し、他の人に教えないようにしている。</p> <p>コンピュータや携帯電話を不用意に貸したり、なくしたりしないようになっている。</p> <p>社会的に好ましくないウェブサイトに利用しない。</p> <p>ブログや掲示板などに名前や住所、顔写真などの個人情報やむやみに書き込んだり、メールで他の人に教えない。</p> <p>不意にウェブで表示された情報や、インターネットから送られてきた不要な情報を無視している。</p> <p>トラブルがあったときは、保護者や先生に相談したり、悪質な書き込みをされたときは、証拠として書き込みの画面を保存したりしている。</p> <p>サイトの管理人に削除を依頼している。</p> <p>むやみに個人情報発信しないなど、責任ある情報発信のしかたを理解した上で、情報を発信している。</p> <p>なりすまし、不正アクセスなど、スキルを悪用しない。</p>
11. 情報の権利を保護する能力 ＜著作権や肖像権などの権利を理解し、それらの権利を守るができる＞	<ul style="list-style-type: none"> <li>●人が作ったもの（著作物）には、他の人に勝手に使われない権利（著作権）があり、利用する場合には許可が必要であることを理解する。</li> <li>●人には写真や似顔絵、名前を勝手に使われない権利（肖像権など）があり、利用する場合には許可が必要であることを理解する。</li> <li>●自分が作った文章、図表やグラフ、絵などには著作権があり、写真には肖像権があることを理解する。</li> <li>●著作物の引用のしかたを理解する。</li> <li>●パブリシティ権（タレント等の有名人の氏名・肖像を財産的に利用する権利）について理解する。</li> </ul>	<p>著作物の許可を得ていない著作物や掲示板などに貼り付けたり、他の人にメールで送ったりしない。</p> <p>被写体となっている人物の許可を得ていない写真や似顔絵をブログや掲示板などに貼り付けたり、他の人にメールで送ったりしない。</p> <p>コミュニケーションツール（ブログやメールなど）などで著作物を使う場合、著作物を作った人の許可を得る。</p> <p>コミュニケーションツール（ブログやメールなど）などで人の写真や似顔絵、名前を使う場合、その人の許可を得る。</p> <p>自分の著作物が無断で使用されていたら、削除するように求める。</p> <p>自分の顔写真が無断で使用されていたら、削除するように求める。</p> <p>著作物を適切に引用している。</p> <p>インターネットは創造、表現する道具であることを理解して行動している。</p> <p>自分の考えや作品などを創造し、インターネット上に発信している。</p> <p>インターネット上の共同作業に主体的に関わることを理解している（例：共同作業で作成しているインターネット百科事典の編集など）。</p> <p>情報に主体的に関わることを理解し行動している（例：問題発生時に傍観者にならない）。</p> <p>インターネットや携帯電話をどのように活用するか、自分で目標を設定している。</p> <p>インターネットや携帯電話のプラスの面を理解し、将来の可能性を考えている。</p> <p>インターネットや携帯電話を活用して、将来どのような仕事に役立てることができるか、社会に貢献できるかなど、社会のかかわり方を考えて行動している。</p> <p>ネットワーク社会に参画し、ネットワーク社会を健全に作り変えていくことの重要性を理解して、適切に行動している。</p>
12. 情報化社会を生き抜く能力 ＜インターネットや携帯電話などのツールを活用する方法の未来像、可能性＞	<ul style="list-style-type: none"> <li>●インターネットは創造、表現する道具であることを理解する。</li> <li>●自分の考えや作品などを創造し、インターネット上に発信できることを理解する。</li> <li>●インターネット上に発信する情報には自己責任が伴うことを理解する。</li> <li>●インターネット上の共同作業に主体的に関わることを理解する。</li> <li>●情報に主体的に関わることを理解する。</li> <li>●健全なネットワーク社会の実現に参画することの重要性を理解している。</li> <li>■インターネットや携帯電話をどのように活用するか、自分で目標を設定することができる。</li> </ul>	<p>インターネットは創造、表現する道具であることを理解して行動している。</p> <p>自分の考えや作品などを創造し、インターネット上に発信している。</p> <p>インターネット上の共同作業に主体的に関わることを理解している（例：共同作業で作成しているインターネット百科事典の編集など）。</p> <p>情報に主体的に関わることを理解し行動している（例：問題発生時に傍観者にならない）。</p> <p>インターネットや携帯電話をどのように活用するか、自分で目標を設定している。</p> <p>インターネットや携帯電話のプラスの面を理解し、将来の可能性を考えている。</p> <p>インターネットや携帯電話を活用して、将来どのような仕事に役立てることができるか、社会に貢献できるかなど、社会のかかわり方を考えて行動している。</p> <p>ネットワーク社会に参画し、ネットワーク社会を健全に作り変えていくことの重要性を理解して、適切に行動している。</p>

### 3-3-2 カリキュラム

ICT メディアリテラシー学習項目（中学生・高校生用）において新設された「12.情報化社会を生き抜く能力」は、受動的に ICT メディアを利用するだけでなく、主体的に ICT メディアの利用方法を考え、健全な利用を促進することを目指す内容であることから、本事業の目的に適ったものと言える。このため、「12.情報化社会を生き抜く能力」についても、カリキュラムに取り入れる方針を決定した。前項 2-4 の考察及び 3-3-1 の結果から、表 3-6 カリキュラムを作成した。

カリキュラムには、テーマ、ねらい、選定理由、対応する ICT メディアリテラシー学習項目、指導を必要とする程度を記した。「指導を必要とする程度」では、特に優先するテーマには◎、優先するテーマには○を表記した。

カリキュラムの詳細は、以下のとおりである。

#### 1. 「主体的なコミュニケーション」について

「1-1 本事業の背景」でも触れたように、近年、インターネットや携帯電話などの ICT メディアに関連した事件やトラブルは増加傾向にあり、子どもが関わっているケースも数多く存在している。子どもが関わっているケースの中には、子どものコミュニケーション能力が根本的な原因と考えられるものが少なくない。例えば、ブログなどで読んでいる人の気持ちを考えない発言をして炎上する、などのトラブルが起きたり、嫌なことを言われた際に何も言わずに我慢し、耐えきれなくなったときにトラブルを起こしたりする、といったケースである。

このような問題の解決策として、ICT メディアの利用を制限してトラブルを回避することではなく、子どものコミュニケーション能力そのものの向上を支援し、その結果 ICT メディアを有効活用できるようになることを目指し、「主体的なコミュニケーション」の項目を設定した。

「主体的なコミュニケーション」では、単に相手の気持ちを尊重することだけではなく、相手を尊重した上で自分の意見を発信し、積極的にコミュニケーションを取れるようになることを目指す。この主体的コミュニケーションの能力は、本事業の目的である「情報を適切に受発信し情報交換する能力の向上」の点でも重要視すべきだと考える。

対応する ICT メディアリテラシー学習項目は「8.主体的にコミュニケーションする能力」および「9. コミュニケーションする相手を尊重する能力」である。

#### 2. 「メールによるコミュニケーションのポイント」について

有識者委員会及び作業部会において、近年の ICT メディア関連のトラブルの中で、子ども、大人を問わずメールに関するトラブルが依然として多い、という意見が出された。表 3-2 の「選定理由」にあるような事例である。ICT メディアの中でも身近なものであるメールについて正しく理解し、コミュニケーションを促進するツールとして有効活用できるようになることを目指す。

対応する ICT メディアリテラシー学習項目は「8.主体的にコミュニケーションする能力」及び「2.ICT メディアを操作できる能力」である。

### 3. 「クリティカルシンキング（情報を批判的に読み解く力）」について

表 3-2 の「選定理由」にもあるように、インターネット上の情報は虚実が混在しており、それらの情報を利用する際には、正しい情報が何かを判断する必要がある。このような「情報を批判的に読み解く力」は、インターネット上で適切な情報の受発信を行うための基礎となるものであり、本事業の目的を達成するために必要な能力と考えられる。

対応する ICT メディアリテラシー学習項目は「7. ICT メディアにおける送り手の意図を批判的に読み解く能力」及び「3.情報を収集する能力」である。

### 4. 「クリエイティビティ（創造性）」について

「クリティカルシンキング（情報を批判的に読み解く力）」は情報を受信してそれを活用する能力を習得するのに対し、本項目は主に情報を発信する際に必要と考えられる能力の習得を目指す。

表 3-2 「選定理由」にもあるように、著作権の概念や引用ルールなど、情報発信の際に必要な知識や方法を指導することで、子どものクリエイティビティ育成の一助とする。

対応する ICT メディアリテラシー学習項目は「4.情報を処理・編集する能力」及び「11.情報の権利を保護する能力」である。

### 5. 「情報化社会への主体的参加」について

本項目に対応する ICT メディアリテラシー学習項目は「12. 情報化社会を生き抜く能力」、「4.情報を処理・編集する能力」、「5. 情報を表現する能力」である。

「12. 情報化社会を生き抜く能力」は中学生・高校生版の ICT メディアリテラシー学習項目で新たに追加された項目であり、2-4 考察においても述べたように、受動的に ICT メディアを利用するだけでなく、主体的に ICT メディアの利用方法を考え、健全な利用を促進することを目指す内容である。これは本事業の目的に合った内容と判断し、本項目を設定した。

（再掲）表 2-4 学習項目の頻出度

取扱い	頻出度	ICT メディアリテラシー学習項目（小学 5・6 年生用）
多  ↓  少	1	1. ICT メディアの特性を理解する能力 6.情報を伝達する能力 9.コミュニケーションする相手を尊重する能力 10. ICT メディアを安全に使う能力
	2	3.情報を収集する能力 7.ICT メディアにおける送り手の意図を批判的に読み解く能力 11.情報の権利を保護する能力
	3	2.ICT メディアを操作できる能力 4.情報を処理・編集する能力 5.情報を表現する能力 8.主体的にコミュニケーションする能力

表 3-2 カリキュラム

	テーマ	ねらい	選定理由	ICTメディアリテラシー学習項目	指導を必要とする程度*
1	主体的なコミュニケーション(自己尊重のコミュニケーション)	インターネットの特性を踏まえ、自他を尊重したコミュニケーションのしかたを学ぶ。	子どもたちのコミュニケーションスキルの不足により、インターネットやメールでのトラブルが生じる場合がある。インターネット上でも、現実の世界でも、自分が存在するコミュニティや集団の中での存在をお互いに認め合い、存在意義を見つけることが大切である。主体的にコミュニケーションし、相手の気持ちを尊重しつつも自分の思いを率直に伝えられるようになり、他者を受け入れられるようになることが望ましい。	8. 主体的にコミュニケーションする能力 9. コミュニケーションする相手を尊重する能力	◎
2	メールによるコミュニケーションのポイント	メール送受信の仕組みや機能、使い方のルールやマナーを理解し、コミュニケーションツールとして有効活用できるようにする。	メール送受信の仕組みや機能、使い方のルールやマナーを理解していないために、メールに関する誤解やコミュニケーショントラブルが生じる場合がある。 例えば、以下のような事例が存在する。 ・To、Cc、Bccの差異を理解せずにメール送信し、意図しない相手にアドレスが知られてしまう。 ・仲間内のルールが一般的だと思いこみ、公的なやりとりで失礼な文面のメールを送ってしまう。  メールについての正しい知識を身に付け、コミュニケーションを促進するツールとして、有効活用できるようにすることを目指す。	2. ICTメディアを操作できる能力 8. 主体的にコミュニケーションする能力	◎
3	クリティカルシンキング(情報を批判的に読み解く力)	・インターネット上の情報は正しいものだけではないことを理解する。 ・インターネット上の情報を利用する際には、自分で判断して情報を選択する必要があることを理解する。 ・情報が正しいかどうかを確認・判断する方法を知る。	インターネット上には個人の意見から緻密に調査された内容まで、様々な情報が混在している。これらの情報を簡単に信じ、それをそのまま不特定多数の人に伝えてしまえば、加害者にもなりうる。情報を利用する際には、自分で判断して、適切な情報を選択する必要がある。情報が正しいかどうかを確認・判断する方法を知り、インターネット上の情報を正しく活用できるようにすることを目指す。	7. ICTメディアにおける送り手の意図を批判的に読み解く能力 3. 情報を収集する能力	◎
4	クリエイティビティ(創造性)	ネットワーク社会において、自分が発信者となりうることを理解し、発信者として果たすべき責任を知る。情報発信の可能性や行動様式を知らせることで、クリエイティビティを育成する一助とする。	ブログ・プロフ利用の一般化が進んでおり、一部では、携帯小説を発表する子どもがいるなど、子どもたちがネットワーク社会での発信者になりつつある。そのような状況の一方で、他人の作品、例えば俳句や読書感想文などを、罪の意識なく流用してしまうような現象も増加している。 他人の作品にも自分の作品にも著作権があることや、「引用」というルールが存在すること、などの知識を身につけながら、情報発信の方法と可能性を知り、自分のクリエイティビティを尊重できるようになれることが望ましい。	4. 情報を処理・編集する能力 11. 情報の権利を保護する能力	○
5	情報化社会への主体的参加	・情報化社会の中で、自分がどのような役割を果たすことができるのか、どんな貢献ができるのかを考える。 ・情報化社会に主体的に参加し知的刺激を受けることにより、自分を見つめ直し将来の夢を描く一助とする。	情報化社会においては、豊富に流通する情報を用いたコミュニケーションが行われ、これまではなかった共同作業や知識の共有化が進んでいる。これまでは質の異なるコミュニケーションや協力形態が必要とされる中で、デジタルネイティブである中高生が、インターネットや携帯電話のプラス面を理解し、どのように情報化社会と関わるかを考え、実行に移せるようになることが望ましい。	4. 情報を処理・編集する能力 5. 情報を表現する能力 12. 情報化社会を生き抜く能力	○

\*上記、「指導を必要とする程度」欄では、特に優先するテーマには◎、優先するテーマには○を表記した。

## 4. 指導資料等の製作

### 4-1 目的

3-3-2 カリキュラムの「1.主体的なコミュニケーション」の項目でも記載したように、近年の、子どもが関わっている ICT メディアに関するトラブルの中には、子どものコミュニケーション能力が原因と考えられるものが少なくない。カリキュラムの検討においては、これらの問題の解決策として、子どものコミュニケーション能力そのものの向上を支援し、その結果 ICT メディアを有効活用できるようにする、という方向性を打ち出し、「主体的なコミュニケーション」の項目を設定した。

「主体的なコミュニケーション」では、単に相手の気持ちを尊重することだけではなく、相手を尊重した上で自分の意見を発信し、積極的にコミュニケーションを取れるようになることを目指す。この主体的コミュニケーションの能力は、本事業の目的である「情報を適切に受発信し情報交換する能力の向上」の点でも重要視すべきであると考ええる。

近年の ICT メディアに関するトラブルの状況と、本事業の目的との関連性を鑑みて「主体的なコミュニケーション」を本年度の教材作成対象とした。

この「主体的コミュニケーション」のカリキュラムを円滑に実施し、学習目標を達成するために指導資料等を作成する。

想定する指導者は、中学校、高等学校の教師及び、セミナー等で本カリキュラムを実施する指導者や一般家庭の保護者である。学習者に対して一般的な指導に関する知識、スキル、経験を有しているが、一方で、インターネットやコミュニケーションについては専門的な知識、スキル、経験を有していない場合でも指導できるように指導資料等を製作する。

製作する指導資料等は、以下のとおりである。

- 指導資料
- 補助資料（①ビデオクリップ、②ワークシート、③キーシーン黒板用掛図、④提示用スライド）

補助資料は、指導資料を補足し、指導効果を高めるために製作する。指導資料については別添、補助資料については納品物を参照されたい。また、データについては CD-ROM に収める。

指導資料及び補助資料の製作の目的と概要を、表 4-1 のとおりまとめる。



表 4-1 指導資料及び補助資料の製作の目的と概要

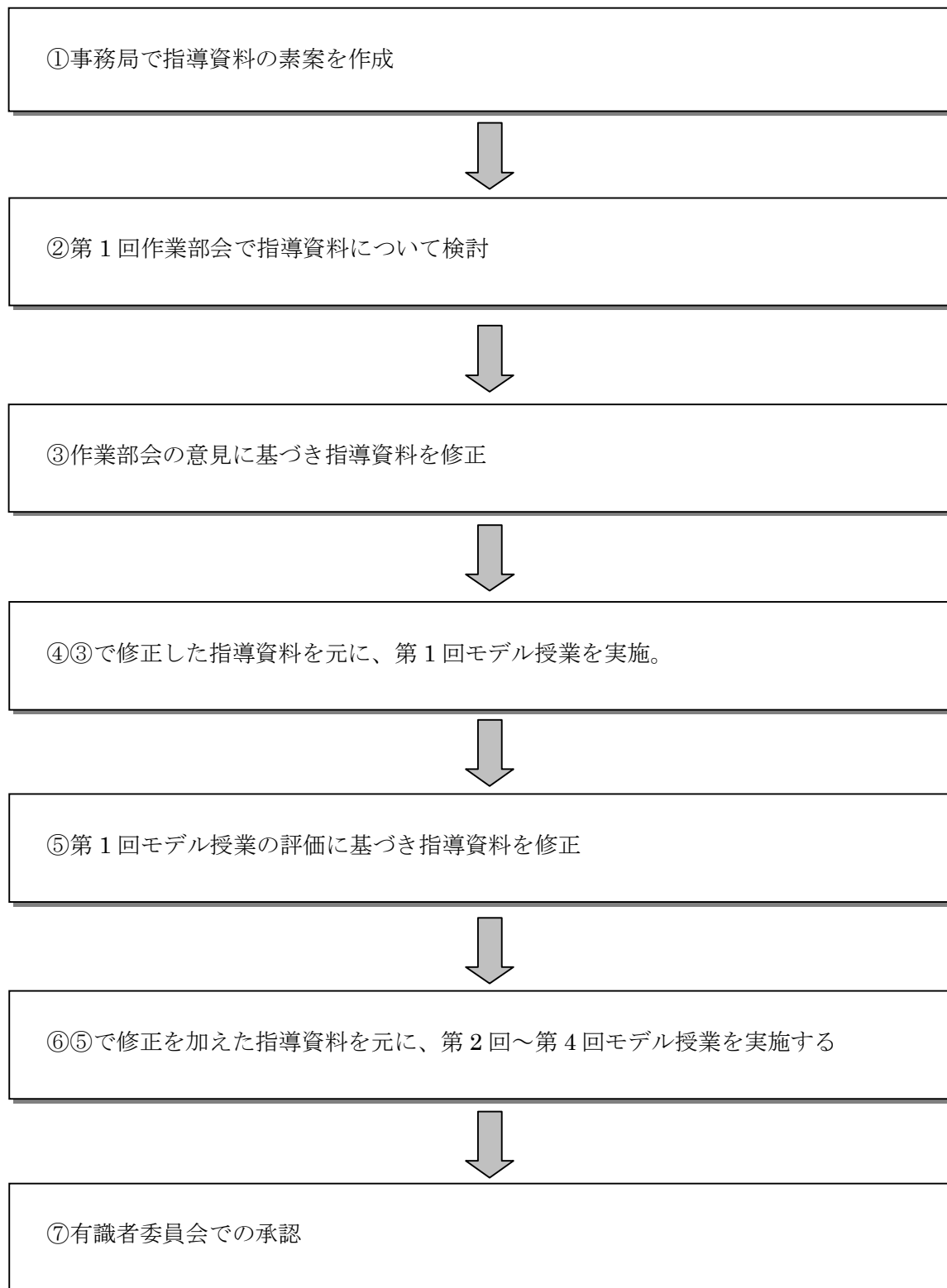
指導資料	
目的	選定した指導テーマについて、知識・経験不足の指導者や、一般家庭の保護者であっても、円滑に指導できるようにする。
概要	<p>指導資料の概要は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習目標</li> <li>・ 指導のポイント</li> <li>・ 指導の展開例</li> <li>・ サンプルシナリオ</li> </ul> <p>指導の展開例は、1 コマ版のほかに短時間版、2 コマ版を用意し、家庭や学校の状況に応じて参照できるようにする。</p> <p>サンプルシナリオはインターネットやコミュニケーションについて知識・経験不足の指導者や一般家庭の保護者等であっても一定レベルの指導ができるように、参考資料として付加する。</p>

補助資料	
① ビデオクリップ	
目的	学習者の関心を高め、問題提起をする。
概要	<p>視聴することで、学習テーマである「主体的なコミュニケーション」を実現するための行動について考えるきっかけとする。</p> <p>5 分程度の視聴時間とする。</p>
② ワークシート	
目的	学習者に記入させることで、気づきや理解を助ける。
概要	<p>指導の展開の中で、指導者の指示に従って学習者が記入する。</p> <p>次の 2 種類を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習中に利用するワークシート</li> <li>・ 後日、学習者自身の態度変容を振り返るためのワークシート</li> </ul>
③ キーシーン黒板用掛図	
目的	ビデオクリップの登場人物や内容を思い出させ、理解や話し合いを促す。
概要	<p>ビデオクリップのストーリーの中で学校の授業やセミナー、家庭での学習などで取り上げるべき重要なシーンについて、静止画の印刷用データを製作する。必要に応じて指導者が印刷し、黒板等に掲示して使用する。</p> <p>今回はビデオクリップの登場人物の顔写真、ブログの投稿画面、ブログへの書き込み画面を掛図として選定した。</p>
④ 提示用スライド	
目的	学習のポイントやイラストを提示し、学習者の理解を助ける。
概要	プレゼンテーションソフトを利用して、学習のポイントやイラストを提示する。スクリーン等に投影して使用する。

## 4-2 方法

### 4-2-1 指導資料等の製作方法

指導資料は、事務局で素案を検討し、有識者委員会及び作業部会に諮り、了承を得るというプロセスで製作した。



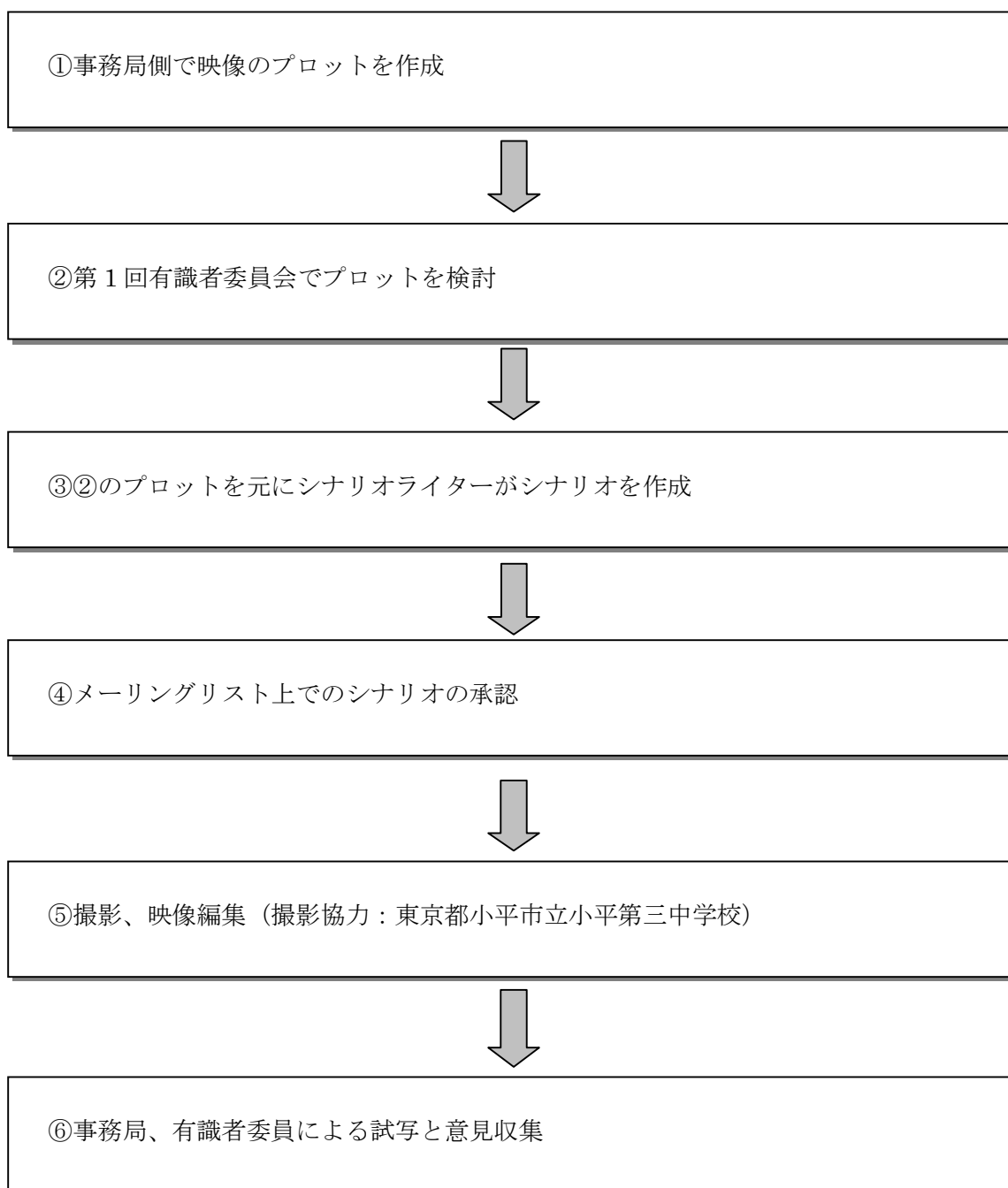
#### 4-2-2 補助資料の製作方法

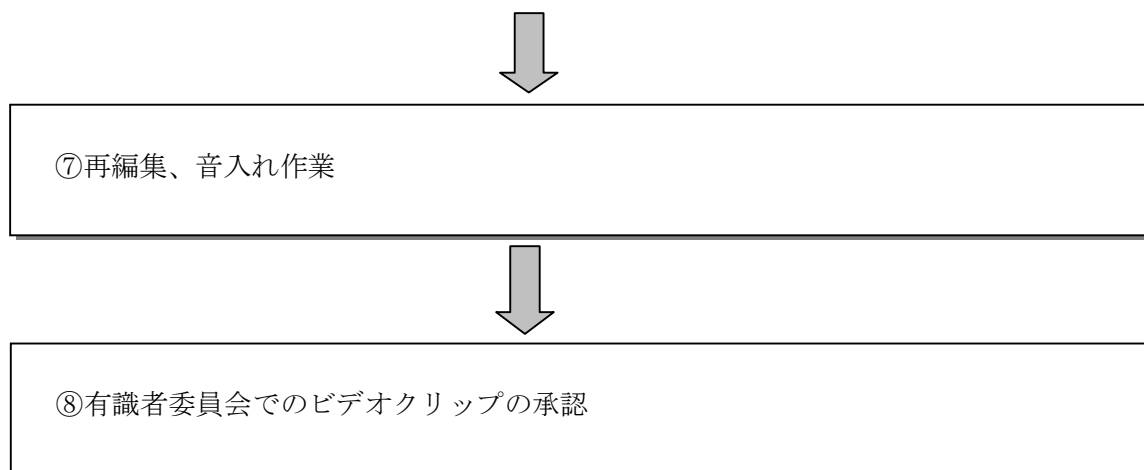
補助資料は、事務局が内容を立案し、映像製作会社（ディレクターを含む）、デザイン製作会社に委託し製作した。

製作する過程で、有識者委員会及び作業部会に諮り、内容を検討していただき、了承を得るといふプロセスで製作した。

##### (1) ビデオクリップ

製作のプロセスは下記のとおりである。





ビデオクリップは、学習者の関心を引き付け問題提起するだけでなく、授業・セミナーの中で、話し合いや練習（ロールプレイ）の題材として使用する。そのためシナリオ製作段階で、授業中に引用できる場面を意識的に取り入れた。映像ディレクターは、教育用の映像製作経験が豊富な者を起用した。

#### ①シナリオ製作

ビデオクリップのテーマは、授業・セミナーのテーマと同様「主体的なコミュニケーション」である。シナリオライターがテーマに沿ったプロット及びシナリオを作成し、内容について有識者委員会と事務局で検討して修正を行った。最終シナリオは、本章末に掲載する。

#### ②ビデオクリップで使用するブログの投稿画面、ブログの書き込み画面の製作

授業の中で、主人公のブログの書き込み内容について考えるため、携帯電話で閲覧するブログの投稿画面（図 4-1）、ブログの書き込み画面（図 4-2）を製作した。

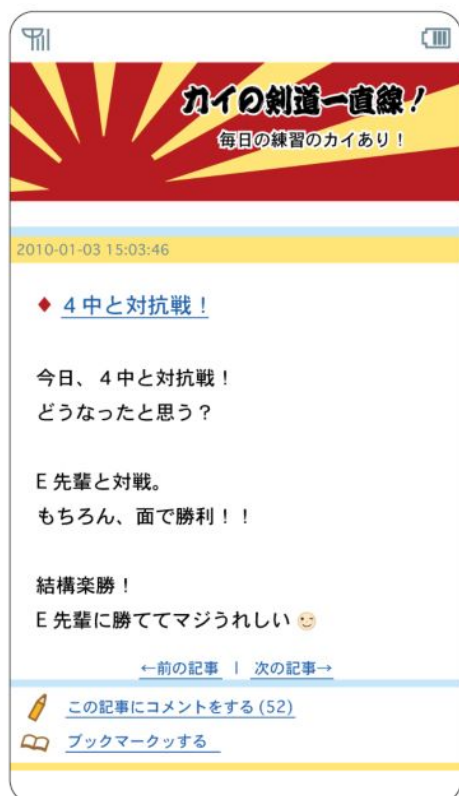


図 4-1 ブログの投稿画面

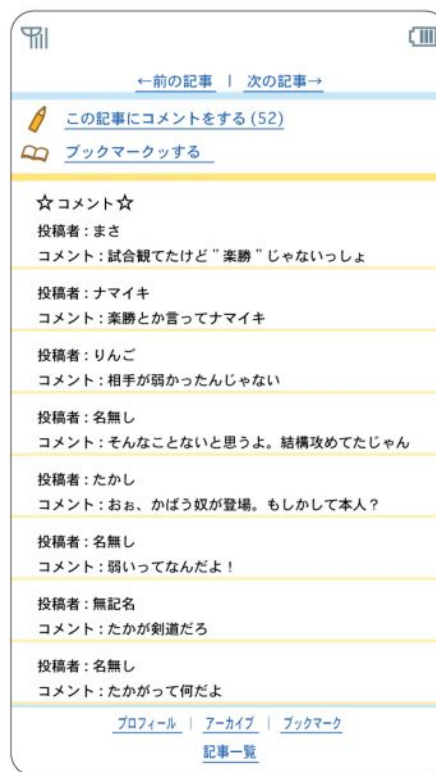


図 4-2 ブログの書き込み画面

また、主人公を励ますメールの文面を作成し、撮影時に実際にメールを送信し、撮影した。

### ③撮影、映像編集

学習者の関心を引き付けるため、動きのあるシーンを含めることを意識した。主人公が中学校剣道部の1年生という設定にし、剣道の試合のシーンを撮影した。撮影にあたって、東京都小平市立小平第三中学校に協力をいただいた。

また、東京都内のハウススタジオにおいて、主人公の自宅の家でブログを見るシーンを撮影した。その後、映像製作会社において編集作業を行い、MA 作業（音響を映像に入れる作業）を行った。

### ④オーサリング、DVD プレス、エンコード

DVD に「スタートボタン」をつけるオーサリング作業を行った。オーサリング作業をもって、ビデオクリップの製作は完了し、DVD をプレスした。

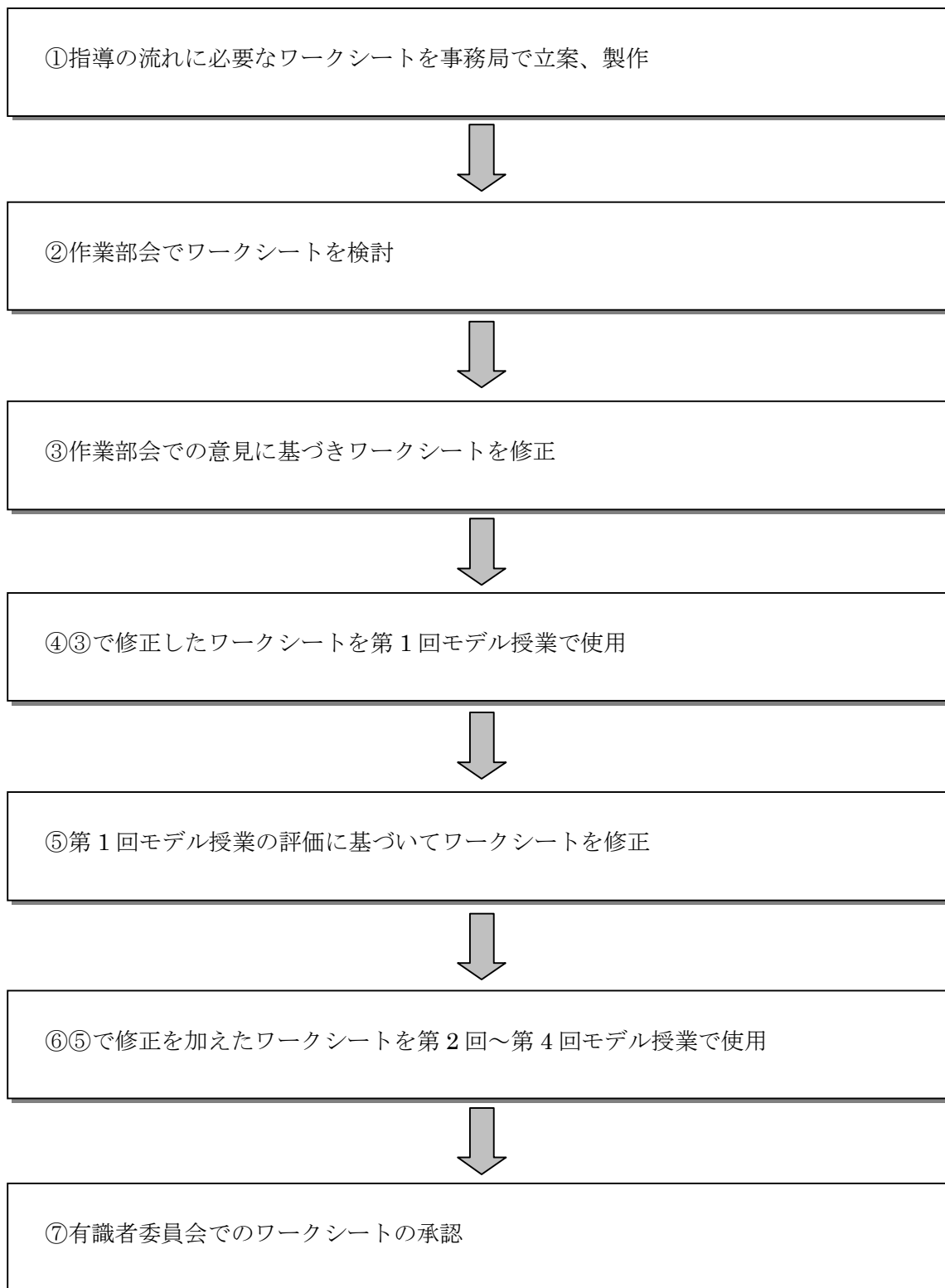
また、Web での一般公開に備え、ダウンロードに適したデータ形式にエンコードを行った。

最終的な映像データを DVD におさめた。またダウンロード用の映像データを CD-ROM におさめた。

## (2) ワークシート

ワークシートの製作のプロセスは下記のとおりである。

まず 4-2-1 で示した指導案の流れを作り、授業・セミナーの流れの中で、学習者の理解を助けるワークシートを製作した。



ワークシートは、授業・セミナーの流れの中で、以下の場面で使用することを想定して製作した。

- ・ビデオクリップを視聴した後、感想を記入する。
- ・コミュニケーションのタイプについて説明するとき使用する。
- ・コミュニケーションの練習（ロールプレイ）のとき、事例に基づき回答を記入する。
- ・当日の授業・セミナーで学んだことを記入する。

### (3) キーシーン黒板用掛図

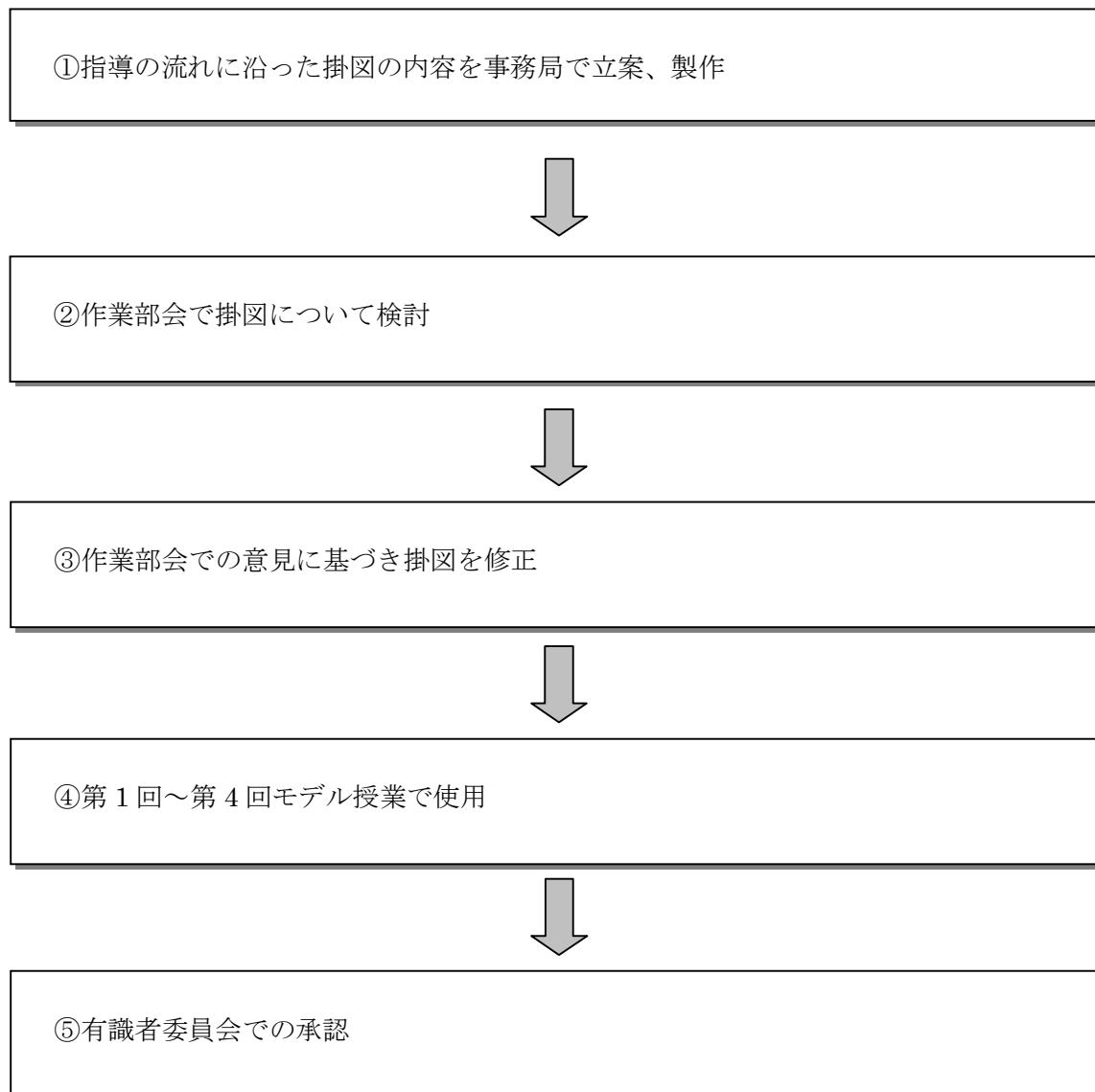
掛図の製作のプロセスは下記のとおりである。

まず指導の流れを作り、授業・セミナーの流れの中で、学習者の理解を助けるために必要な掛図を抽出した。

ビデオクリップの登場人物の顔写真については映像の撮影の際、登場人物の顔をカメラ撮影したデータを元に作成した。

ブログの投稿画面、励ましの書き込み画面は、画像ソフトを用いて作成した。

印刷は、有識者委員の意見を元に、B4 サイズの厚紙（黒板に貼るのに適切な厚さの用紙）を用いることとした。なお、学校現場で出力する場合は、好みの大きさに出力することを前提としている。

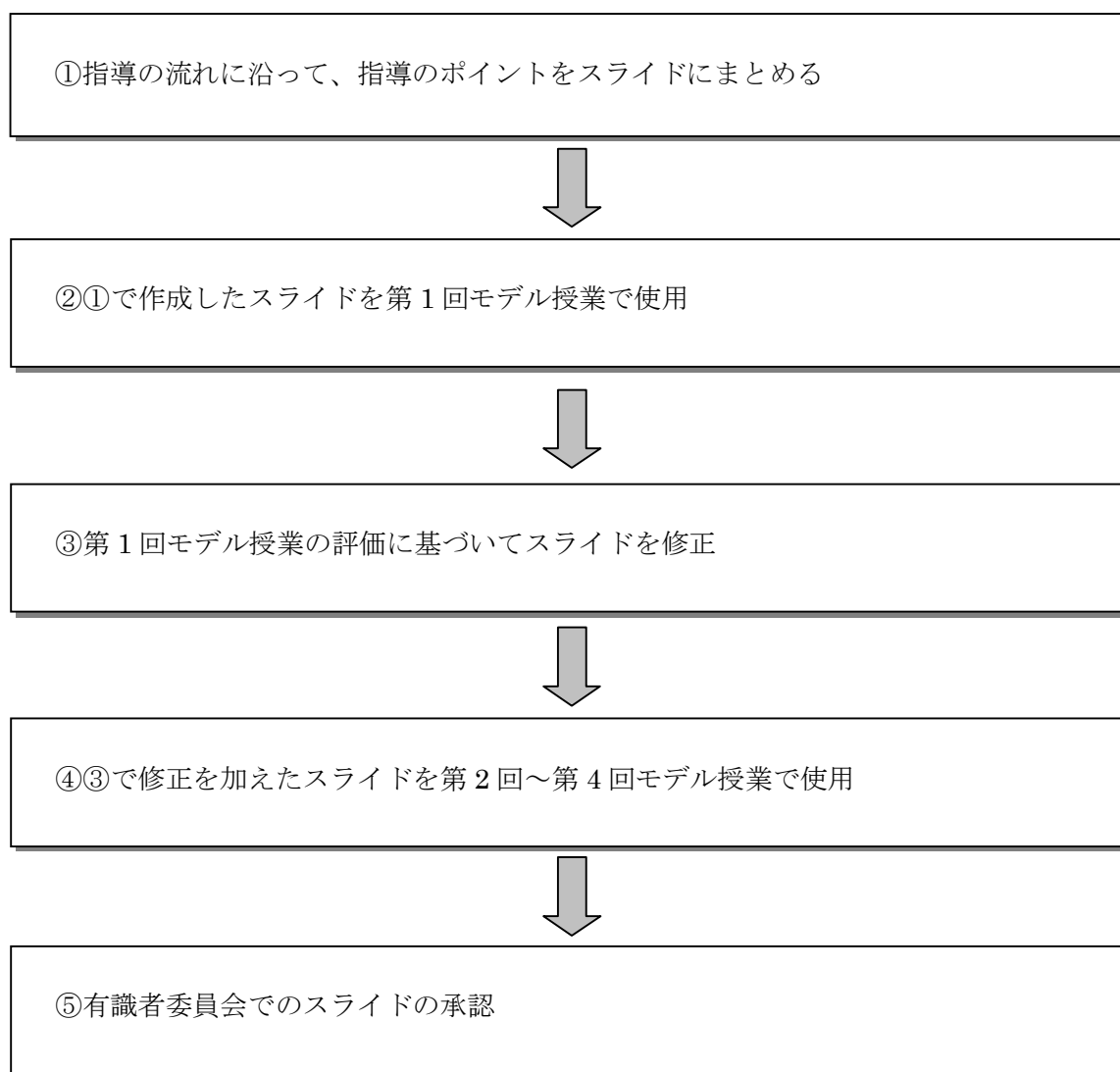


#### (4) 提示用スライド

提示用スライドは、指導のポイントや学習のまとめを整理したものである。スクリーン等に投影しながら説明することにより、学習者の理解を助けることができる。学校現場では、スライドはあまり使われていないが、スライドに注目させることにより、ポイントや学習のまとめに注意を喚起することができる。

また、スライドの提示タイミングについては、「指導資料」の「指導マニュアル（サンプルシナリオ）」にまとめた。

スライド製作のプロセスは下記のとおりである。





## 4-3 結果

### 4-3-1 指導資料の結果

指導資料は別添と、CD-ROM 内のデータを参照されたい。目次を以下に記す。

#### <指導資料目次>

##### 1.運営マニュアル

- 1-1 はじめに
- 1-2 授業・セミナー等のフロー
- 1-3 事前準備
- 1-4 授業・セミナー等の実施
- 1-5 授業後及び指導後のフォロー

##### 2.指導マニュアル

- 2-1 テーマ：「主体的なコミュニケーション（自他尊重のコミュニケーション）」
- 2-2 対象
- 2-3 ビデオクリップ（あらすじ）
- 2-4 授業・セミナー等の学習目標
- 2-5 指導のポイント
- 2-6 指導の展開例（1 コマ 50 分版）
- 2-7 サンプルシナリオ（1 コマ 50 分版）
- 2-8 補助教材

##### 3.参考資料

- 3-1 ブログ炎上の場合の対応
- 3-2 自他を尊重するコミュニケーション手法（アサーション）

##### 4.指導マニュアル（オプション）

- 4-1 指導の展開例（1 コマ版）
- 4-2 指導の展開例（短時間版）
- 4-3 指導の展開例（2 コマ版）

#### 4-3-2 補助資料の結果

##### (1) ビデオクリップ

完成したビデオクリップのタイトルは「侍ブロガー危機一髪」とした。再生時間は、6分30秒となった。

##### (2) ワークシート

製作したワークシートを次ページ以降に示す。概要は表 4-2 のとおりである。

表 4-2 ワークシート

ワークシート 1	<ul style="list-style-type: none"><li>・ビデオクリップを視聴した後、映像についての質問に答える。</li><li>・本日の授業・セミナーで学んだことを記入する。</li></ul>
ワークシート 2	<ul style="list-style-type: none"><li>・表面：コミュニケーションの 3 つのタイプを知る。</li><li>・裏面「あなたを主語にして話すコミュニケーション手法」から「私を主語にして話すコミュニケーション手法」に言い換える例題と練習をする。</li></ul>
ワークシート 3	<ul style="list-style-type: none"><li>・授業を受けた後、自分の行動やふるまいを見直し、変えたいと思う行動について記入する。</li><li>・1 ヶ月後に再度見直して記入する。</li></ul>

## ワークシート 1

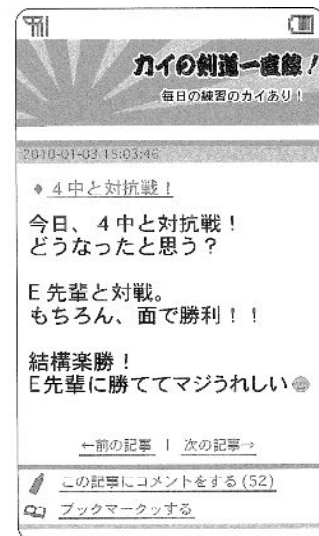
ビデオクリップをもとに授業の感想までを書く基本のワークシート

### ワークシート 1

テーマ：「主体的なコミュニケーション（自他尊重のコミュニケーション）」

年 組 番 名前

- 1 甲斐くんがブログに投稿したとき注意しなければならなかったことは何でしょうか。



- 2 直樹さんのコメントのいいところは何だと思いますか？なぜこのようなコメントを書けたと思いますか？

……カイ。何か書き込みで  
だいぶ叩かれているみたい  
だけど気にすることないぜ。  
言いたいヤツには言わせて  
おけばいいさ。  
おれはお前のブログを見て  
もっと練習やってやる！  
って気持ちになったよ。  
確かに昨日の面はすこかった  
けど、その前の  
突きは、ケッコー甘かったぞ。  
次は“楽勝”とはいかない  
からな。

- 3 本日の授業で学んだことを記入してください。

--- END ---

ワークシート 2 (表)


コミュニケーションの 3 つのタイプを紹介するワークシート

## ワークシート 2

---


友だちに貸した本が汚れてしまった場合のメールのやりとり

**A** 攻撃的なタイプ




「本が汚れている。どうしてくれるの!」と怒っている様子


**B** 受動的、がまんするタイプ



**C** 相手を思いやって、自分も言いたいことを言うタイプ




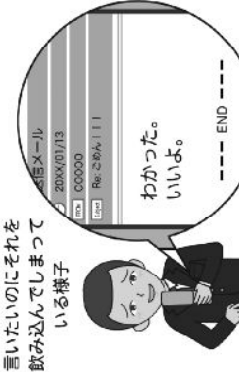
逆切れ




納得







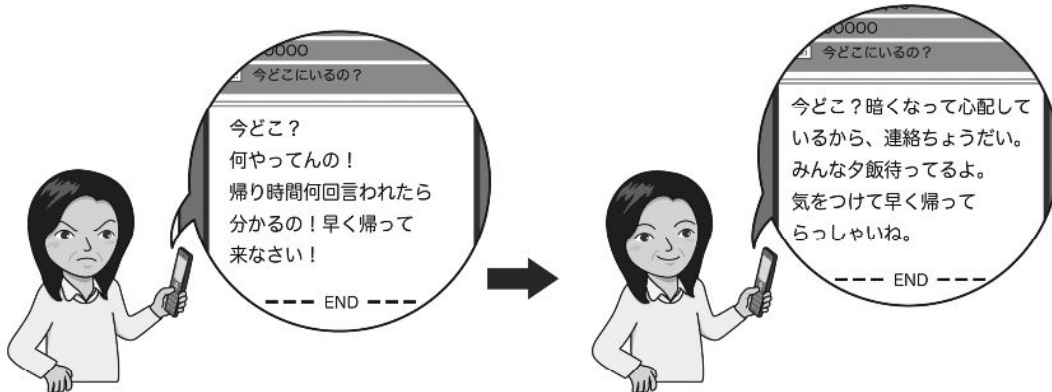


ワークシート 2 (裏)

「あなたを主語にして話すコミュニケーション手法」から「私を主語にして話すコミュニケーション手法」に言い換える例題と練習

例題

あなたは、友だちと遊びにでかけました。あまりに楽しくて少し帰りが遅くなりもう帰らなければと思っていたとき、家族からこんなメールが届きました。

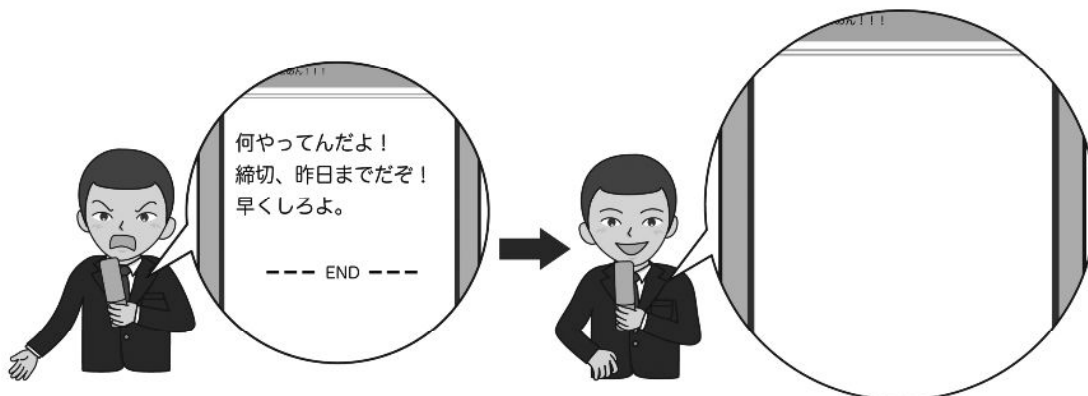


主語があなたになっている。  
相手を非難している。

主語が私になっている。  
相手を思いやる気持ちが伝わる。

練習

林間学校に行く先の環境について、調べ学習をしています。各自担当を決め、班ごとに壁新聞にまとめるのですが、あなたは体調を崩していて、原稿の提出が1日遅れてしまいました。そんな時、友だちから「何やってんだよ! 締切、昨日までだぞ! 早くしろよ。」とのメールが届き、あなたはやる気をなくしてしまいました。こんな時、友だちからのメールがどのような文面だったら、あなたはやる気になるでしょうか。右下のイラストの携帯電話の画面に、友だちの言葉で書いてください。



ワークシート 3  
アクションプランワークシート

<ワークシート3> アクションプラン (振り返り用シート)

今回の授業はいかがでしたか。皆さんがそれぞれ授業で学んだこと、考えたことを参考に、日常生活に活かしていただきたいと思っています。

- (1) 授業を受けて自分の行動やふるまいを見直し、一番変えたいと思うものについて記入してください。
- (2) 1ヶ月後にまた見直してみよう。

年 組 番 名前:

記入日 (1) :

記入日 (2) :

(1) 授業後に記入してください		(2) 1ヶ月後に見直しましょう	
今の自分の行動やふるまい	授業を受けてこれからはどのようなようにしていきたいと思えますか	自分の行動やふるまいが変わったと思えますか	この結果を見て今後について聞かせてください
		適切だと思う項目に○をつけてください。 <small>思ったより変えたい 思ったより変えたい 思ったより変えたい 思ったより変えたい</small>	
		また、そう思う理由はなぜでしょうか。	

(3) キーシーン黒板用掛図

製作した掛図は以下のとおりである。



掛図 1-01  
ビデオクリップの登場人物  
(村井 甲斐くん)



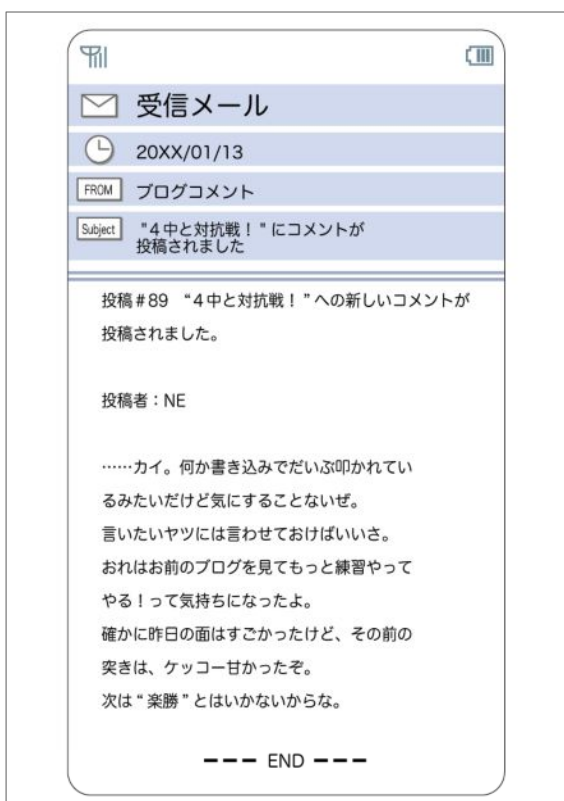
掛図 1-02  
ビデオクリップの登場人物  
(石川 純くん)



掛図 1-03  
ビデオクリップの登場人物  
(榎本 直樹くん)



掛図 1-04  
「結構楽勝!」と投稿した  
ブログの画面



掛図 1-05  
甲斐くんを励ましている直樹くんの  
ブログの書き込み画面



(4) スライド

製作したスライドは以下のとおりである。

グループディスカッション

- 甲斐くんの発言のしかたで注意しなければならなかったことは何でしょう。
- 直樹くんのコメントのいいところは何だと思いますか。

2

グループディスカッション  
—まとめ1

- 甲斐くんの発言のしかたで注意しなければならなかったことは何でしょう。

—相手の気持ちを考えて発言しましょう。

3

グループディスカッション  
—まとめ2

- 直樹くんのコメントのいいところは何だと思いますか。


—勇気を持って自分の気持ちを伝えましょう。

4

コミュニケーションの  
3つのタイプ

- 攻撃的なタイプ
- 我慢するタイプ
- 自分の気持ちも相手の気持ちも尊重するタイプ

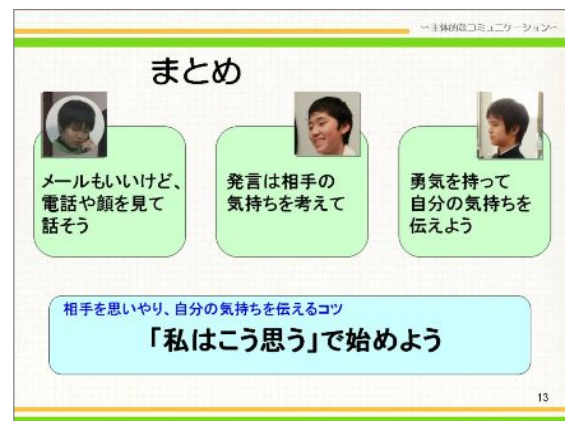
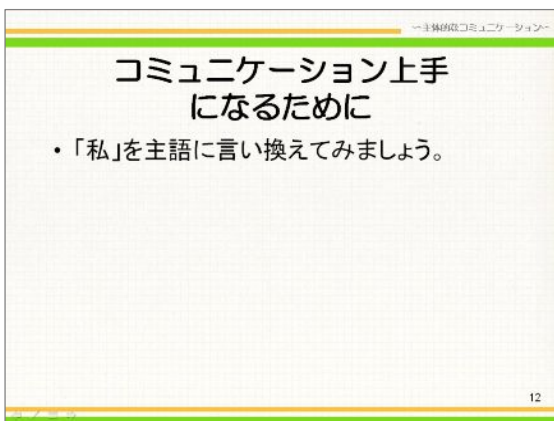
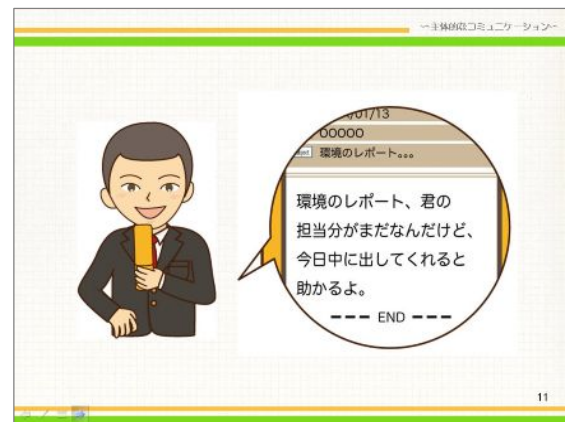
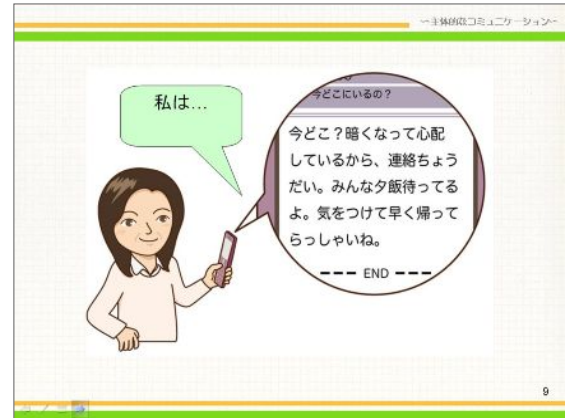
5



6



7



#### 4-4 付録：映像シナリオ最終稿

ビデオクリップのシナリオを以下に示す。

##### 【人 物】

##### [一中生徒]

村井甲斐（13）…一中・一年生ながら剣道部唯一のレギュラー  
普通の子だが多少乗りすぎることも…

石川純（13）…一中・一年生・剣道部

毛利慶介（15）…一中・三年生・剣道部の主将

浦和美里（13）…一中・一年生（女子）・剣道部

一中剣道部員…数名（前記メンバーを含め十～十二、三名くらい）

##### [四中生徒]

榎本直樹（14）…四中・二年生・甲斐のライバル

四中剣道部員…四名

##### [先生]

根本…一中の剣道部顧問

能登…四中教師・剣道部顧問 引率者

剣道部のコーチ

○中学・剣道場内

剣道部員たちが練習している。

練習する剣道部員の声（オン・迫力）

声 「イヤァァァァ！」

タイトル「侍ブロガー危機一髪」

○中学・剣道場の外

村井甲斐（13）と石川純（13）、面を外し、汗を拭っている。

甲斐「あっそうだ。おれ最近家でブログやってんだよね」

純 「ブログ？」

甲斐「ああ。ブログ。携帯の」

純 「へー。甲斐、ブログなんかやってんだ」

甲斐「先月からな」

純 「なんてタイトル？」

甲斐「笑うなよ。カイの剣道一直線！」

インサート・携帯の画面。

純の声「カイの剣道一直線ねえ。誰か見てくれたりしてんの？」

甲斐「どうかな。コメントとかもほとんど無いし」

純 「そっか〜」

そこへ主将の毛利慶介（15）が加わる。

慶介「甲斐！ 四中、来たぞ」

入口から四中の引率の教師と制服姿の四中の生徒、六名がぞろぞろと入ってくる。

甲斐と目が合う榎本直樹（14）、口元に微かな笑みを湛えながらも鋭い視線。

直樹「春の個人戦以来だな」

甲斐「はい」

直樹「今日は絶対負けないからな」

甲斐「…（口元をぐっと締める）」

甲斐と直樹の間に火花。

○インサート・中学校・校庭（時間経過のため）

誰もいない校庭。

コーチの声「（先行して）勝負あり！」

○中学校の剣道場

慶介「（戻ってきて）…すまん。これで、二い二いだ（※二対二の意味）。頼むぞ」

緊張した顔で立っている甲斐。

甲斐「はい！（と立ち上がる）」

× × ×

向かい合う甲斐と直樹。

一礼する甲斐と直樹。

コーチ「始め！」

※甲斐の目線（面越し）。

りゃあ！と間合いを測っている直樹。  
直樹が打ってくるが甲斐は見事にかわす。  
甲斐・心の声「さすが榎本さん。相変わらずするどいな」  
更に直樹が攻め込んでくるが決まらない。次の瞬間――  
甲斐・心の声「今だ！」  
甲斐が見事な面をする。(決まる瞬間までスローモーション)  
甲斐「ややああああーッ！」  
コーチ「面あり！（と旗を上げる）」  
喜ぶ純ら一年生部員たち。

#### ○剣道場の外

着替えを終えて帰る純と美里（13）が甲斐を囲んでいる。  
純「甲斐、すげえなあ。」  
美里「ねえ。これで榎本さんと対戦成績五分でしょ？」  
純「次で勝ち越したな？」  
甲斐「(笑) そりゃ、どうかなあ」  
美里「もっと強気でいきなよ。うちの一年では唯一のレギュラーなんだからさ」  
純「そうそう」

甲斐のそばに、帰る直樹が近寄ってきた。  
直樹「甲斐」  
甲斐「はい…」  
直樹「腕上げたな」  
手を差し出す直樹。  
直樹「次は県大会で！」  
甲斐「よろしくお願いします（握手）」  
直樹は去っていく。見送る甲斐。

直樹「あっそうそう、甲斐のブログ見てるぞ」  
甲斐「ありがとうございます！」

#### ○甲斐の部屋（夜）

風呂上がりらしくバスタオルでごしごし頭を拭きながら、  
甲斐「♪さ～て、ブログ～ブログ～ブログの更新～、と」  
ベッドの端にすわり、携帯を操作し始める甲斐。  
しばらく鼻歌交じりに操作を続ける甲斐。(引きの画で)

#### ○通学路（朝）

「おはよう」と通学している生徒たち。甲斐も学校へ向かっている。  
純の声「おい！ 甲斐」  
甲斐「よッ」  
純「見たぞ」  
甲斐「え？ 何を？ まさかUFOとか？」  
純「そうそう。昨日帰りがけにメキシコの上空でって、なわけないだろ。  
ブログだよ、ブログ！ お前の！」

甲斐「ああ。ブログか。(おどけて) で、どうでした？」

純 「結構強気で言ってたじゃん？」

甲斐「え？ 何を？」

純 「"結構、楽勝" とかさ」

※インサート・ブログの「結構、楽勝！」の文字。

甲斐「楽勝？ あれか。まずかったかな？」

純 「何心配してんの？ まさかブログ炎上とか？」

甲斐「なるかな？」

純 「まさか。大丈夫だよ。甲斐君は案外心配性だねえ～」

と、純、甲斐にじゃれつく。

甲斐「大丈夫だよな。そうそう、学校行こうぜ」

過ぎていく甲斐たち。

○中学校・校庭（放課後）

○甲斐の家・甲斐の部屋（夕方）

ベッドの端にすわり、携帯をいじる甲斐。

甲斐「さ～てと、今日は…お！ コメント来てんじゃん！ 五十二件って？ すげ！」

画面を読む甲斐、ニヤニヤ顔が徐々に曇っていく。

甲斐の、【携帯を握った手が震える】～【震える背中】～【全身（足元からあおり）】

甲斐「な…な、…なんだよー！ これーッ！」 ※with echo

書き込み（声をそれぞれ変えていく）

「試合見てたけど”楽勝”じゃないっしょ」

「楽勝とか言ってナマイキ」

「相手が弱かったんじゃない」

○甲斐の家・外観（夕）

純の声「(電話越し) 炎上？」

○同・甲斐の部屋（夕）

ベッドの上に座り、携帯で喋っている甲斐。相手は純だ。

甲斐「…ああ。そうなんだよ！ 書き込んでくるんだよ、コメントの所に。

誰が…って…知らないよ！ どっかのヒマ人だろ！ もう百件超えてるんだ。今もジャンジャン来てんの。

とにかくさ、明日、朝練、休むからさ」

純の声「なんで？」

甲斐「なんかやる気がしないんだよ」

純の声「県大会予選来週だぞ。大丈夫か？」

甲斐「予選？ ああ…でもとにかく明日は頼むよ」

純の声「分かった。だけどあんまり考え込むなよ」

甲斐「ああ。ありがとう。じゃあな（と電話を切る）」

畳んだ携帯を机の上に置く。

甲斐「…はあ」

甲斐、ため息をついて、手の中の携帯を眺める。  
甲斐心の声「…オレって実は嫌われてんのかなあ」  
その瞬間携帯がメールの到着を知らせる。  
ハッとする甲斐。操作する。  
甲斐の脳裏に渦巻く書き込みの文字と声。  
「カイ サイアク」  
「弱いってなんだよ！」  
「たかが剣道だろ」  
「たかがって何だよ」  
「試合見てたけど、楽勝じゃないっしょ」  
「楽勝とか言ってナマイキ」

甲斐、再び携帯を畳み、机の上に放る。  
甲斐「…はあ。もうヤだ」

甲斐「…思い切ってやめようかな」  
少しの間あって——  
携帯がメールの到着を知らせる。  
甲斐「またかよ！ もういい加減にしてくれよ！」  
甲斐、荒々しく携帯を手に取り、操作する。読む…  
甲斐の表情「え？」の顔に変わり固まる。(読んでいる)  
直樹の声「…カイ。何か書き込みでずいぶんだいぶ叩かれているみたいだけど、気にすることないぜ。言いたいヤツには言わせとけばいいさ。おれはお前のブログを見て、もっと練習やってやる！って気持ちになったよ。  
確かに昨日の面はすごかったけど、その前の突きはケッコー甘かったぞ。  
次は「楽勝」とはいかないからな」

直樹が書き込んだコメントの画面が入る。  
直樹が自分の部屋からコメントを書き込んでいるシーンが入る。  
直樹が甲斐の練習しているところをじっと見ているシーンが入る。

甲斐「(呟く) …榎本さん」  
甲斐の脳裏に直樹の顔が浮かぶ。(登場シーンの、鋭い視線の直樹)  
甲斐「(ほんの小さく、息をつくように笑う) …フ」  
甲斐、携帯を閉じて、机の上に置く。  
目を上げる。視線の先に竹刀が見える。

終わり

## 5. モデル授業の実施と指導項目・指導資料等の評価

### 5-1 目的

4 章で作成した指導資料、補助資料を利用して、調査研究協力校においてモデルとなる標準的な授業を実施する。アンケート、ヒアリングによる評価を元に、指導項目、指導資料の見直しを行い、当該指導テーマに係る指導項目、指導資料等を完成させる。

### 5-2 方法

#### 5-2-1 評価の方法

モデル授業の前後で、生徒を対象としたアンケートと、教師を対象としたヒアリング及びアンケートを実施し、その結果を元に指導項目及び指導資料等について評価する。アンケート及びヒアリングは、表 5-1 のとおり実施する。

なお、アンケートは、「とてもそう思う」「そう思う」「どちらともいえない」「そう思わない」「まったくそう思わない」の 5 段階で評価する。

表 5-1 アンケート及びヒアリング

	モデル授業前	モデル授業実施後	モデル授業実施 1 ヶ月後
生徒	アンケート<s01> (現状、問題意識や認識、知識・経験、授業への期待等)	アンケート<s02> (満足度、理解度、行動変容度(活用意識)等)	—
教師	ヒアリング<h01> (現状、問題意識や認識、生徒の状況、授業への期待等)	ヒアリング<h02> (全体評価、指導項目、テーマ、指導資料等)	ヒアリング<h03> (アクションプランワークシートの評価、改善点、全般)
		アンケート<t02> (満足度、カリキュラムの評価、今後の指導について、取り組みたいテーマ)	アンケート<t03> (アクションプランワークシートの評価、改善点、全般)

アンケート結果を元に、次の 3 つの観点から、指導項目・指導資料の評価を行う。

- ・ A.モデル授業
- ・ B.指導内容
- ・ C.指導資料等



アンケートの各項目は、その内容によって次の 12 種類に分類することができる。

- ①満足度
- ②理解度
- ③行動変容度
- ④学習内容
- ⑤教授法
- ⑥学習時間
- ⑦指導資料
- ⑧補助資料
- ⑨現状
- ⑩属性
- ⑪期待度
- ⑫講師

このうち①～⑧の分類は前述 A～C の 3 つの観点と関連付けられるので、①～⑧の分類に該当するアンケート項目の回答の数値を見ることで、A～C の観点の達成度を評価することができる。

①～⑧の分類と A～C の観点の関連付けは表 5-2 のとおりである。

表 5-2 アンケート項目の分類と 3 つの観点の関連付け

観点	分類
A.モデル授業	①満足度
	②理解度
	③行動変容度
B.指導内容	①満足度
	②理解度
	③行動変容度（活用意識）
	④学習内容
	⑤教授法
	⑥学習時間
	⑧補助資料
C.指導資料等	⑦指導資料
	⑧補助資料

A～C の観点と分類①～⑧の関連性、及び⑨～⑪の分類について、以下で説明する。

## A. モデル授業

モデル授業については、一般的に教育効果を評価する際に使用されるカークパトリックの 4 段階モデル\*4 に基づき評価を行う。

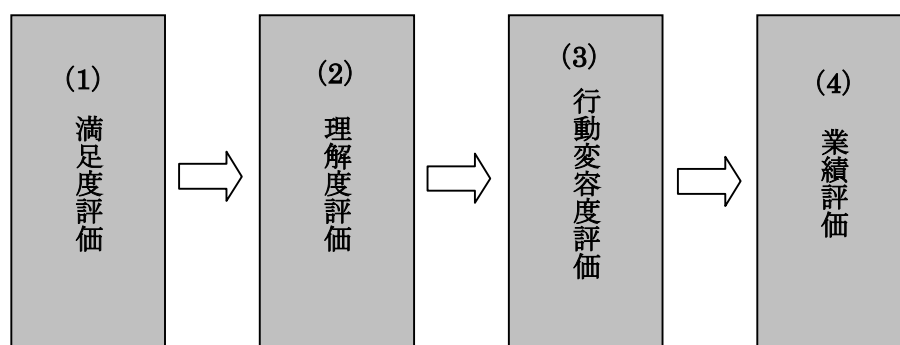


図 5-1 カークパトリックの 4 段階モデル

\*4 カークパトリックの 4 段階モデル（評価法）（Kirk Patrick's levels of training criteria）  
1959 年に経営学者のカーク・パトリック（Kirk.Patrick）によって提案された企業内教育の評価法。  
「カークパトリックモデル」ともいう。  
4 段階評価モデルで、評価要素を「反応」「学習」「行動」「業績」の 4 つに分けている。

- |        |  |
|--------|--|
| (1) 反応 | 満足度の評価<br>(研修を受ける者が特定のプログラムに対してもつ好意の程度)            |
| (2) 学習 | 学習目標に対する理解度の評価                                     |
| (3) 行動 | 研修結果として得られる学習者の行動変容の評価<br>(3 ヶ月後、またはそれ以降に継続的に確認する) |
| (4) 業績 | 研修を受けた結果、どの程度業績が上がったかを見る評価<br>(一般的に的確に評価することは難しい)  |
- (出典：日本教育工学会編 教育工学事典)

カークパトリックの 4 段階モデルにおいて、第 4 段階の業績評価は、一般的に業績の定義であり、また企業においても実施することは難しいことから、今回の評価にあたっては第 3 段階までの評価とする。

授業後の評価によって、カークパトリックモデルの第 1、2 段階「満足度」「理解度」の評価を行う。また、第 3 段階「行動変容度」は 1 ヶ月後の自己評価によって評価する。

本来の行動変容は研修実施後 3 カ月以降に評価し、行動が変わったことを確認するが、今回はモデル授業ということで、授業後に生徒用授業実施後アンケート<s02>の項目「学習した内容を活用したいと思う」(活用意識の評価) および 1 ヶ月後記入のアクションプランワークシートの項目「自分の行動が変わったと思う (自己評価)」を評価することで第 3 段階の評価とする。

- (1) 第 1 段階：満足度
  - 受講してよかったと思うこと
- (2) 第 2 段階：理解度
  - 学習目標を達成し、授業前より向上していること
- (3) 第 3 段階：行動変容度
  - 活用意識の評価：活用したいと思う動機付けをし、行動変容へのきっかけ作りをすること
  - 自己評価：1 ヶ月後に行動が変わったと思うこと

また、前述の①～⑪の分類の項目の中には、満足度・理解度の項目の評価に影響を与えると考えられる項目がある。

表 5-3 影響を与える項目

	影響を与える項目
満足度	②理解度
	③行動変容度（活用意識）
	⑤教授法
	⑧補助資料
	⑪期待度
	⑫講師
理解度	⑨現状

満足度、理解度の評価をする際には、表 5-3「影響を与える項目」の数値も参照するものとする。

## B. 指導内容

指導内容は、一般的には次の項目について学習者が評価する。

- ①満足度
- ②理解度（学習目標達成度）
- ④学習内容（今回は学習者には判断が難しいので教師のみとする）
- ⑤教授法／教材の活用（今回は教材＝補助資料とする）
- ⑥学習時間（今回は学習者には判断が難しいので教師のみとする）

今回は、「④学習内容」「⑥学習時間」については、学習者が中学生であること、授業の一環として行ったことから、学習者には評価させず、モデル授業を見学した教師の評価とする。

また、「⑧補助資料」「③行動変容度（活用意識）」も合わせて評価を行うこととする。

## C. 指導資料等

本授業で評価する資料は次の 2 種類である。

- ⑦指導資料 : 指導に先立ち、教師が使用する資料
- ⑧補助資料 : 指導資料を補足し、指導効果を高めるための教材  
(映像資料、ワークシート、掛図)

なお、モデル授業においては、これらの補助資料に加えて、学習のポイントやまとめを文章やグラフィックスで表示する掲示用スライド（プレゼンテーション資料）を作成した。

### 5-2-2 アンケート項目

以下に、生徒用アンケート<s01><s02>及び教師用アンケート<t02>の項目を、該当する分類ごとに並び変えたものを記載する。「No」の番号記載は、アンケート原本の通し番号のままとしてある。ただし、分類の「属性」及び「現状」の内の 4 項目は、フェイスシートとして「No」に F1～F4 の番号を新たに割り当てている。

#### 生徒用授業実施前アンケート<s01>

分類	No	アンケート項目		
属性	F1 *5	男女	男子 女子	
	F2 *5	インターネットを使っていますか	はい いいえ	
現状	F3 *5	何を使ってインターネットにアクセスしていますか	携帯 パソコン ゲーム機	
	F4 *5	インターネットの使用目的はなんですか	メール ブログ 情報検索 音楽 ゲーム ショッピング 学習	
	1*5	メールやブログでは、相手を思いやって内容や表現に気をつけている。		
	8	自分としては、友達とのコミュニケーションはうまくできている。		
	9*5	携帯電話やインターネット上のコミュニケーションで困ったことがありますか。	はい いいえ	
	10*5	「はい」の場合、解決できましたか。	はい いいえ	
	11*5	ネットとは関係なく、日常生活のコミュニケーションで困ったことがありますか。	はい いいえ	
	12*5	「はい」の場合、解決できましたか。	はい いいえ	
	理解度	2	インターネットの特性を理解している。	
		3	ネットでのコミュニケーションの特徴、対面との違い・類似点について理解している。	
4		相手の気持ちも自分の気持ちも尊重して、自分の言いたいことを伝える方法や注意点を理解している。		
5		自分の気持ちも相手の気持ちも尊重して、自分の言いたいことを言葉や文章にして伝えることができる。		
期待度	6	メールなどのネットでのコミュニケーションの特徴や留意点などを知りたい。		
	7	相手を傷つけずに自分の言いたいことを伝えたい。		

\*5 :

各選択肢を選んだ人数によって評価。その他の項目は「とてもそう思う=5」「そう思う=4」「どちらともいえない=3」「そう思わない=2」「まったくそう思わない=1」の5段階で評価している。

生徒用授業実施後アンケート<s02>

分類	No	アンケート項目
満足度	1	この授業を受けてよかった。
	2	参考：授業前に期待していた内容とあっていたと思う。
	3	参考：この授業を他の人に勧めたいと思う。
理解度	4	インターネットの特性を理解した。
	5	ネットでのコミュニケーションの特徴、対面との違い・類似点について理解した。
	6	相手の気持ちも自分の気持ちも尊重して、自分の言いたいことを伝える方法や注意点を理解した。
	7	自分の気持ちも相手の気持ちも尊重して、自分の言いたいことを言葉や文章にして伝えることができる。
講師	8	講師の説明はわかりやすかった。
教授法	10	グループディスカッションは学習に役立った。
	11	ロールプレイは学習に役立った。
補助資料	9	映像資料は学習に役立った。
	12	ワークシートは学習に役立った。
	13	掛図は学習に役立った。
活用意識	14	この授業で学んだことを今後に活かしていきたいと思う。

教師用授業実施後アンケート<t01>

分類	No	アンケート項目
満足度	1	指導する立場としてこの授業全般に満足した。
	2	参考：授業を実施する前に考えていた目的と合っていた。
	3	参考：この授業を他の人に勧めたいと思う。
内容 学習	4	取り扱っている学習内容は学習目標に照らして適切だった。
	5	取り扱っている学習項目は内容に照らして適切だった。
教授法	6	講義、映像資料、演習（ロールプレイ、グループディスカッション）の組み合わせは指導に役立った。
	7	映像資料の使用は指導に役立った。
	14	映像資料を使う指導方法は、学習目標に照らして適切だった。
	17	指導の中で映像資料を使うタイミングは適切だった。
	8	グループディスカッションの実施は指導に役立った。
	9	ロールプレイの実施は指導に役立った。
	10	ワークシートの使用は指導に役立った。
	19	ワークシートを使う指導方法は、学習目標に照らして適切だった。
	22	指導の中でワークシートを使うタイミングは適切だった。
	11	掛図の使用は指導に役立った。
	24	掛図を使う指導方法は、学習目標に照らして適切だった。
26	指導の中で掛図を使うタイミングは適切だった。	
時間 学習	12	1コマ（50分間）は内容に照らして適切だった。
（映像） 補助資料	13	映像資料の内容は指導上役に立った。
	15	映像資料はわかりやすかった。
	16	映像資料は教材としてとして使いやすかった。
（ワークシート） 補助資料	18	ワークシートの内容は指導上役に立った。
	20	ワークシートの項目はわかりやすかった。
	21	ワークシートは生徒にとって記入しやすかった。
（掛図） 補助資料	23	掛図の内容は指導上役に立った。
	25	掛図は教材として使いやすかった。
意識 活用	28	この授業を実施してみたいと思われませんか。

### 5-2-3 モデル授業実施概要

実施概要は、表 5-4 のとおりである。

表 5-4 モデル授業の実施概要

＜第 1 回目＞

調査研究協力校	S 区立 H 中学校
日時	平成 22 年 2 月 10 日（水） 13:35～14:25
対象	中学 2 年生（19 名）
授業枠	道徳

＜第 2 回目＞

調査研究協力校	S 区立 Y 中学校
日時	平成 22 年 2 月 17 日（水） 13:35～14:25
対象	中学 2 年生（32 名）
授業枠	道徳

＜第 3 回目＞

調査研究協力校	S 区立 Y 中学校
日時	平成 22 年 2 月 19 日（水） 13:35～14:25
対象	中学 1 年生（35 名）
授業枠	道徳

＜第 4 回目＞

調査研究協力校	S 区立 Y 中学校
日時	平成 22 年 2 月 19 日（水） 14:35～15:25
対象	中学 1 年生（35 名）
授業枠	道徳

今回は第 1 回目のモデル授業での実施結果および評価に基づき、カリキュラム、ワークシート類を改善し、第 2 回目以降のモデル授業を実施した。そのため、第 1 回目の評価と第 2 回目以降の評価を分けて報告する。

モデル授業は、調査研究協力校 2 校で実施した。モデルとなる標準的な授業等を実施するために、情報モラルの授業を含め、教育の情報化に関する先進的な取り組みを実施しておらず、また学級崩壊などの問題を抱えていない学校を選択する必要があった。東京都内の公立校について個別にモデル授業実施の依頼をした中で、授業内容および授業実施時期に、ご理解をいただいた中学校 2 校で実施することにした。

## 5-3 第 1 回モデル授業の評価

### 5-3-1 第 1 回モデル授業において使用した指導資料、補助資料

#### (1) 指導の展開例

第 1 回モデル授業で使用した指導の展開例は、下記のとおりである。

流れ	時間	学習活動	指導上、運営上のポイント
挨拶	2 分		
導入	7 分	<b>【映像視聴】</b> テーマ：自分が存在するコミュニティや集団の中での存在をお互いに認め合うことの大切さ ビデオクリップを視聴する。	
展開 1	20 分	<b>【実習 1】</b> グループディスカッション、発表＋まとめ  ●内容 ①ワークシートに記入する。 ②グループに分かれ、下記について話し合う。 ・甲斐くんの発言のしかたで注意しなければならなかったことは何か。 ・直樹くんが書いたコメントについて、どのように感じたか。 ・純くんの励ましのコミュニケーションをどう思うか。 ③グループごとに発表する。 ④まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 不特定多数の人に発信するときは、慎重に発言し、自分の発言に責任を持つように心がける。</li> <li>・ ブログへの誹謗中傷などに同調しないで、自分の気持ちを勇気を持って正しく伝える。</li> <li>・ ネットだけでなく、直接会ったり、電話で話したりする。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 掛図を黒板に貼っておく。</li> <li>・ グループ分けおよび班長は、事前に決めておく。1 グループ 5～6 人</li> <li>・ ワークシート 1 を配布する。</li> </ul>
展開 2	2 分	<b>【講義 2】</b> 自分の気持ちも相手の気持ちも尊重して、言葉にして伝えることができるコミュニケーション手法（「アサーション」）を学ぶ。 ●内容 自他を尊重するコミュニケーションの基礎である 3 つのタイプ（攻撃的、がまん、自他を尊重）の特徴を学ぶ。  例：友だちに貸した本が汚れた。 ・ 攻撃的なタイプ （「あーこんなに汚して。どうしてくれるんだよ。おまえはいつもそうなんだから。だらしがないな」） ・ がまんするタイプ （「ちょっと汚れているけど、いいよ。もともと汚れていたんだ。」） ・ 自分の気持ちも相手の気持ちも尊重するタイプ	アサーションの基本を学ぶ。3 つのタイプの中で、自分はどのタイプなのか、場面ごとにどんな話し方をしているかを振り返る。  事例のイラストを盛り込んだワークシート 2 を配布し、教師が模範演技を示す。例題のせりふを読み、3 つのタイプをイメージしやすくする。



		（「本が汚れてしまって残念だな。（ぼくは）この本をととても大事にしていたんだ。」）	
	15分	<p><b>【実習 2】 ロールプレイ</b> 自他を尊重した話し方を実現するために、「I メッセージ」（私を主語にして話すコミュニケーション手法）で気持ちを伝えることを学ぶ。</p> <p>●内容 ビデオクリップを受けて、甲斐くんを励ますコメントを「I メッセージ」で書く。 ①甲斐くんを励ますために、コメントを書く（ネット・コミュニケーション）。 ②コメントの文章が「You メッセージ」になっていたら、「I メッセージ」に言い換えて文章を書く。 ③2人1組になり、コメントを読む。（役割を交代する。） （グループ内の意見交換でもよい。） ④感想を述べ合う。</p> <p>●まとめ ・「I メッセージ」で話すと、相手も尊重し、自分の気持ちも正確に伝えることができる。「I メッセージ」は、思いやりの第一歩。</p>	<div style="border: 1px solid black; background-color: #e0ffe0; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>「I メッセージ」で話すことにより、相手も自分も尊重して気持ちを伝えることができることを学ぶ。</p> </div> <p>生徒の反応を見て、ロールプレイを行ってもいいし、グループ内の発表でもいい。</p>
まとめ	2分	<b>【まとめ】</b> 授業で学んだことをワークシートに記入する。	
	2分	<b>【まとめ】</b> 相手も自分も尊重するコミュニケーションを心がけることを伝える。 今まで相手を思いやるコミュニケーションを上手にできなかった人も、今日から行動を変えていくことを促す。	自分の言葉で生徒にメッセージを伝える。

オプション		<b>【朗読】</b> 「自分を好きになる本」*6 など、授業の振り返りに適切な本を選び、朗読を聞く。	授業の後で、朗読すると効果的である。
		<b>【振り返り】 アクションプラン</b> 授業後、アクションプランに記入する。 「ネット・コミュニケーション（メール、ブログ）、対面のコミュニケーションにおいて、相手を尊重したり、思いやりする行動をとること」についてのアクションプラン	この授業を通じて、自分の問題として考えてみたときに、すぐに変えられることを自分で宣言することで、行動の変容を促すことをめざす。

\*6 「自分を好きになる本」は、アサーション関連書籍の1つ（別添「指導資料」参照）。自他尊重のコミュニケーションなど、授業のまとめに適した内容が記述されているため、朗読用の書籍として選定した。その他、指導者が適切と思われる書籍を選定してよい。

(2) ワークシート

第 1 回モデル授業で使用したワークシートは、下記のとおりである。

<ワークシート 1>

## ワークシート 1

---

テーマ：「主体的なコミュニケーション（自他尊重のコミュニケーション）」

年 組 番 名前 \_\_\_\_\_

**1** 甲斐くんがブログに投稿したとき注意しなければならなかったことは何でしょうか。

カイの練習一画録

（昨日の練習がいかり！）

2015-01-03 15:03:45

◆ 4 中と対抗戦！

今日、4 中と対抗戦！  
どうなったと思う？

E 先輩と対戦。  
もちろん、面で勝利！！

結構本番！  
E 先輩に勝ってマジうれしい！！

--- 昨日の試合 ---

この試合にコメントする (52)

ブログにアップする

**2** 直樹くんが書いたコメントについて、あなたはどのように感じましたか。

……カイ。何か書き込みでだいふ叩かれてい  
るみたいけど気にすることないぜ。  
言いたいやつには言わせておけばいいぞ。  
おれはお前のブログを見てもっと練習やって  
やる！って気持ちになったよ。  
確かに昨日の面はずこかったけど、その前の  
突きは、ケッコウ甘かったぞ。  
次は“楽勝”とはいかないからな。

--- END ---

**3** 純くんの対面や電話での励ましのコミュニケーションをどう思いますか。

**4** あなたが剣道部員だったとしたら、甲斐くんを励ますために、ブログにどのようなコメントを書き込みますか。

**5** 本日の授業で学んだことを記入してください。

<ワークシート 2>

ワークシート 2

友だちに貸した本が汚れてしまった場面の会話

**A** 攻撃的なタイプ

本貸してくれてありがとう。  
ちょっと紅茶をこぼしちゃったんだ  
けど…。

「本が汚れている。どうしてくれるの！」  
と怒っている様子。

あ〜あ、こんなに汚して  
どうしてくれるんだよ！  
おまえはいつもそうなんだから。  
いつもだらしもない！  
弁償しろよ！

そんなに怒らなくてもいいだよ。  
ちょっと紅茶をこぼしただけだよ。  
そっちな、おまえに  
この間 CD 貸したら、音が飛ぶんだよ。  
どうしてくれるんだよ！

**B** 受動的、がまんするタイプ

本貸してくれてありがとう。  
ちょっと紅茶をこぼしちゃったんだ  
けど…。

言いたいことを言いたいの(に)それを  
飲み込んでしまっている様子。

ちょっと汚れているけど、  
いいんだよ。  
もともと汚れていたんだ。

**C** 相手を思いやって、自分も言いたいことを言うタイプ

本貸してくれてありがとう。  
ちょっと紅茶をこぼしちゃったんだ  
けど…。

言いたいことを言ってスッキリしている、  
さわやかな様子。

本が汚れてしまって残念だな。  
この本を大事にしていたんだ。

ごめん。  
これから気をつけるよ。

### (3) モデル授業の様子

モデル授業の様子を写真にて紹介する。



グループで話し合い。班長が司会進行。



グループで話し合った結果を発表。



講師が授業をまとめる。

### 5-3-2 第 1 回モデル授業の評価結果

#### A. モデル授業

##### A-1 満足度の評価

生徒用授業実施前アンケート<s01>の結果より、「期待度」の評価結果は表 5-5 のとおりである。「期待度」は、満足度に影響を与える項目として参照するものとする。

表 5-5 「期待度」に関する評価結果

		アンケート項目	回答
期待度	1	メールなどのネットでのコミュニケーションの特徴や留意点などを知りたい。	3.1
	2	相手を傷つけずに自分の言いたいことを伝えたい。	3.9

生徒用授業実施後アンケート<s02>の結果より、授業受講後の「満足度」の評価結果は表 5-6 とおりである。

表 5-6 「満足度」に関する評価結果

	No	アンケート項目	回答
満足度	1	この授業を受けてよかった。	3.0
	2	参考：授業前に期待していた目的とあっていたと思う。	3.0
	3	参考：この授業を他の人に勧めたいと思う。	3.0

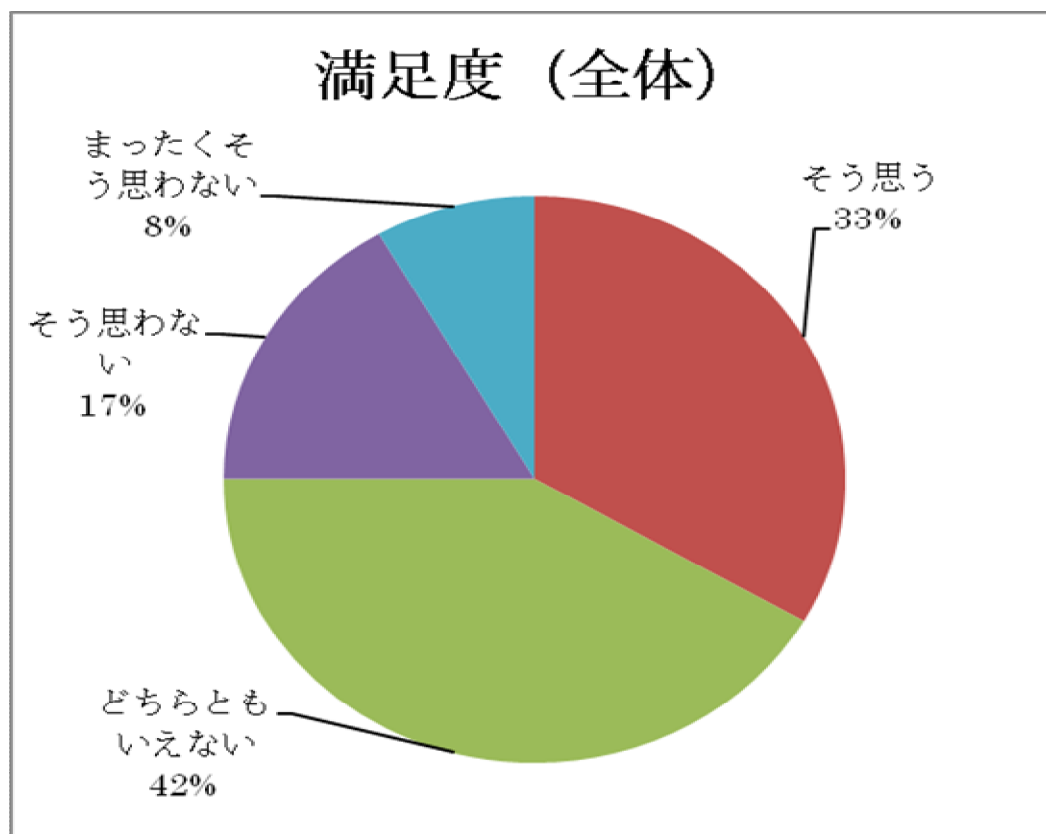


図 5-2 「満足度」に関する評価結果

生徒用授業実施後アンケート<s02>の結果より、満足度に影響を与える観点である「理解度」「講師の説明」「教授法」「補助資料」「行動変容度（活用意識）」の評価結果は表 5-7 のとおりである。

表 5-7 「理解度」「講師の説明」等に関するの評価結果

		アンケート項目	全体
理解度	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットの特性を理解した。</li> <li>・ネットでのコミュニケーションの特徴、対面との違い・類似点について理解した。</li> <li>・相手の気持ちも自分の気持ちも尊重して、自分の言いたいことを伝える方法や注意点を理解した。</li> <li>・自分の気持ちも相手の気持ちも尊重して、自分の言いたいことを言葉や文章にして伝えることができる。</li> </ul>	3.6
講師	2	講師の説明はわかりやすかった	3.8
教授法	3	教授法 <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループディスカッションは学習に役立った</li> <li>・ロールプレイは学習に役立った</li> </ul>	3.3
補助資料	4	補助資料 <ul style="list-style-type: none"> <li>・映像資料は学習に役立った</li> <li>・ワークシートは学習に役立った</li> <li>・掛図は学習に役立った</li> </ul>	3.4
活用意識	5	この授業で学んだことを今後活かしていきたいと思う。	3.2

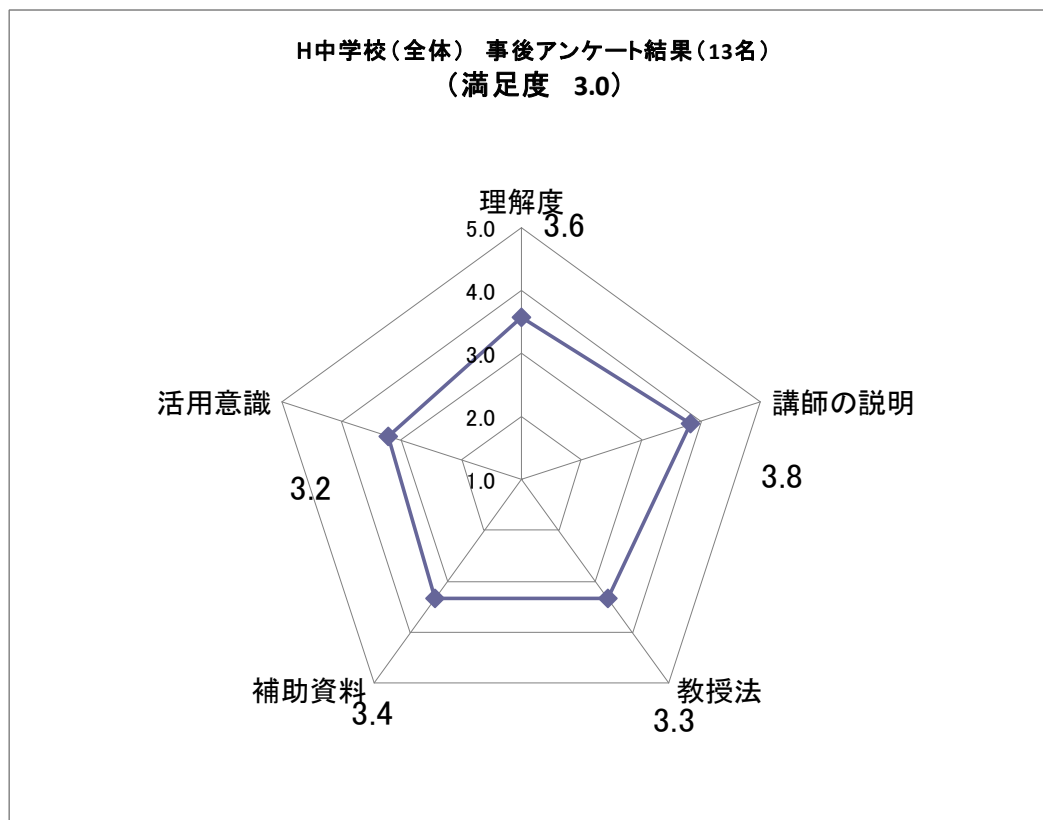


図 5-3 「理解度」「講師の説明」等に関するの評価結果

## A-2 理解度の評価

生徒用授業実施前アンケート<s01>の結果より、「現状」の評価結果は表 5-8 のとおりである。「現状」は、理解度に影響を与える項目として参照するものとする。

表 5-8 「現状」に関する評価結果

		アンケート項目	全体
現 状	1	メールやブログでは、相手を思いやって内容や表現に気をつけている。	4.0
	2	自分としては、友達とのコミュニケーションはうまくできている。	3.1

生徒用授業実施後アンケート<s02>の結果より、各学習内容についての「理解度」の評価結果は表 5-9 のとおりである。

表 5-9 「理解度」に関する評価結果

		アンケート項目	事前	事後	有意差
理 解 度	1	インターネットの特性を理解した	3.1	3.7	○
	2	ネットでのコミュニケーションの特徴、対面との違い・類似点について理解した。	3.5	3.5	
	3	相手の気持ちも自分の気持ちも尊重して、自分の言いたいことを伝える方法や注意点を理解した。	3.7	3.7	
	4	自分の気持ちも相手の気持ちも尊重して、自分の言いたいことを言葉や文章にして伝えることができる。	3.5	3.5	—

「インターネットの特性を理解した」という点では、モデル授業の前後で顕著な有意差がある。



### A-3 行動変容度の評価

#### (1) 活用意識の評価

生徒用授業実施後アンケート<s02>結果より、授業後の「活用したいという意識」の評価結果は表 5-10 のとおりである。

表 5-10 「活用したいという意識」に関する評価結果

		アンケート項目	全体
活用意識	1	この授業で学んだことを今後に活かしていきたいと思う。	3.2

加えて、授業後に記入したアクションプランワークシートの内容を評価する。アクションプランワークシートに記載された内容は表 5-11 のとおりである。

表 5-11 アクションプランワークシートの内容分類

	記入内容	件数
1	相手のことを考えていきたいことをいっていききたい	1
2	自分の意見をしっかりといえるようにしたい	1
3	友だちを大切にしたい	1
4	インターネットの使い方を気をつけたい	1
5	まじめに	1
6	ちょっとあらためる	1
7	ブログは書かない	1
8	これからも同じように過ごしていきたい	2
9	活かしたい	1

#### (2) 行動の変化の評価

モデル授業の 1 ヶ月後にあらためてアクションプランワークシートをもとに自己評価する機会を設け、行動変容を確認することを考え依頼したが、時間的に難しく、また生徒のワークシートの記入状況からも 1 ヶ月後に評価することは難しいのではないかとのことであった。そのため、H 中学校では行わないこととした。

## B. 指導内容

指導内容の評価結果は表 5-12 のとおりである。

表 5-12 指導内容に関する評価結果

教師/生徒 へのアンケート項目	教師	生徒
満足度（指導する立場として満足できる授業/受けてよかった）	3.4	3.0
学習内容*7/理解度	3.3	3.6
教授法*7	3.8	3.3
学習時間*7	3.0	N/A
補助資料*7	3.9	3.4
活用意識（今後授業をしてみたい）/ （今後活かしていきたい）	2.7	3.2
平均	3.3	3.4

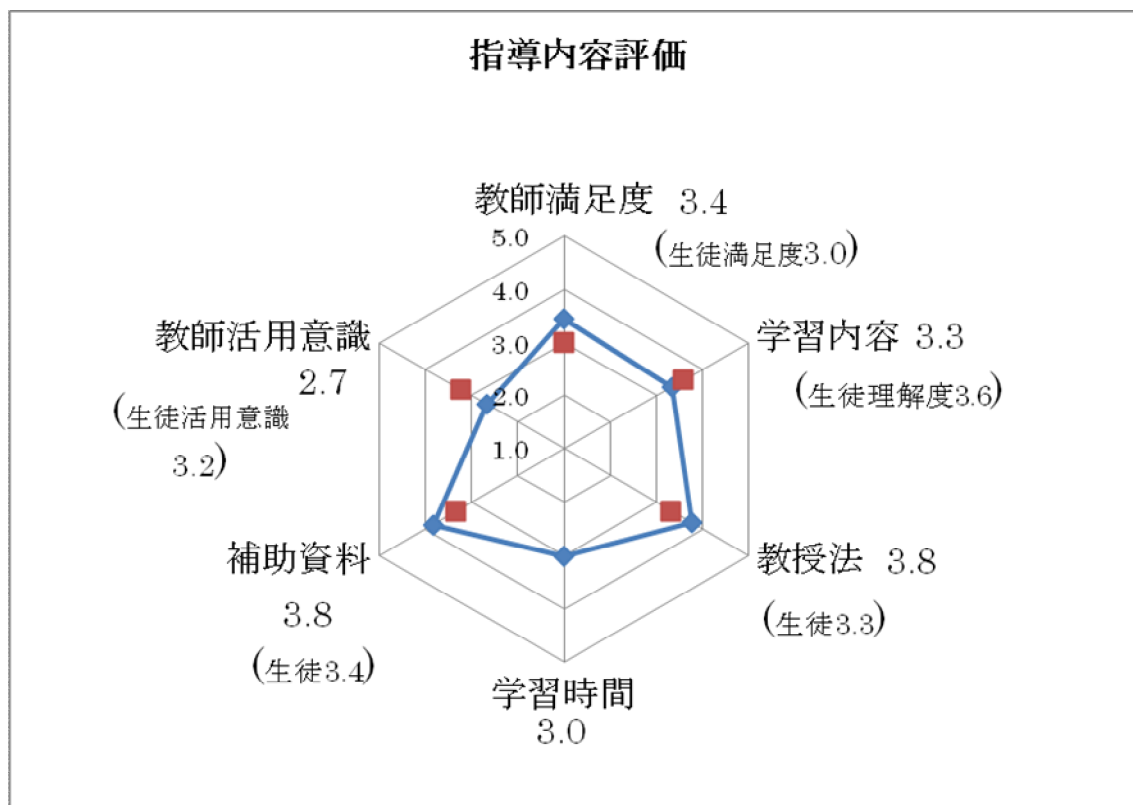


図 5-4 指導内容に関する評価結果

\*7

- 学習内容（教師）
  - －取り扱っている学習内容は学習目標に照らして適切だった。
  - －取り扱っている学習項目は内容に照らして適切だった。
- 教授法
  - －講義、映像資料、演習（ロールプレイ、グループディスカッション）の組み合わせは指導に役立った。（教師）
  - －ロールプレイ、グループディスカッションは指導/学習に役だった（教師/生徒）
  - －映像資料、ワークシート、掛図の使用は指導に役だった（教師）
  - －映像資料、ワークシート、掛図を使用する指導方法は学習目標に照らして適切だった（教師）
  - －映像資料、ワークシート、掛図の使用するタイミング適切だった（教師）
- 学習時間（1コマ（50分間）は内容に照らして適切だった）（教師）
- 補助資料（教師/生徒）
  - －映像資料、ワークシート、掛図の内容は指導/学習に役だった（教師/生徒）
  - －映像資料、ワークシート、掛図はわかりやすかった/使いやすかった（教師）

## C. 指導資料等

### (1) 指導資料

モデル授業を担当した専門講師による指導資料の評価は表 5-13 のとおりである。

表 5-13 講師による指導資料に関する評価結果

	No	アンケート項目	回答	平均
指導資料	13	指導資料は授業を効果的に円滑に実施するための準備に役に立った。	5.0	5.0
	14	指導資料はわかりやすかった。	5.0	
	15	指導資料は準備するのに使いやすかった。	5.0	

回答：5段階評価結果

「とてもそう思う=5」「そう思う=4」「どちらともいえない=3」「そう思わない=2」「まったくそう思わない=1」  
として5段階で回答させた平均値

### (2) 補助資料

生徒用授業実施後アンケート<s02>の結果による補助資料の評価は表 5-14 とおりである。

表 5-14 生徒による補助資料に関する評価結果

	No	アンケート項目	回答	平均
補助資料	9	映像資料は学習に役立った。	3.4	3.4
	12	ワークシートは学習に役立った。	3.3	
	13	掛図は学習に役立った。	3.4	

回答：5段階評価結果

「とてもそう思う=5」「そう思う=4」「どちらともいえない=3」「そう思わない=2」「まったくそう思わない=1」  
として5段階で回答させた平均値

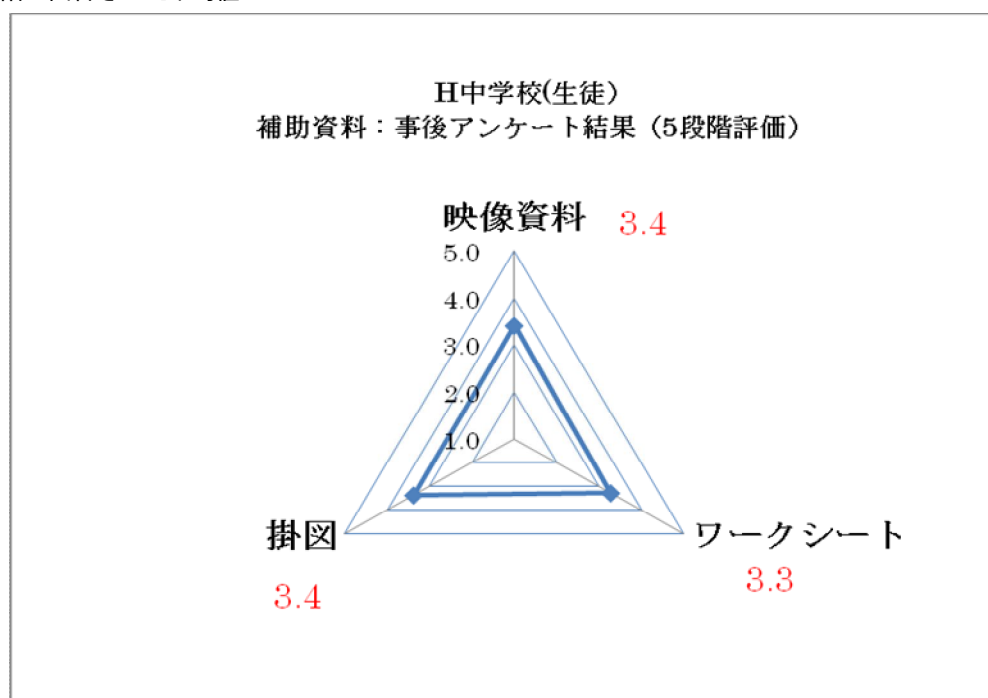


図 5-5 生徒による補助資料に関する評価結果

また、教師による補助資料の評価は表 5-15 のとおりである。

表 5-15 教師による補助資料に関する評価結果

	No	アンケート項目	回答	平均
補助資料	13	映像資料の内容は指導上役に立った。	4.7	4.2
	15	映像資料はわかりやすかった。	4.0	
	16	映像資料は教材として使いやすかった。	4.0	
	18	ワークシートの内容は指導上役に立った。	3.3	3.1
	20	ワークシートの項目はわかりやすかった。	3.0	
	21	ワークシートは生徒にとって記入しやすかった。	3.0	
	23	掛図の内容は指導上役に立った。	4.3	4.3
	25	掛図は教材として使いやすかった。	4.3	

回答：5段階評価結果

「とてもそう思う=5」「そう思う=4」「どちらともいえない=3」「そう思わない=2」「まったくそう思わない=1」  
として5段階で回答させた平均値

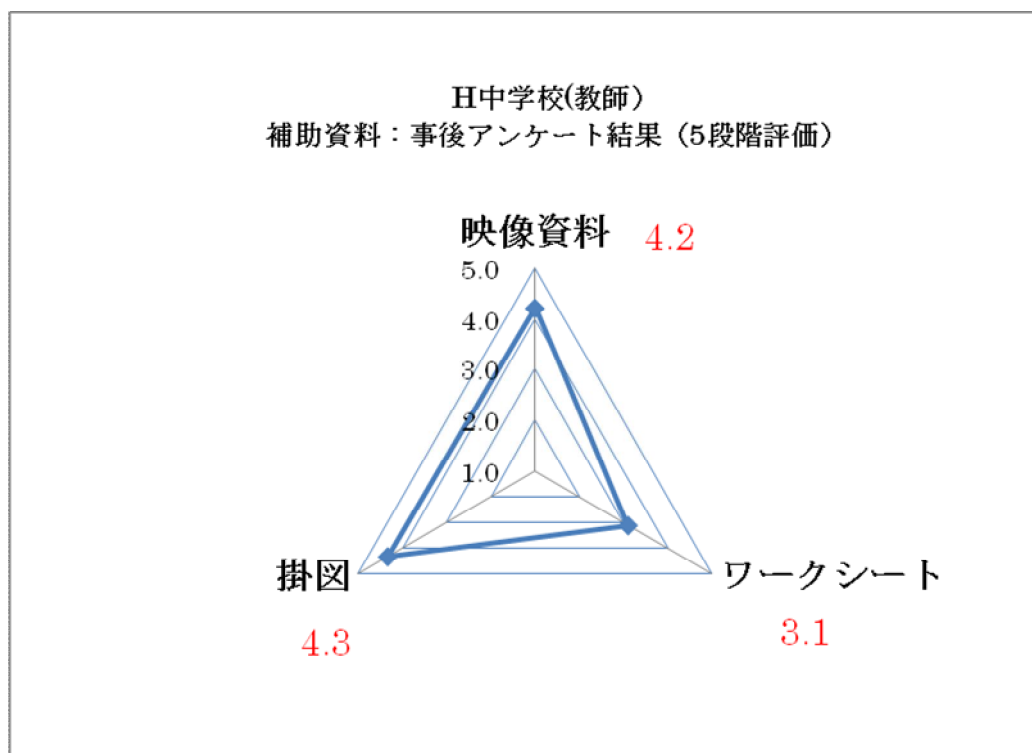


図 5-6 教師による補助資料に関する評価結果

### 5-3-3 第 1 回モデル授業に関する考察

#### (1) 事前ヒアリング及び授業実施前アンケートの結果

担任の教師への事前ヒアリングでは、生徒は、グループでの話し合いの経験が少ないことに加え、意見を言うことや考えを文章にまとめることが苦手なため、グループ活動は難しいかもしれないという意見を頂いた。生徒間のコミュニケーションについては、過去にホームページの書き込みをめぐる問題を共有したことから、他の人のことを考え、温かい言葉がけができるようになってきた状況であるとのことであった。

生徒の授業実施前アンケートからは、ほとんどの生徒がインターネットを使用し、メール、情報検索、またブログなども使用していることがわかった。学習内容については「どちらかといえば理解している」（すべて 5 段階評価 3.0 以上）という自己評価だった。今回の授業については「期待していない」と書いている生徒が半数いたことから、積極的な姿勢でモデル授業をとらえていないものの、過去の問題共有の経験のためか、「メールやブログでは相手を思いやって内容や表現に気を付けている」「相手を傷つけずに自分の言いたいことを伝えたい」（3.9）と、授業で取り扱う内容については期待や関心があることが伺えた。

#### (2) 授業実施後アンケートの結果分析

「講師のわかりやすさ」についての評価は高い（3.8）ものの、満足度（3.0）、活用度（3.2）（実際に活用してみたい）は低かった。また「生徒ははじめてのことには抵抗感を覚える傾向にある」という教師の意見も合わせて、学習目標、内容、指導方法などを再検討した。

理解度については、事前事後のアンケート結果からは「インターネットの特性」については向上したが、その他については事前の理解度との差はなかった。

今回の学習内容はすでに習得済みであったことが考えられるが、一方、ワークシートへの記入状況や授業を受けていた状況などから、事前事後とも適切な回答が得られていたのかどうか多少の疑問が残る。しかし、中学生は発達段階にあり、授業に積極的に取り組めない生徒がいることも考慮して、状況に合わせて指導方法を変更することができるように、指導資料を検討する必要があると考えた。

### (3) 第 2 回目以降のモデル授業に向けての改善点

第 1 回目のモデル授業の評価結果から、どのようにしたらスムーズに授業が進行するか、どのようにしたらワークシートに記入しやすくなるかを再検討した。

まず、「グループディスカッション」や「ロールプレイ」といった言葉は、教師も生徒も抵抗感があるため、それぞれ「話し合い」「コミュニケーション手法の練習」と言い換え、抵抗なく学習活動ができるように修正した。

また、「I メッセージ」「You メッセージ」といった専門用語を使わずに、「私を主語にする」「あなたを主語にする」というように、言い換えた。

次のように指導内容、指導方法、ワークシート、提示用スライドを改善した。

- 話し合い（グループディスカッション）の内容
  - －質問を絞る。
  - －ワークシートに記入する項目を 5 回→3 回に変更する。
- アサーションの言い換えの練習（ロールプレイ）の内容の変更
  - －アサーションについてわかりやすい事例を準備し、まず説明する。
  - －次に例題を出し、ワークシートに記入させる。
  - －記入した解答を 2 人 1 組になって練習する。  
練習のとき、模範解答を準備しておき、解答を書けなくても練習できるようにする。
- アサーションの言い換えの練習（ロールプレイ）とビデオクリップとの関連付け

ビデオクリップに関連して、甲斐くん（ビデオクリップの主人公）を励ますためにコメントを書く練習を行った。しかし、第 1 回目のモデル授業では、生徒から「つい軽口を言ってしまうブログが炎上しかけた人を励ましたくない」「そもそもトラブルに巻き込まれたくない」という回答があり、言い換えの練習まで行きつかなかった。そこで、ビデオクリップとの関連をつけずにアサーションについてわかりやすい事例を作りなおした。

- ワークシートの修正
  - －記入しやすいようにイラストを挿入する。
  - －発問を修正する。

## 5-4 第 2 回～第 4 回モデル授業の評価

### 5-4-1 第 2 回～第 4 回モデル授業で使用した指導資料、補助資料

#### (1) 指導の展開例

第 2 回～第 4 回モデル授業で使用した指導の展開例は、下記のとおりである。

流れ	時間	学習活動	指導上の留意点
挨拶	1 分	○本時の目標を確認する  自分も他人も尊重するコミュニケーションについて学ぼう	
導入	7 分	○ビデオクリップを視聴する	視聴後、ブログに書き込みがあると携帯電話にメールが来る設定にしていることを伝える。
展開 1	18 分	○ビデオクリップについて話し合う ①ワークシートに記入する。 ②グループに分かれ、下記について話し合う。 ・甲斐くんの発言のしかたで注意しなければならなかったことは何か。 ・直樹くんが書いたコメントのいいところは何か。 ③グループごとに発表する。 ④まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1 班 5～6 人。班長を事前に決めておく。</li> <li>・登場人物の掛図を黒板に貼る。</li> <li>・ワークシート 1 を配布する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;"><b>展開 1 のまとめ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の気持ちを考えて発言する。</li> <li>・ブログへの誹謗中傷などに同調しないで、勇気を持って自分の気持ちを伝える。</li> </ul> </div>
展開 2	18 分	○自他を尊重するコミュニケーション手法を練習する。 ①コミュニケーションの 3 つのタイプ（攻撃的、がまん、自他を尊重）の特徴を知る。  ②スライド（ワークシート）の例題を見て、攻撃的な言い方から自他を尊重する言い方に言い換えることを知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート 2 を配布する。</li> <li>・表面の 3 つのタイプをイメージしやすいように、指導者がメール内容を読む。 A. 攻撃的なタイプは、攻撃的に読む。 B. がまんするタイプは、言いたいことが言えない雰囲気を読む。 C. 自分の気持ちも相手の気持ちも尊重するタイプは、残念な様子が伝わるように、攻撃的にはならないように読む。</li> <li>・自分はどのタイプなのかイメージさせるとよい。</li> <li>・自他を尊重した話し方を実現するために、私を主語にして話すコミュニケーション手法で気持ちを伝えることを学ぶ。</li> </ul>

流れ	時間	学習活動	指導上の留意点
展開 2 続き		③ワークシート 2 の「練習」を書く。 ④書いたものを発表する。  ⑤2 人 1 組になり、コメントを読む。  ⑥感想を述べ合う。 ⑦まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私を主語にして話すコミュニケーション手法になっているかを確認する。</li> <li>・スライドの解答例を示してもよい。</li> <li>・役割を交代させる。</li> <li>・グループ内の発表でもよい。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>展開 2 のまとめ</b></p> <p>私を主語にして話すと、相手も尊重し、自分の気持ちも正確に伝えることができる。私を主語にして話すことは、思いやりの第一歩。</p> </div>
まとめ	6 分	<p><b>○本時のまとめ</b></p> ①授業で学んだことをワークシートに記入する (5 分)。 ②まとめを聞く (1 分)。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>本時のまとめ</b></p> <p>相手も自分も尊重するコミュニケーションを心がける。今まで相手を思いやるコミュニケーションを上手にできなかった人も、今日から行動を変えていってほしい。</p> </div>

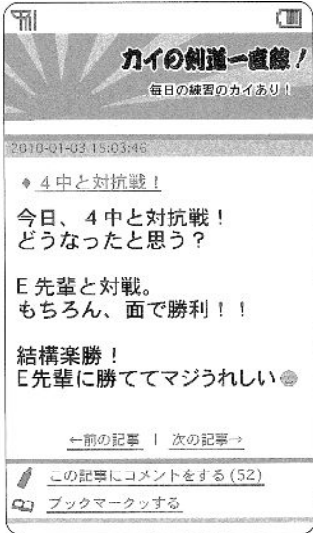
オプション	3 分	自他尊重に関する本など、クラスの状態に適した内容の本の朗読を聞く。	授業の後に朗読すると効果的である。
	7 分	授業後、アクションプランを記入する。	自分の問題として考えてみたときに、「ネット・コミュニケーション、対面のコミュニケーションにおいて、相手を尊重したり、思いやったりする行動をとること」について宣言させることで、行動の変容を促す。



(2) ワークシート

第 2 回～第 4 回モデル授業で使ったワークシートは、下記のとおりである。

<ワークシート 1>

ワークシート 1	
テーマ：「主体的なコミュニケーション（自他尊重のコミュニケーション）」	
年 組 番 名前	
<p>1 甲斐くんがブログに投稿したとき注意しなければならなかったことは何でしょうか。</p>	
<p>2 直樹くんのコメントのいいところは何だと思いますか？なぜこのようなコメントを書けたと思いますか？</p>	<p>……カイ。何か書き込みで だいぶ叩かれているみたい だけど気にすることないぜ。 言いたいヤツには言わせて おけばいいさ。 おれはお前のブログを見て もっと練習やってやる！ って気持ちになったよ。 確かに昨日の面はすごかった けど、その前の 突きは、ケッコー甘かったぞ。 次は“楽勝”とはいかない からな。</p> <p>---- END ----</p>
<p>3 本日の授業で学んだことを記入してください。</p>	

<ワークシート 2 (表) >

ワークシート 2

友だちに貸した本が汚れてしまった場合のメールのやりとり

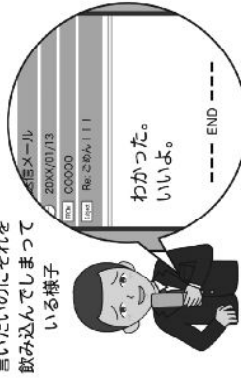
**A** 攻撃的なタイプ



「本が汚れている。どうしてくれるの!」と怒っている様子



言いたいことを言いたいのを飲み込んでしまっている様子



逆切れ

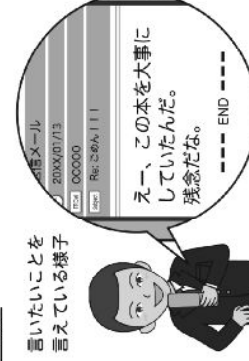
**B** 受動的、がまんするタイプ



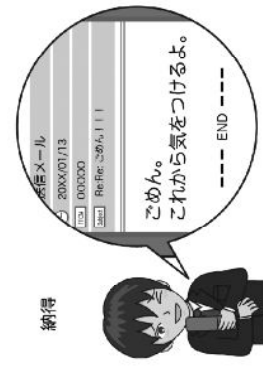
**C** 相手を思いやって、自分も言いたいことを言うタイプ



言いたいことを言えている様子



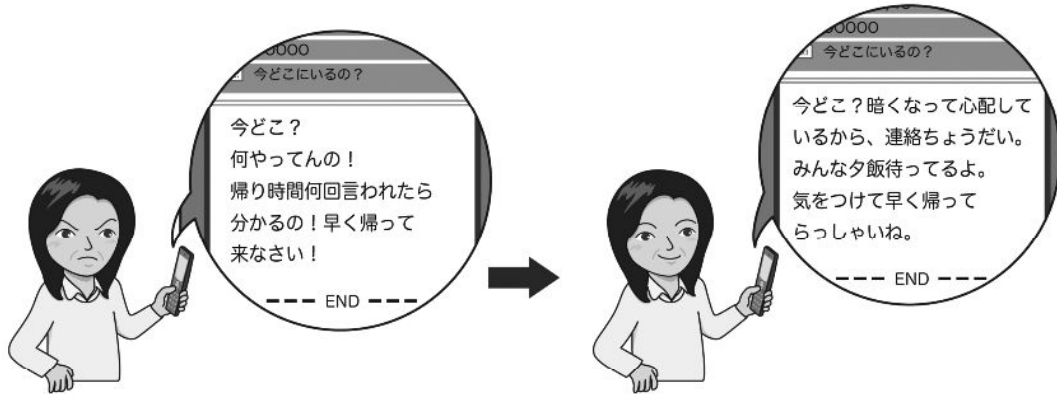
納得



< ワークシート 2 (裏) >

例題

あなたは、友だちと遊びにでかけました。あまりに楽しくて少し帰りが遅くなりもう帰らなければと思っていたとき、家族からこんなメールが届きました。

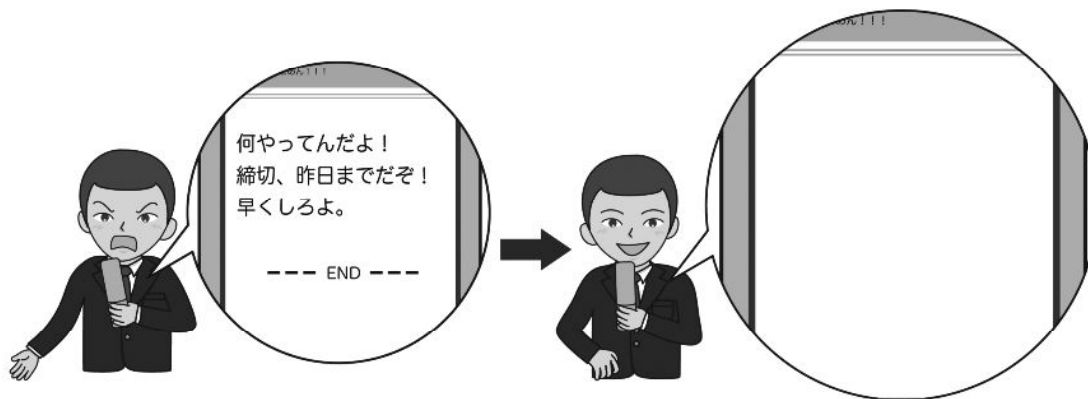


主語があなたになっている。  
相手を非難している。

主語が私になっている。  
相手を思いやる気持ちが伝わる。

練習

林間学校に行く先の環境について、調べ学習をしています。各自担当を決め、班ごとに壁新聞にまとめるのですが、あなたは体調を崩して、原稿の提出が1日遅れてしまいました。そんな時、友だちから「何やってんだよ! 締切、昨日までだぞ! 早くしろよ。」とのメールが届き、あなたはやる気をなくしてしまいました。こんな時、友だちからのメールがどのような文面だったら、あなたはやる気になるでしょうか。右下のイラストの携帯電話の画面に、友だちの言葉で書いてください。



<ワークシート 3>

<ワークシート3> アクションプラン (振り返り用シート)

今回の授業はいかがでしたか。皆さんがそれぞれ授業で学んだこと、考えたことを参考に、日常生活に活かしていただきたいと思っています。

- (1) 授業を受けて自分の行動やふるまを見直し、一番変えたいと思うものについて記入してください。
- (2) 1ヶ月後にまた見直してみよう。

年 組 番 名前: \_\_\_\_\_ 記入日 (1) : \_\_\_\_\_  
 \_\_\_\_\_ 記入日 (2) : \_\_\_\_\_

(1) 授業後に記入してください		(2) 1ヶ月後に見直しましょう	
今の自分の行動やふるまい	授業を受けてこれからはどのようなようにしていきたいと思えますか	自分の行動やふるまいが変わったと思いますか	この結果を見て今後について聞かせてください
		適切だと思う項目に○をつけてください。 <small>                     思ったより変えたい                      そう思う                      どちらでもない                      そう思う                      とても変えたい                 </small>	
		また、そう思う理由はなぜでしょうか。	

### (3) モデル授業の様子

モデル授業の様子を写真にて紹介する。



ワークシートに記入した言葉を  
声に出して言い合う  
＜第 2 回モデル授業より＞



ワークシートに記入する  
＜第 3 回モデル授業より＞



映像を見てワークシートに  
記入した内容を発表する  
＜第 4 回モデル授業より＞

## 5-4-2 第 2 回～第 4 回モデル授業の評価結果

### A. モデル授業

#### A-1 満足度の評価

以下は、第 1 回モデル授業の評価結果に基づき、改善したカリキュラムで実施した第 2 回～第 4 回モデル授業についての評価である。

生徒用授業実施前アンケート<s01>の結果より、「期待度」の評価結果は表 5-16 のとおりである。「期待度」は、満足度に影響を与える項目として参照するものとする。

表 5-16 「期待度」に関する評価結果

		アンケート項目	全体	1 年生	2 年生
期待度	1	メールなどのネットでのコミュニケーションの特徴や留意点などを知りたい。	3.3	3.2	3.3
	2	相手を傷つけずに自分の言いたいことを伝えたい。	3.8	3.9	3.6

生徒用授業実施後アンケート<s02>の結果より、授業受講後の「満足度」の評価結果は表 5-17 のとおりである。

表 5-17 「満足度」に関する評価結果

		アンケート項目	全体	1 年生	2 年生
満足度	1	この授業を受けてよかった。	3.9	3.8	3.9
	2	参考：授業前に期待していた目的とあっていたと思う。	3.3	3.1	3.5
	3	参考：この授業を他の人に勧めたいと思う。	3.5	3.5	3.5

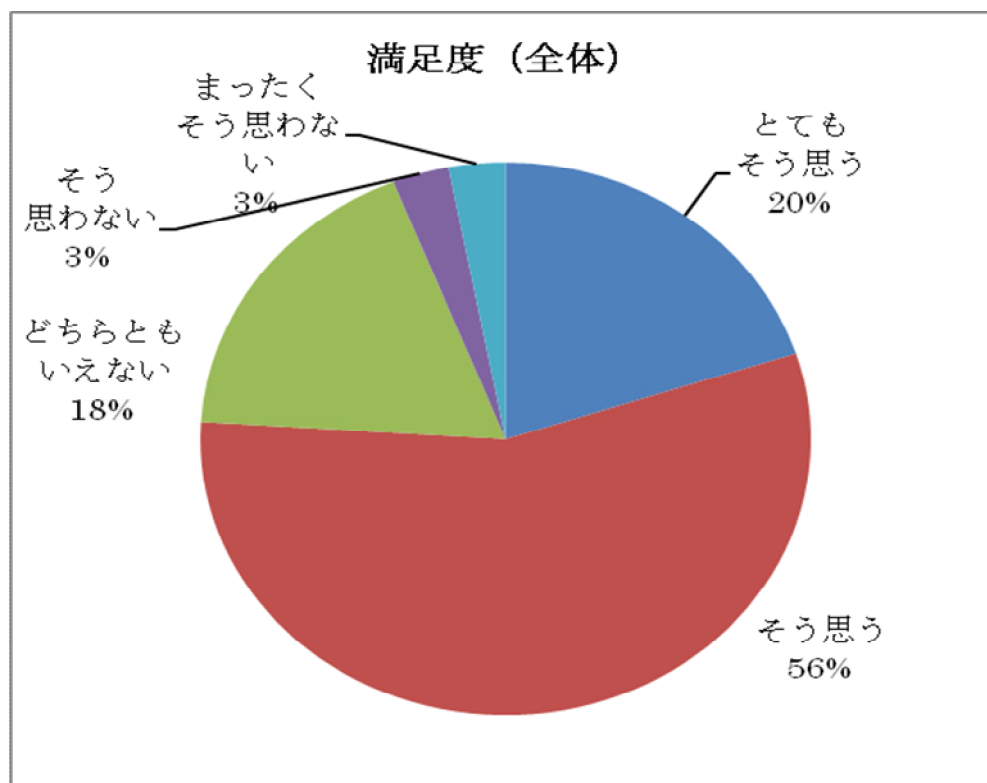


図 5-7 「満足度」に関する評価結果

また、生徒用授業実施後アンケート<s02>の結果より、満足度に影響を与える観点である「理解度」「講師の説明」「教授法」「補助資料」「活用意識」の評価結果は表 5-18 のとおりである。

表 5-18 「理解度」「講師の説明」等に関する評価結果

		アンケート項目	全体	1 年生	2 年生
理解度	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットの特性を理解した。</li> <li>・ネットでのコミュニケーションの特徴、対面との違い・類似点について理解した。</li> <li>・相手の気持ちも自分の気持ちも尊重して、自分の言いたいことを伝える方法や注意点を理解した。</li> <li>・自分の気持ちも相手の気持ちも尊重して、自分の言いたいことを言葉や文章にして伝えることができる。</li> </ul>	3.7	3.7	3.8
講師	2	講師の説明はわかりやすかった	4.2	4.1	4.3
教授法	3	教授法 <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループディスカッションは学習に役立った</li> <li>・ロールプレイは学習に役立った</li> </ul>	3.7	3.6	3.8
補助資料	4	補助資料 <ul style="list-style-type: none"> <li>・映像資料は学習に役立った</li> <li>・ワークシートは学習に役立った</li> <li>・掛図は学習に役立った</li> </ul>	3.8	3.8	3.8
活用意識	5	この授業で学んだことを今後活かしていきたいと思う。	4.2	4.1	4.2

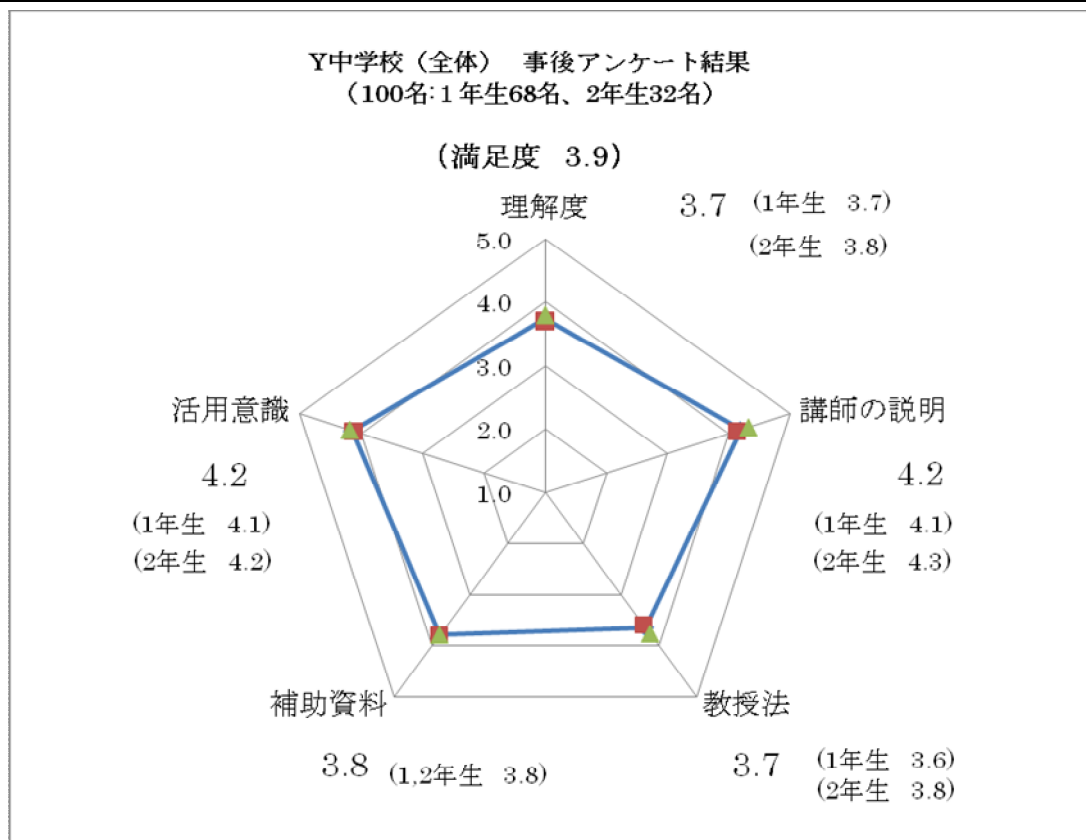


図 5-8 「理解度」「講師の説明」等に関する評価結果

## A-2 理解度の評価

生徒用授業実施前アンケート<s01>の結果より、「現状」の評価結果は表 5-19 のとおりである。「現状」は、理解度に影響を与える項目として参照するものとする。

表 5-19 「現状」に関する評価結果

		アンケート項目	全体	1 年生	2 年生
現 状	1	メールやブログでは、相手を思いやって内容や表現に気をつけている。	3.9	3.9	3.9
	2	自分としては、友達とのコミュニケーションはうまくできている。	3.7	3.6	3.5

生徒用授業実施後アンケート<s02>の結果より、各学習内容についての「理解度」の評価結果は次のとおりである。

また、事前事後の評価結果の平均に有意な差があるかどうかについて分析した。

- ： 有意水準 5% で有意である → 授業後に理解度が上がったといえる  
 △： 有意水準 5% で有意傾向である → 授業後に理解度が上がった傾向がある

表 5-20 「理解度」に関する評価結果（全体 100 名）

		アンケート項目	事前	事後	有意差
理 解 度	1	インターネットの特性を理解した	3.5	3.6	—
	2	ネットでのコミュニケーションの特徴、対面との違い・類似点について理解した。	3.4	3.7	△
	3	相手の気持ちも自分の気持ちも尊重して、自分の言いたいことを伝える方法や注意点を理解した。	3.6	4.0	○
	4	自分の気持ちも相手の気持ちも尊重して、自分の言いたいことを言葉や文章にして伝えることができる。	3.5	3.7	—

表 5-21 「理解度」に関する評価結果 <1 年生> (68 名)

		アンケート項目	事前	事後	有意差
理 解 度	1	インターネットの特性を理解した	3.5	3.6	—
	2	ネットでのコミュニケーションの特徴、対面との違い・類似点について理解した。	3.5	3.6	—
	3	相手の気持ちも自分の気持ちも尊重して、自分の言いたいことを伝える方法や注意点を理解した。	3.7	4.0	○
	4	自分の気持ちも相手の気持ちも尊重して、自分の言いたいことを言葉や文章にして伝えることができる。	3.6	3.6	—

表 5-22 「理解度」に関する評価結果 <2 年生> (32 名)

		アンケート項目	事前	事後	有意差
理 解 度	1	インターネットの特性を理解した	3.5	3.8	△
	2	ネットでのコミュニケーションの特徴、対面との違い・類似点について理解した。	3.4	3.8	○
	3	相手の気持ちも自分の気持ちも尊重して、自分の言いたいことを伝える方法や注意点を理解した。	3.4	3.9	○
	4	自分の気持ちも相手の気持ちも尊重して、自分の言いたいことを言葉や文章にして伝えることができる。	3.4	3.7	△



### A-3 行動変容度の評価

#### (1) 活用意識の評価

生徒用授業実施後アンケート<s02>の結果より、授業受講後の「活用したいという意識」の評価結果は表 5-23 のとおりである。

表 5-23 「活用したいという意識」に関する評価結果

		アンケート項目	全体	1 年生	2 年生
活用意識	1	この授業で学んだことを今後活かしていきたいと思う。	4.2	4.1	4.2

加えて、授業後に記入したアクションプランワークシートの内容を評価する。

アクションプランワークシートは、学習したことを自分の行動にあてはめて考え、どのように変えたいかを書くこと、つまり自分で宣言することによって行動の変容を促すワークシートである。

アクションプランワークシートへの記載内容は、表 5-24 のとおり 10 分類することができた。

表 5-24 アクションプランワークシートの記載内容に関する分類

	分類	全体件数	1 年生件数	2 年生件数
1	相手の気持ちを大切に/わかるようにする	41	25	16
2	相手の気持ち+自分の気持ちを大切に (「私」を主語に)	20	15	5
3	言葉に気をつける	15	13	2
4	周りの人のことを考えたコミュニケーション	13	8	5
5	メールの書き方に注意する	10	5	5
6	やさしく、思いやりをもつ	5	4	1
7	授業を活かしたい	4	2	2
8	自分の気持ちを大切に	3	2	1
9	今までとおり	3	3	0
10	電話や対面を活用する	2	2	0

(2) 行動の変化の評価

モデル授業の 1 ヶ月後にあらためてアクションプランワークシートをもとに自己評価する機会を設け、行動変容を確認する。

なお、アクションプランワークシートにより行動変容があるかどうかを確認するだけでなく、1 ヶ月後に自分が記述した内容をあらためて読み直すことにより、学習内容を思い出し、さらに継続して動機づけることが効果として期待される。

自己評価の結果は表 5-25 のとおりである。

表 5-25 1 ヶ月後の生徒の自己評価の結果

	アンケート項目	全体	1 年生	2 年生
1	自分の行動やふるまいが変わったと思いますか	3.1	3.5	2.2

回答：5 段階評価結果

「とてもそう思う=5」「そう思う=4」「どちらともいえない=3」「そう思わない=2」

「まったくそう思わない=1」として 5 段階で回答させた平均値

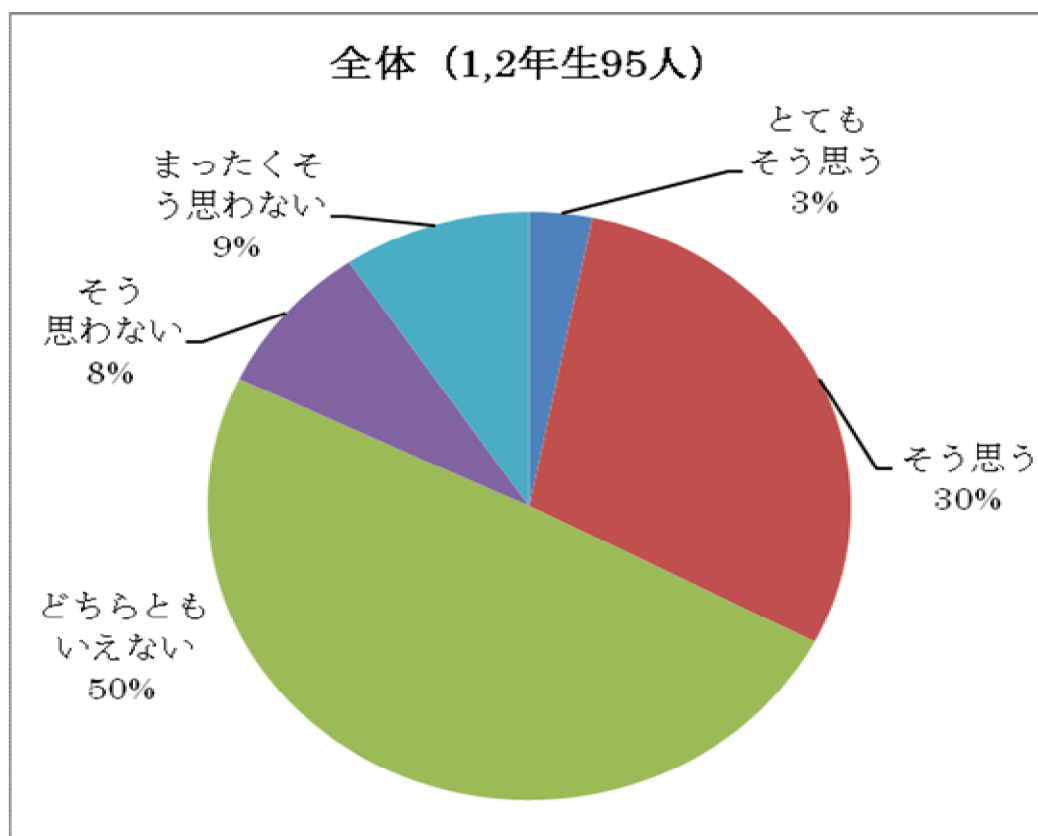


図 5-9 1 ヶ月後の生徒の自己評価の結果

1 ヶ月後の自己評価をふまえて今後どうしていきたいかという意見は表 5-26 のとおりである。

表 5-26 自己評価をふまえた今後に対する意見

	今回の自己評価をふまえて今後どうしたいか	全体 件数	1 年生 件数	2 年生 件数
1	前の授業のことを忘れずにこれからは意識して行動していきたい (頭の中で覚えようとしても忘れることがあるので目立つところに書いておいて毎日それをみて心がけていこうと思う、いつも頭にいれておくこと)	21	10	11
2	もう少し気をつける、がんばる、努力する	15	12	3
3	もっと相手や人のことを考えながら行動していきたいと思った (思いやる、気配りする、授業を思い出す)	11	6	5
4	今後もこのことを忘れないようにつづけていきたい	8	5	3
5	これからは友だちを今よりももっと大切にする 傷つけない、楽しくはなせるようにする	7	1	6
6	もっとコミュニケーションをちゃんととろうと思う	6	4	2
7	人の意見をきいて相手のことを考えながら自分の意見をいいたい	4	3	1
8	下級生が入ってくるので手本となるようがんばりたい	3	3	0
9	今後こんなメールがきたり、送ることがあったら参考にしてみたい	3	1	2
10	友達とはなせるようになったのもっと話せるようになりたい がまんしていたことをいっきにだしたらとてもすっきりしてがまんする理由もなくなりました 友だち優しく接するようになれたから頑張って友だちに頼られるようにしたい	3	3	0
11	今後も言葉使いをよくしていきたい	2	2	0
12	今と同じように生活していく	2	1	1
13	そう簡単には自分のふるまいは変わらないと思いました。でも小さい ことからこつこつと直していけたらいいと思います。	1	1	0
14	怒るところをがまんしたから意識していれば変われることがわかった	1	1	0
15	人とケンカしたときに落ち着いて状況を整理して仲直りまでできたので、 今後もいろいろな人に授業して行ってほしい	1	0	1
16	前よりは精神的に大人になった気がする。 このままどんどん成長して勉強などに集中できるようにしたいと思う	1	1	0
17	携帯で日記をしているが知っている友だち以外の 人もみているということであらためて知ったから内容と言葉遣いに気 をつけるようになった 明るい話のほうが読み手も楽しいし日記の内容を変えてよかったです	1	0	1
18	もっとしっかり授業をうければよかった	1	1	0

また、教師のワークシートについての評価は表 5-27 のとおりである。

表 5-27 教師のワークシートに関する評価

	アンケート項目	回答
1	ワークシートは行動変容に役だった	3.4
2	ワークシートを使う指導方法は学習目標に照らして適切だった	4.2
3	ワークシートの項目はわかりやすかった	4.2
4	ワークシートは生徒にとって記入しやすかった	3.8

回答：5段階評価結果

「とてもそう思う=5」「そう思う=4」「どちらともいえない=3」「そう思わない=2」

「まったくそう思わない=1」として5段階で回答させた平均値

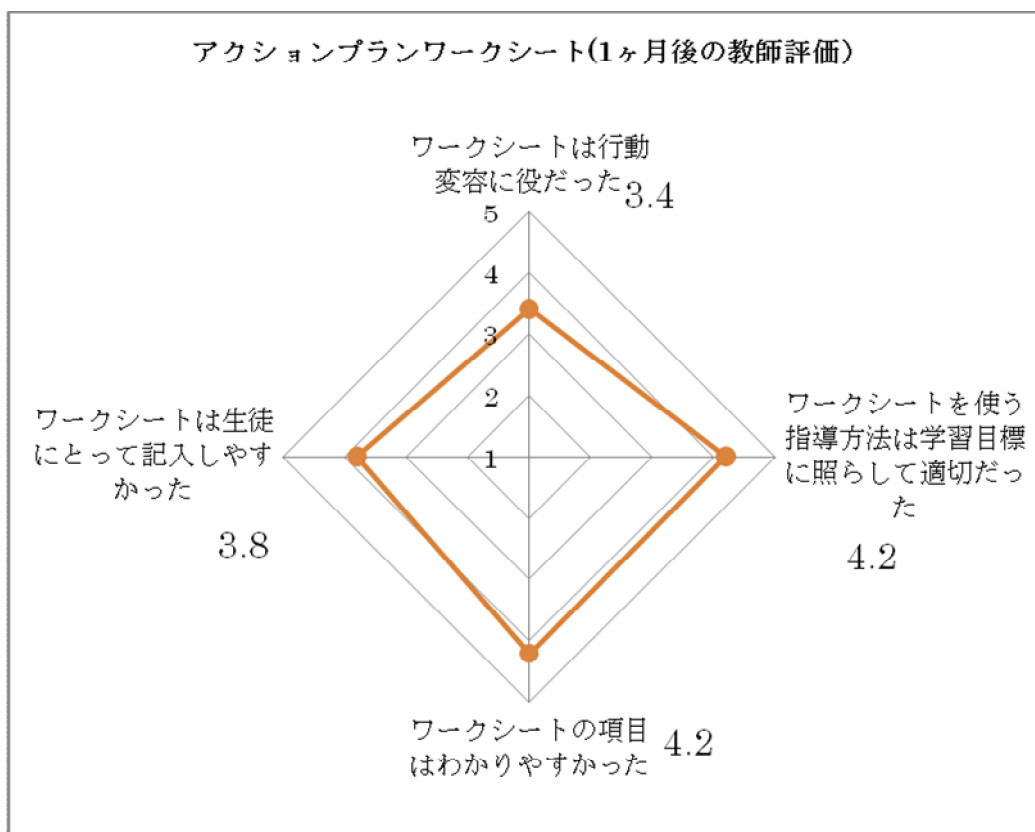


図 5-10 教師のワークシートに関する評価

## B. 指導内容

指導内容の評価結果は表 5-28 のとおりである。

表 5-28

教師/生徒 へのアンケート項目	教師	生徒（全体）
満足度（指導する立場として満足できる授業/受けてよかった）	4.5	3.9
学習内容*8/学習目標到達度	4.3	3.7
教授法*8	4.3	3.7
学習時間*8	3.4	N/A
補助資料*8	4.3	3.8
活用意識（今後授業をしてみたい/今後活かしていきたい）	4.2	4.2
平均	4.2	3.8

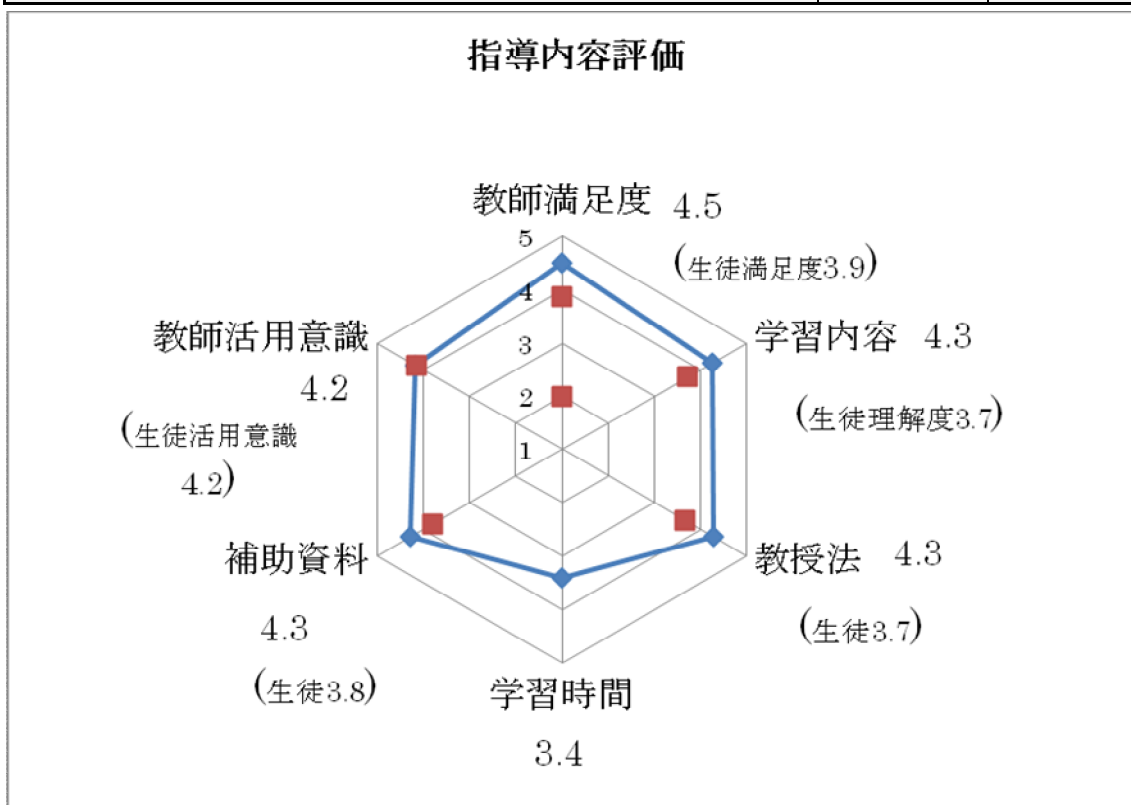


図 5-11 指導内容に関する評価結果

\*8

- 学習内容（教師）
  - －取り扱っている学習内容は学習目標に照らして適切だった。
  - －取り扱っている学習項目は内容に照らして適切だった。
- 教授法
  - －講義、映像資料、演習（ロールプレイ、グループディスカッション）の組み合わせは指導に役立った。（教師）
  - －ロールプレイ、グループディスカッションは指導/学習に役だった（教師/生徒）
  - －映像資料、ワークシート、掛図の使用は指導に役だった（教師）
  - －映像資料、ワークシート、掛図を使用する指導方法は学習目標に照らして適切だった（教師）
  - －映像資料、ワークシート、掛図の使用するタイミング適切だった（教師）
- 学習時間（1コマ（50分間）は内容に照らして適切だった）（教師）
- 補助資料（教師/生徒）
  - －映像資料、ワークシート、掛図の内容は指導/学習に役だった（教師/生徒）
  - －映像資料、ワークシート、掛図はわかりやすかった/使いやすかった（教師）

### C. 指導資料等

#### (1) 指導資料

モデル授業を担当した講師による指導資料の評価は表 5-29 のとおりである。

表 5-29

	No	アンケート項目	回答	平均
指導資料	13	指導資料は授業を効果的に円滑に実施するための準備に役に立った。	5.0	5.0
	14	指導資料はわかりやすかった。	5.0	
	15	指導資料は準備するのに使いやすかった。	5.0	

回答：5段階評価結果

「とてもそう思う=5」「そう思う=4」「どちらともいえない=3」「そう思わない=2」「まったくそう思わない=1」  
として5段階で回答させた平均値

#### (2) 補助資料

生徒による補助資料の評価は表 5-30 のとおりである。

表 5-30

	No	アンケート項目	全体		1年生全体		2年生全体	
			回答	平均	回答	平均	回答	平均
補助資料	9	映像資料は学習に役立った。	3.9	3.8	3.9	3.8	3.8	3.8
	12	ワークシートは学習に役立った。	3.8		3.8		3.8	
	13	掛図は学習に役立った。	3.7		3.7		3.8	

回答：5段階評価結果

「とてもそう思う=5」「そう思う=4」「どちらともいえない=3」「そう思わない=2」「まったくそう思わない=1」  
として5段階で回答させた平均値

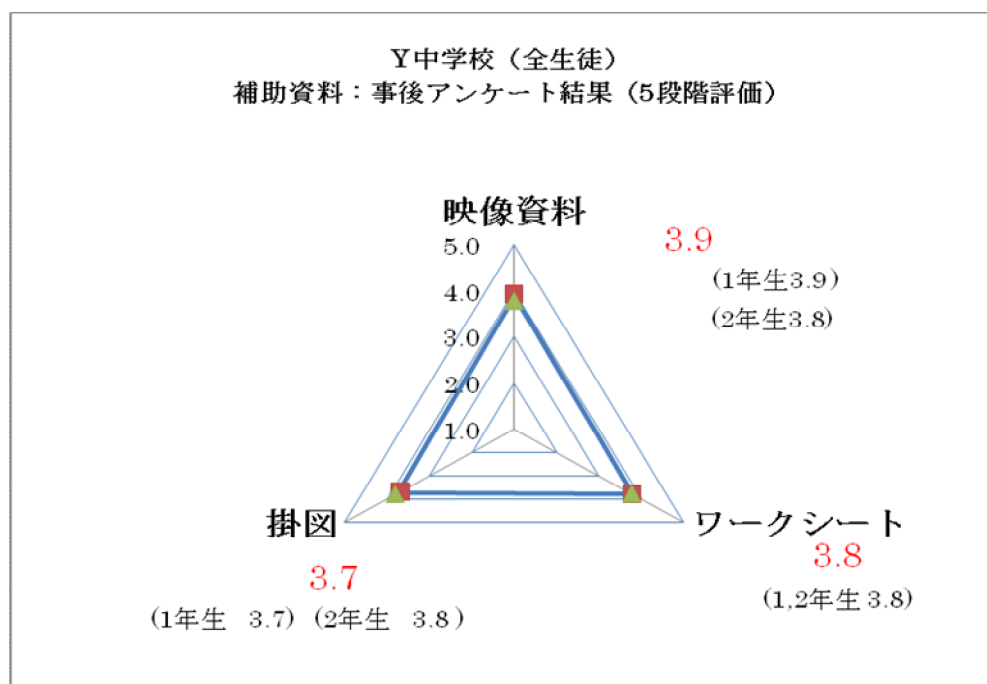


図 5-12 生徒による補助資料に関する評価結果

また、教師による補助資料の評価は表 5-31 のとおりである。

表 5-31

	No	アンケート項目	回答	平均
補助資料	13	映像資料の内容は指導上役に立った。	4.5	4.5
	15	映像資料はわかりやすかった。	4.5	
	16	映像資料は教材としてとして使いやすかった。	4.5	
	18	ワークシートの内容は指導上役に立った。	4.5	4.2
	20	ワークシートの項目はわかりやすかった。	4.2	
	21	ワークシートは生徒にとって記入しやすかった。	3.8	
	23	掛図の内容は指導上役に立った。	4.2	4.2
	25	掛図は教材として使いやすかった。	4.2	

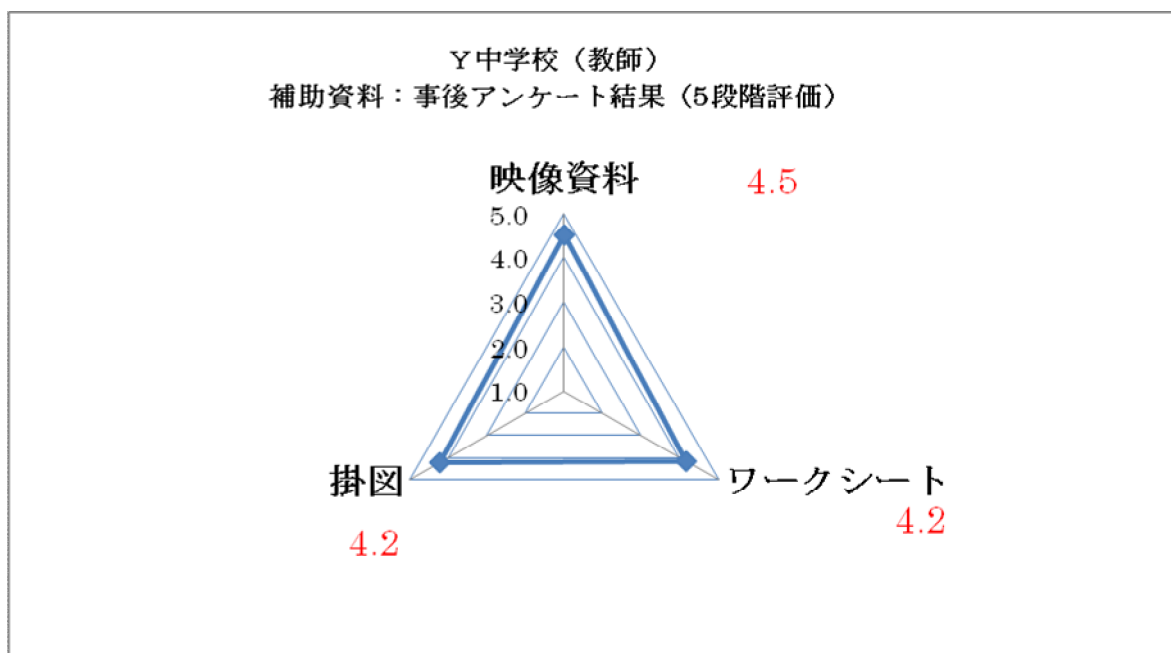


図 5-13 教師による補助資料に関する評価結果

### 5-4-3 第 2 回～第 4 回モデル授業に関する考察

#### A. モデル授業

授業実施前アンケートによると、ほとんどの生徒がインターネットを使用しており（全体 94 人/100 人、1 年生 63 人/68 人、2 年生 31 人/32 人）、アクセス方法はコンピュータが最も多く、次いで携帯電話となっている。インターネット使用の目的は、メールや情報検索、次いで音楽やゲームとなっている。

また、「メールやブログでは相手を思いやって内容や表現に気を付けている」との回答は 3.9 であり、1 年生・2 年生とも多くの生徒がインターネットや携帯電話をある程度使いこなし、配慮して使っている姿を読み取ることができる。

「コミュニケーションがうまくできている」という回答は若干低い（3.7）が、授業実施前アンケートによるとネットおよび日常生活でのトラブルはあまり多くない（ネット上のコミュニケーションで困ったことはない 84%、日常的なコミュニケーションで困ったことはない 89%）ことからコミュニケーションの問題に直面していないようであった。

中には「たまにどう受け取ればいいのかわからない言葉がある」「メールが来ても理解できない」といった「困ったこと」もあったようだが、「ちゃんと説明」「ひとり一人の意見を聞く」「先輩からの言葉で解決した」といった言葉からわかるように、自分たちで解決を図っている。コミュニケーション方法を工夫しようとする姿勢が伺える。

一方、「相手を傷つけずに自分のいいたいことを伝えたい」という意識は高く（全体 3.8、1 年生 3.9、2 年生 3.6）、今回の授業内容に合致していると考えられる。

アンケートの結果については 5-6-2 を参照されたい

以下にそれぞれの項目について結果を考察する。

#### A-1 満足度

受講後の「満足度」（全体：3.9、1 年生：3.8、2 年生：3.9）、モデル授業の効果（カーク・パトリックの第 1 段階）の学習者の反応評価としてはほぼ満足できる結果といえる。

自由記入からも、主語を「私」にするなどコミュニケーションの具体的な方法が理解できたこと、講師の説明のわかりやすさ、楽しさ（一方的な指導ではないためか）などから満足度が高くなったようである。

今回、参考として、「授業前に期待していた目的とあっていたと思う」（全体：3.3、1 年生：3.1、2 年生：3.3）、「他の人に勧めたい」（全体：3.5、1 年生：3.5、2 年生：3.5）という点も聞いてみたが、前者は自由記入の項目によると、インターネット関連の使い方などと思っていた生徒もいたことなどから低く出ているものと思われる。

企業教育では意識が高まると、満足度、学習目標達成にも影響することから、実施前の動機づけ、その達成成果の意味などをあらかじめ伝えることが重要であるが、今回は授業の一環なので、動機づけではなく概要の説明をしていただいた。そのため、事前に期待していた内容と授業の内容とに相違が出たといえるが、結果的に「授業を受けてよかった」という意見が多かったため、今回の学習内容への興味を継続し、日頃の自分を見直すきっかけになったのではないかと考える。



## A-2 理解度

「理解度」(全体：3.7、1年生：3.7、2年生：3.8)は5段階評価でほぼ4に近い数字であり、満足度と同様効果、カークパトリックの4段階モデルの第2段階をある程度達成したものとして評価できる。また、ワークシートの「本日の授業で学んだこと」の記載を見ても、自分が今後どのようにしたいかなどが具体的に書かれており、授業内容の理解度が高かったことが確認できた。

以下は、アンケートの「理解度」の項目ごとに評価を述べる。

「1.インターネットでの特性を理解した」については、ほとんどの生徒がすでにインターネットを使っており、授業前の段階で「インターネットの特性」はすでに理解していたことから、全体としては事前事後で差はなかった。

ただし、2年生はほとんどがインターネットを使用しているにも関わらず、有意傾向があった。これは、経験の差があったのかもしれないが、授業内容の理解の深さによることも考えられ、一概には言えないと思われる。

「2.ネットでのコミュニケーションの特徴、対面との違い・類似点について理解した」も有意傾向があり、事後の理解度が上がっている(2年生は有意差あり)。

これは授業の中で多くの時間を割いて中心的に扱ったものではないが、重要なポイントであるため、理解度向上が確認できたことは、今回の授業の成果といえる。

「3.相手の気持ちも自分の気持ちも尊重して、自分の言いたいことを伝える方法や注意点を理解した」については1、2年生ともに事後の理解度が向上している。このことはカリキュラムの有効性という観点で評価できる。

また、次の段階である「4.自分の気持ちも相手の気持ちも尊重して、自分の言いたいことを言葉や文章にして伝えることができる」については、全体としては事前3.5、事後3.7となったが、有意差はなかった。これは、学んだことをすぐに「できる」ようになるのは難しいことを示している。

ただ、2年生については有意傾向があり、事後評価が向上している。話を聞くだけではなく、ロールプレイを通じて実際に声に出した成果だと思われる。

1年生は、この目標の事前の自己評価が3.6と高かったため、事後との差がデータとして出にくかった。しかし、学んだことを自分にあてはめてアクションプランワークシートに書かせたところ、改善したい点が多く挙がってきている。授業前に「できる」と自己評価したとはいえ、2年生に比べて自分を客観的に評価することが難しかったと考えられる。アクションプランワークシートが自己を振り返る機会となればよいと考えている。

### A-3 行動変容度

#### ①活用意識の評価

「この授業で学んだことを今後に活かしていきたいと思う」は1年生(4.1)、2年生(4.2)、全体(4.2)として高かった。ビデオクリップの内容が身近な問題であったこと、また具体的な方法を示していたこと、短時間であってもロールプレイによって実際に声に出したことなどから、活用してみようという気持ちになったと推測できる。

また、アクションプランワークシートの記述では、「相手の気持ちを大切に」「自分の気持ちも大切に」という他尊重の内容が52%(61件/116件)を占め、授業内容を理解し、自分の行動にあてはめることができたことがわかる。

これらの結果から活用意識が醸成され、行動の変化のきっかけ作りになったと思われる。

#### ②行動の変化の評価

1ヶ月後に記入したアクションプランワークシートにおける「自分の行動やふるまいが変わったと思いますか」という質問に対し、「とてもそう思う」を5、「まったくそう思わない」を1として評価した結果、1年生(3.5)、2年生(2.2)、全体(3.1)であった。平均値から見ると、行動変容が促されたかどうかはどちらともいえない結果となった。1時間の授業で学習したことをすぐに行動に移すことの難しさが伺える。

一方、割合から見ると「どちらともいえない」が50%を占めるものの「とてもそう思う」「そう思う」が33%ということであり、わずか1時間の授業で3分の1の生徒が自分で改善しようとした行動の変化を自己評価できたということは1つの成果といえるのではないかと考える。

また、1ヶ月後に「どちらともいえない」「そう思わない」「まったくそう思わない」という自己評価であっても、「今後について」は、ほとんどのすべての生徒が「気をつけたい」「行動を変えたい」というコメントを書いている。これは、シートに記入するというきっかけによって授業内容を思いだし、行動変容を促すことにつながったものとして評価できる。

中には「意識していれば変わることがわかった」「そう簡単には自分のふるまいは変わらないと思いました。でも小さいことからこつこつと直していけたらいいと思います。」といった感想を述べた生徒もいた。こうした気づきを生徒間で共有し、行動を変えるきっかけを作ることができたことが、アクションプランワークシート記入の効果といえる。

## B. 指導内容

指導内容の評価項目の教師平均は 4.2 である。

「指導する立場としてこの授業全般に満足した」(4.5)、「学習内容」(4.3)（「学習内容が学習目標に照らして適切だった(4.3)」「学習項目が内容に照らして適切だった(4.2)」)、「講義、映像資料、演習(ロールプレイ、グループディスカッション)の組み合わせは指導に役立った」(4.5)ということで、カリキュラム全体評価としてはほぼ満足できる結果であった。

指導者用授業後アンケートには、「導入の映像資料がわかりやすく生徒の興味を高めた」「身近な題材で発展性があった、次の道徳の授業につなげやすい」「指導案がとてもよく組み立てられており、今の生徒の実態に合っている」という意見があった。

また、映像資料は単なる問題提起に終わらせず、授業の中で登場人物に関連付けて展開したこと、授業のまとめでも登場人物の言葉を引用して説明するなど、一貫して活用を図ったため、高い評価につながった。

指導方法の教師の評価の中で「ロールプレイの実施は指導に役立った」(3.4)は、他の評価と比べ低かった。ロールプレイは学校の指導の中で行うことは少ないため、慣れていないことも影響していると思われる。今回は書いたものを読み上げる形式をとったが、できる生徒とできなかった生徒がいた。「口に出して言ってみよう」「実演してみよう」といったように誘導したり、授業におけるロールプレイの機会を増やしたりすることで、ロールプレイの効果が出てくるのではないかと考える。

「実施してみたい」(4.2)も評価が高かったが、「子どもの日常の会話からも、自己中心のコミュニケーションのしかたが感じられるため」「生徒にとって関心のある内容」という回答があったことから、そうした現実のニーズにあっているという点で、評価が上がったと考えられる。また、「生徒に考えさせる場面がうまく仕組みとして設定されている」「1時間の内容がもりだくさんで、変化に富んでいる」「体験を通して学ぶことができる」といった授業としての内容の評価もいただいた。

一方、「授業時間」(3.4)の評価が低かった。ロールプレイやディスカッション、ワークシートの記入など、さまざまな活動を盛り込んでいることから、時間が足りないという意見があり、このことが評価の低さにつながっていると考えられる。生徒からも「記入する時間が足りなかった」という指摘があった。

1年生の教師から「内容が多いので、2コマに分けるといいのではないかと。1コマ目でビデオクリックを視聴し、ワークシートに記入する。2コマ目でコミュニケーションの説明と実習を行うといいのではないかと」との意見があった。一方で、1コマ50分で完結するのが適切だとする意見もあるため、指導の状況に応じて1コマか2コマか選択することが望ましい。

実施後のヒアリングから、コミュニケーションという観点では、1年生の最初に実施するなど、生徒の成長や状況に応じた実施時期があるのではないかとこのことであった。

しかし今回の自己評価による理解度を考慮すると、小学校とは異なる人間関係を既に構築し、問題意識をもっている2年生だからこその気づきもあると思われるため、柔軟なカリキュラムを繰り返し実施することで年齢や状況にあった学習となるのではないかと考える。

なお、コミュニケーションをテーマに盛り込んだ授業は、今回設計したカリキュラムだけでなく、生徒の成長段階ごとに用意し、提供すると効果的だと思われる。中学校においては、総合的な学習の時間、道徳、生活指導の時間枠にあてはめることができる。

また、今回、自分の行動にあてはめて考えさせること、またさらに1カ月後に振り返ることで行

動変容を促す仕組みとしてアクションプランワークシートを取り入れた。

1ヶ月後の行動変容の効果は大きくはなかったものの、ほぼ全員が授業内容を思い出し、今後に向けて改めて努力しようとしていたこと、また、教師から「授業で学んだこと、考えたことを自分の行動にあてはめて考えさせることは大切なことだと思う」「1ヶ月後の見直しも自分自身変容を確認する機会となる」「学校現場でも長期的視野での指導を取り入れたいと思う」「1ヶ月後にも自己評価することを伝えたことで行動を変えようと意識する生徒もいたかもしれない」といった意見があった。指導方法としての効果はあったのではないかと思われる。

ただし、1ヶ月後の実施では覚えていない場合もあったため、授業後は学習内容について継続的にフォローし、生活指導、道徳の時間などさまざまな場面で振り返りをさせると効果が表れるのではないかと考える。教師からも、「学校の授業で学んだり考えたりするだけでなく、普段の学校生活の中での話題にしたり、家庭で話しあったりすると効果的だと思う」といった意見があった。

## C. 指導資料等

### (1) 指導資料の評価

今回のモデル授業は、一方的な情報提供だけでなく、グループディスカッションやロールプレイ、映像を見る、ワークシートに記入するなど、さまざまな活動が組み込まれている。そのため、50分の中で適切に時間を管理すること、重要なポイントを明確に提示することなどが重要である。そのためには指導の流れだけではなく、指導のポイントや注意、また補助資料やスライド提示のタイミング、所要時間などの目安が必要である。今回、モデル授業を実施した講師からはこれらを網羅した指導資料は有効であるとの評価があった。

また、授業を見学した教師へのアンケート及びヒアリングによると、「コミュニケーションの授業が初めてでも指導資料があれば安心して実施できる。」「サンプルシナリオがついているので、シナリオを参考にしながら自分で工夫すればよい」といったコメントがあった。

### (2) 補助資料の評価

#### ① ビデオクリップ

「わかりやすさ」「使いやすさ」「学習に役立つ」という点で評価が高かった。アンケートやヒアリングからは、内容の身近さで生徒の関心を集中でき、適切に問題提起ができたことがわかった。視聴時間は6分30秒だが、「長いとは感じない。適切だ」というご意見をいただいた。

カリキュラムの柔軟性を考えると問題提起は多くの種類があったほうがよいと思うが、1つの映像でもいろいろな観点で話を展開することができ、ディカッションにつなげることができることから他のカリキュラムへの流用も可能である。

#### ② ワークシート

ワークシートにも携帯の画面のイラストを表示し、書きやすくする工夫を施した。第1回モデル授業では質問項目は5項目としていたが、第2回目以降は3項目とした。しかし「記入しやすかった」(3.8)が他の教材に比べてやや低い結果になっている。教師の方からは項目数は適当とのことだったので、自分の考えをまとめて書く時間が少ないと感じたためではないかと思われる。

1ヶ月後のアクションプランワークシートについては、教師に評価いただき、わかりやすさ(4.2)、学習目標に照らしての適切さ(4.2)は十分だったといえる。一方、生徒にとっての記入しやすさ(3.8)は、1ヶ月後ということで覚えていない場合や「今後について」は書きにくかったとのことから低い結果となったのではないかと思われる。表現を含めて検討したい。

### ③キーシーン黒板用掛図

ビデオクリップの登場人物の掛図は、人間関係や話題の関連がわかったということから教師の評価は高い（4.2）が、生徒（3.7）は低くなっている。指導する立場からは、映像内容や人物関係を思い出し、問題を明確に示すために有効であったということだが、生徒にとっては目的、位置付け、内容は効果的であるものの、特に意識するものではなかったためと思われる。

今回モデル授業に際して、掲示用スライド（プレゼンテーション資料）を準備した。これは学習内容のポイントやまとめを文字やグラフィックスで表示したものである。

仕様外であったため評価対象としなかったが、ヒアリングでの評価は、「学習内容のまとめがあり、また大画面に映し出されるため、わかりやすかった」とのことであった。

## 5-5 モデル授業、指導内容、指導資料等についてのまとめ

### A.モデル授業

#### (1) 授業時間について

授業時間については、練習（ロールプレイ）や話し合い（ディスカッション）の活動やワークシートへの記入などについて、モデル授業第 1 回～第 4 回を通じ、もう少し時間があるとよいという意見があった。今回のモデル授業では、授業 1 時間内でもある程度の結果が得られたが、本来、1 回の授業または講習で自他を尊重するコミュニケーションを理解し行動に移すことは難しいため、可能であれば、授業は複数回に分けて実施することが望ましい。これを踏まえ、本事業では指導資料に 2 コマ版の指導の展開例を用意している。テーマを変えて繰り返して実施することや、事例を変えて練習することで、段階的にコミュニケーション能力が高められると考える。

#### (2) コミュニケーションの練習（ロールプレイ）について

今回のモデル授業では、自分の書いたものを読む、もしくは提示した例を読むという形式の練習（ロールプレイ）だったが、生徒の状況にあわせていくつかのパターンを用意してもよい。話し合い（グループディスカッション）を経験したことがあっても、練習（ロールプレイ）は経験がないことが多く、本来の効果が出にくいこともあるため、学習者の状況に応じて進め方を決めるとよい。練習（ロールプレイ）取り扱う内容については、学習者の状況にあった場面を設定すると、学習効果の向上が期待できる。

#### (3) 指導者について

「講師の説明のわかりやすさ」が、評価項目の中で、生徒の評価が一番高かった（全体 4.2、1 年生 4.1、2 年生 4.3）。一般的に、講師の評価が「カリキュラム全体の満足」に与える影響は高い。今回のモデル授業においても「満足度」の数値に貢献したと考えられる。

### B.指導内容

#### ・指導内容について

ヒアリング結果などから、同じテーマを扱う場合でも、学年や年齢に応じた指導内容の検討、また実施時期の検討が必要であることがわかった。例えば、中学 1 年生などでは携帯電話やインターネットを使用したことのない生徒も少なくないため、そのような生徒でも理解できるように、説明内容や事例の内容を考える必要がある。

また、この指導内容では、人と話し合う、意見を言う・聞く、ワークシートに自分の考えを書くなどの活動を行うため、意見の発表や話し合いにある程度慣れていることが望ましい。そうした活動に不慣れな場合は、授業やセミナーの中で指導者が適宜意見を聞くなど、指導の展開を工夫して、学習者が取り組みやすい環境を作ることが必要である。

## C.指導資料等

### (1) 指導資料について

今回行った授業は、一方的な情報提供だけでなく、グループディスカッションやロールプレイ、映像を見る、ワークシートに各自記入するなど、さまざまな活動が組み込まれている。そのため、指導の流れだけではなく、指導のポイントや注意、また補助資料やスライド提示のタイミング、所要時間などを詳細に記載した指導の展開例は、参考になるとして評価を頂いた。

また、1 回目の授業、2 回目～4 回目の授業の結果を受けて、生徒・受講者の状況によって指導の流れを変更する必要があると考え、指導資料には、1 コマ版（3 種類）、2 コマ版、短時間版、の計 5 種類の指導の展開例を用意した。

### (2) 補助資料について

#### ①ビデオクリップ

「わかりやすさ」「使いやすさ」「学習に役立つ」という点で評価が高かった。

アンケートやヒアリングからも、内容の身近さで生徒の関心を集中でき、適切に問題提起ができていたことが伺える。関心を持たせる、問題提起をする、ということが可能であるので、授業での使用方法を柔軟に変えた場合にも、学習効果を高める一助となると考える。

#### ②ワークシート

1 回目授業の結果を受けて内容を改善したこともあり、ワークシートへの記入量は 2 回目～4 回目の方が多くなった。しかし「記入しやすかった」(3.8) の項目は他の教材に比べてやや低い結果になっている。5-4-2 第 2 回～第 4 回モデル授業に関する考察でも述べたように、記入時間が短かったことがその原因と考えられる。今回実施した授業の展開例では話し合い（グループディスカッション）、練習（ロールプレイ）などを含むため、相対的にワークシートの記入時間が短めになっているが、少し記入時間を増やすなど、生徒・受講者の状況に合わせて使用することが望ましい。

また、1 ヶ月後のアクションプランワークシートについては、生徒の記入内容から、行動の振り返りにつながったことが推察された。学習内容の定着のために、実施する価値があるものとして評価できると考える。

#### ③掛図

ビデオクリップの登場人物の掛図は、人間関係や話題の関連がわかったということから教師の評価は高かった (4.2)。映像を見た後で、人物関係などを再確認する際に、掛図によって教師の説明を補助できたと考える。黒板等に貼った後、指導の流れに合わせて周辺に板書を行うと、一層効果的である。

## 5-6 付録

### 5-6-1 アンケート用紙及びヒアリングフロー

生徒用授業実施前アンケート＜s01＞

生徒向け授業実施前アンケート	
1	学校名( ) 学年 年 男子 女子 (○をつけてください)
2	インターネットを使っていますか はい いいえ
3	何を使ってインターネットにアクセスしていますか (多い順に1, 2, 3...と順番をつけください) ( )携帯 ( )パソコン ( )ゲーム機 ( )その他( )
4	インターネットの使用目的はなんですか (多い順に1, 2, 3...と順番をつけください) ( )メール ( )ブログ・プロフなどの SNS ( )情報検索 ( )音楽 ( )ゲーム ( )ショッピング ( )学習 ( )その他( )
1～8について適切だと思う回答に○をつけてください。	
1	メールやブログでは、相手を思いやって内容や表現に気を付けている。 まったく そう どちらとも とうとう とても そう思わない 思わない いえない そう思う そう思う
2	インターネットの特性を理解している。 まったく そう どちらとも とうとう とても そう思わない 思わない いえない そう思う そう思う
3	ネットでのコミュニケーションの特徴、対面との違い・類似点について理解している。 まったく そう どちらとも とうとう とても そう思わない 思わない いえない そう思う そう思う
4	相手の気持ちも自分の気持ちも尊重して、自分の言いたいことを伝える方法や注意点を理解している。 (「できるか」どうかではなく「理解しているか」どうかを答えてください) まったく そう どちらとも とうとう とても そう思わない 思わない いえない そう思う そう思う
5	自分の気持ちも相手の気持ちも尊重して、自分の言いたいことを言葉や文章にして伝えることができる。 (理解している)だけではなく、自分で伝えることが「できるか」どうかを答えてください) まったく そう どちらとも とうとう とても そう思わない 思わない いえない そう思う そう思う
6	メールなどのネットでのコミュニケーションの特徴や留意点などを知りたい。 まったく そう どちらとも とうとう とても そう思わない 思わない いえない そう思う そう思う
7	相手を傷つけずに自分の言いたいことを伝えたい。 まったく そう どちらとも とうとう とても そう思わない 思わない いえない そう思う そう思う
8	自分としては、友達とのコミュニケーションはうまくできている。 まったく そう どちらとも とうとう とても そう思わない 思わない いえない そう思う そう思う
9 から 12 についてお聞かせください。	
9	携帯電話やインターネット上のコミュニケーションで困ったことがありますか。 はい いいえ ある場合差し支えない範囲で内容を教えてください。 [ ]
10	8 の質問で「はい」の場合、解決できましたか。 はい いいえ 解決できた場合、どのように解決しましたか。 [ ] 解決できなかった場合、なぜ解決できなかったと思いますか。 [ ]
11	ネットとは関係なく、日常生活のコミュニケーションで困ったことがありますか。 はい いいえ ある場合差し支えない範囲で内容を教えてください 解決できなかった場合、なぜ解決できなかったと思いますか。 [ ]
12	11 の質問で「はい」の場合、解決できましたか。 はい いいえ 解決できた場合、どのように解決しましたか。 [ ] 解決できなかった場合、なぜ解決できなかったと思いますか。 [ ]
この授業にどのようなことを期待していますか。	
<p style="text-align: center;">ご協力ありがとうございました</p>	



生徒用授業実施後アンケート<s02>

生徒向け授業後アンケート

学校名( ) 学年 年 男子 女子		(○をつけてください)				
1～14について適切だと思う回答に○をつけてください。		回答				
1	この授業を受けてよかった。 (理由: )	まったく そう思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう思う	とても そう思う
2	授業前に期待していた内容とあっていたと思う。	まったく そう思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう思う	とても そう思う
3	この授業を他の人に勧めたいと思う。	まったく そう思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう思う	とても そう思う
4	インターネットの特性を理解した。	まったく そう思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう思う	とても そう思う
5	ネットでのコミュニケーションの特徴、対面との違い・類似点について理解した。	まったく そう思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう思う	とても そう思う
6	相手の気持ちも自分の気持ちも尊重して、自分の言いたいことを伝える方法や注意点を理解した。(実際に「できるか」どうかではなく「理解したか」どうかを答えてください)	まったく そう思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう思う	とても そう思う
7	自分の気持ちも相手の気持ちも尊重して、自分の言いたいことを言葉や文章にして伝えることができる。(「理解した」だけでなく、自分で伝えることが「できるか」どうかを答えてください)	まったく そう思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう思う	とても そう思う
8	講師の説明はわかりやすかった。	まったく そう思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう思う	とても そう思う
9	ビデオ映像は学習に役立った。	まったく そう思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう思う	とても そう思う
10	グループディスカッションは学習に役立った。	まったく そう思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう思う	とても そう思う
11	ロールプレイは学習に役立った。	まったく そう思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう思う	とても そう思う
12	ワークシートは学習に役立った。	まったく そう思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう思う	とても そう思う
13	掛図は学習に役立った。	まったく そう思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう思う	とても そう思う
14	この授業で学んだことを今後活かしていきたいと思う。	まったく そう思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう思う	とても そう思う

\* 授業の感想を自由に記入してください。

ご協力ありがとうございました

指導者用授業実施後アンケート<t02> (1/2)

授業実施後アンケート(教師向け)		回答				
学校名( ) 氏名( ) 実施日( )	1～29 について適切だと思う回答に○をつけてください。					
1	指導する立場としてこの授業全般に満足した。 理由( )	まったく そう思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう思う	とても 思う
2	授業を実施する前に考えていた目的と合っていた。	まったく そう思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう思う	とても 思う
3	この授業を他の人に勧めたいと思う。	まったく そう思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう思う	とても 思う
4	取り扱っている学習内容は学習目標に照らして適切だった。	まったく そう思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう思う	とても 思う
5	取り扱っている学習項目は内容に照らして適切だった。	まったく そう思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう思う	とても 思う
6	講義、ビデオ映像、演習(ロールプレイ、グループディスカッション)の組み合わせは指導に役立った。	まったく そう思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう思う	とても 思う
7	ビデオ映像の使用は指導に役立った。	まったく そう思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう思う	とても 思う
8	グループディスカッションの実施は指導に役立った。	まったく そう思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう思う	とても 思う
9	ロールプレイの実施は指導に役立った。	まったく そう思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう思う	とても 思う
10	ワークシートの使用は指導に役立った。	まったく そう思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう思う	とても 思う
11	掛図の使用は指導に役立った。	まったく そう思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう思う	とても 思う
12	1コマ(50分間)は内容に照らして適切だった。 理由( )	まったく そう思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう思う	とても 思う
13	ビデオ映像の内容は指導上役に立った。	まったく そう思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう思う	とても 思う
14	ビデオ映像を使う指導方法は、学習目標に照らして適切だった。	まったく そう思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう思う	とても 思う
15	ビデオ映像はわかりやすかった。	まったく そう思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう思う	とても 思う
16	ビデオ映像は教材としてとして使いやすかった。	まったく そう思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう思う	とても 思う
17	指導の中でビデオ映像を使うタイミングは適切だった。	まったく そう思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう思う	とても 思う
18	ワークシートの内容は指導上役に立った。	まったく そう思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう思う	とても 思う
19	ワークシートを使う指導方法は、学習目標に照らして適切だった。	まったく そう思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう思う	とても 思う
20	ワークシートの項目はわかりやすかった。	まったく そう思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう思う	とても 思う
21	ワークシートは生徒にとって記入しやすかった。	まったく そう思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう思う	とても 思う
22	指導の中でワークシートを使うタイミングは適切だった。	まったく そう思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう思う	とても 思う

裏もご記入をお願いします

指導者用授業実施後アンケート <t02> (2/2)

授業実施後アンケート		まったく そう思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう思う	とても そう思う
23	掛図の内容は指導上役に立った。					
24	掛図を使う指導方法は、学習目標に照らして適切だった。					
25	掛図は教材として使いやすかった。					
26	指導の中で掛図を使うタイミングは適切だった。					
27～30 についてご意見をお聞かせください。						
27	この授業を担当する場合には、何が必要だと思われますか。(複数回答可能) <input type="checkbox"/> 指導用マニュアル <input type="checkbox"/> 事前の試行授業 <input type="checkbox"/> インターネット、携帯電話全般に関する学習および研修 <input type="checkbox"/> コミュニケーション全般に関する学習および研修 <input type="checkbox"/> コミュニケーション手法の学習および研修 (今回はアサーションという手法を活用しました) <input type="checkbox"/> ファンリテーション(グループ活動が円滑に進むように支援促進)に関する学習および研修 <input type="checkbox"/> 特に必要はない <input type="checkbox"/> その他 ( )					
28	この授業を実施してみたいと思われませんか。 理由:					
29	今回は「主体的なコミュニケーション」について取り上げましたが、今後取り組んでみたいと思われるテーマがございましたら、お聞かせください。					
30	この授業についてご意見、ご感想をお聞かせください。					

ご協力ありがとうございました

指導者用授業実施 1 ヶ月後アンケート<t03>

授業実施1か月後 アンケート(教師向け)

今回の授業では、授業後に生徒の皆さんにアクションプランワークシートに記入していただきました。これは、授業で考えたことや学んだことを自分の行動やふるまいに当てはめて考えること、今後について自分で宣言することで行動の変容を促すことを考えました。

さらに、1か月後に自己評価することで、行動変容への効果を確認するだけでなく、あらためて見直すことや周り（指導者、友達）からのフォローによって、継続的に行動変容に取り組むきっかけ作りを目指しました。

アクションプランワークシートについて、ご意見をお聞かせください。

学校名( ) 氏名( ) 実施日( )		回答				
1～4について適切だと思う回答に○をつけてください。						
1	アクションプランワークシートの内容は行動変容に役に立った。	まったく そう思わない	そう 思わない	どちらとも いえません	そう思う	とても 思う
2	アクションプランワークシートを使う指導方法は、学習目標に照らして適切だった。	まったく そう思わない	そう 思わない	どちらとも いえません	そう思う	とても 思う
3	アクションプランワークシートの項目はわかりやすかった。	まったく そう思わない	そう 思わない	どちらとも いえません	そう思う	とても 思う
4	アクションプランワークシートは生徒にとって記入しやすかった。	まったく そう思わない	そう 思わない	どちらとも いえません	そう思う	とても 思う
このようなワークシートの活用についてどのように思われますか。						
ご意見、ご感想を自由にご記入ください。						

ご協力ありがとうございました

指導者用ヒアリングフロー（実施前）＜h01＞

「インターネットの特性を踏まえた情報の受発信・情報交換についての指導内容等に関する調査研究」 モデル授業ヒアリング(h01)

1. 目的 現状の問題意識および授業への期待について把握するため
2. 対象者 先生
3. 実施時 モデル授業前
4. ヒアリング内容

	項目	時間	内容
1	導入	2分	このたびは、モデル授業にご協力いただきましてありがとうございます。 今回このモデル授業を実施するにあたり、お話を聞かせてください。 アンケートにも答えていただいておりますが、具体的に何えれば幸いです。 (所要時間、録音録画の有無、個人情報を確認)
2	現状の問題 や認識 (具体的)	15分	まず、生徒のネットまたは日常生活におけるコミュニケーションについてどのように感じて いらっしゃいますか。 なにかトラブルはありましたか。 差し支えない範囲で具体的にお聞かせください。
3	ネット関連 の問題 (具体的)	15分	また、生徒たちのインターネットの使用について伺わせてください。 特に携帯電話、インターネットの活用において、指導上困っていることはありますか。 差し支えない範囲で具体的にお聞かせください。
4	対策	15分	指導に際しては、先生方はどのように対応されていらっしゃいますか。 それらの問題の対応には、何があれば助けになる、または必要だと感じていますか。
5	授業に 関する期待	10分	今回のこの授業では、主体的なコミュニケーションをテーマに考えています。 ご意見や期待などお聞かせください。
6	終了	3分	ありがとうございました。 伺った内容の確認をさせていただきます。 補足やお気づきの点などありましたら、お願いいたします。 お忙しいところご協力いただき、ありがとうございました。 授業へのご協力をよろしくお願いいたします。
	時間目安	60分	

以上

指導者用ヒアリングフロー（実施後）〈h02〉

「インターネットの特性を踏まえた情報の受発信・情報交換についての指導内容等に関する調査研究」 モデル授業ヒアリング(h02)

1. 目的 指導項目、指導資料等の評価および改善のため
2. 対象者 先生
3. 実施時 モデル授業後
4. ヒアリング内容

項目	時間	内容
1 導入	2 分	このたびは、モデル授業にご協力いただきましてありがとうございました。 アンケートにもご回答いただきましたが、あらためて指導項目、指導資料等の評価と見直しのために、お話を聞かせいただければと思います。(所要時間、録音録画の有無、個人情報を確認)
2 コース 全体評価	8 分	まずこの授業について全体の感想をお聞かせください。 授業としていかがでしたか。指導する立場からはかの方に紹介できる内容でしたか。 その理由をお聞かせください。
3 指導項目: 評価	10 分	では、モデル授業で取り扱いました指導項目についてご意見を願います。 *内容について *わかりやすさについて
4 テーマ: 評価	10 分	今回のモデル授業におきましては、「主体的なコミュニケーション」をテーマにいたしました。ネットを介したコミュニケーションは基本的には対面のコミュニケーション同様、相手を思いやり、自身の気持ちも大切にしながらやりとりをしていく必要がありますが、ネットの特性からの難しさもあります。今回はネットの特徴をふまえた主体的なコミュニケーションの基本的な知識やスキルと取り扱いました。 このテーマは取り組んでみたいと思われるものでしたか。 そう思われる理由もお聞かせください。
5 テーマ: 今後	7 分	今後取り組んでみたいと思われるテーマがありましたら、そのテーマと理由(背景等)についてお聞かせください。
6 指導資料: 評価	10 分	このモデル授業では、指導資料として、指導用マニュアル(先生用)、また、授業中に使用するビデオ映像、ワークシート、掛図を準備しました。 それぞれについてご意見を聞かせください。 *わかりやすさ *使いやすさ *使うタイミングの適切さ
7 指導資料: 改善点	10 分	それぞれについて、お気づきの点、改善すべき点などがありましたら、お聞かせください。 また、学校の授業で利用、活用するためには、どのような点に留意すべきでしょうか。 教材として必要な要素(ポイント)等をお聞かせください。
8 終了	3 分	ありがとうございました。 伺った内容の確認をさせていただきます。 補足やお気づきの点などありましたら、願います。 お忙しいところご協力いただき、ありがとうございました。 いただきましたご意見をもとに、改善を進めてまいります。
時間目安	60 分	以上

指導者用ヒアリングフロー（1 ヶ月後）〈h03〉

「インターネットの特性を踏まえた情報の受発信・情報交換についての指導内容等に関する調査研究」 モデル授業ヒアリング(h03)

1. 目的 指導資料（アクションワークシート）の評価および改善のため
2. 対象者 先生
3. 実施時 モデル授業実施 1 ヶ月後（アクションプランワークシート記入実施後）
4. ヒアリング内容

項目	時間	内容
1 導入	2 分	このたびは、モデル授業にご協力いただきましてありがとうございました。 授業後アンケートやヒアリングにもご協力いただきましたが、指導の一環として 1 ヶ月後に実施するワークシートを考えました。この指導資料の評価と見直しのために、お話をお聞かせいただければと思います。 (所要時間、録音録画の有無、個人情報を確認)
2 シート導入 目的の説明	3 分	今回の授業では、授業後に生徒の皆さんにアクションプランワークシートに記入していただきました。これは、授業で考えたことや学んだことを自分の行動やふるまいに当てはめて考えること、今後について自分で宣言することで行動の変容を促すことを考えました。さらに、1 か月後に自己評価することで、行動変容への効果を確認するだけでなく、あらためて見直すことや周り(指導者、友達)からのフォローによって、継続的に行動変容に取り組むきっかけ作りを目指しました。
3 結果 について	10 分	実際に生徒に記入させた結果をご覧になって、いかがでしたか。
4 全体評価	10 分	行動変容に役に立ったと思いますか。 またワークシートを活用する指導方法は効果的だと思われましたか。
5 項目や 使い勝手	15 分	では、ワークシートについてご意見をお願いいたします。 *項目について *わかりやすさについて *記入のしやすさ *評価のしやすさなど
6 改善点	15 分	お気づきの点、改善すべき点などがありましたら、お聞かせください。 また、学校の授業で利用、活用するためには、どのような点に留意すべきでしょうか。 教材として必要な要素(ポイント)等をお聞かせください。 または、行動変容を促すきっかけや方法について他にどのような方法が考えられると思いますか。
7 終了	5 分	ありがとうございました。伺った内容の確認をさせていただきます。 補足やお気づきの点などありましたら、お願いいたします。 お忙しいところご協力いただき、ありがとうございました。 いただきましたご意見をもとに、改善を進めてまいります。
時間目安	60 分	

以上

### 5-6-2 第 1 回モデル授業アンケート結果

第 1 回モデル授業について実施したアンケート結果は次のとおりである。

表 5-32 生徒用授業実施前アンケート<s01>結果

	No	アンケート項目		全体
属性	1*3	男女	男子	3 人
			女子	10 人
	2*3	インターネットを使っていますか	はい	10 人
			いいえ	3 人
現状	3*3	何を使ってインターネットにアクセスしていますか	携帯	7 人
			パソコン	8 人
			ゲーム機	5 人
	4*3	インターネットの使用目的はなんですか	メール	9 人
			ブログ	5 人
			情報検索	8 人
			音楽	7 人
			ゲーム	6 人
			ショッピング	4 人
			学習	3 人
	1	メールやブログでは、相手を思いやって内容や表現に気をつけている。		4.0
	8	自分としては、友達とのコミュニケーションはうまくできている。		3.1
	9*3	携帯電話やインターネット上のコミュニケーションで困ったことがありますか。	はい	2 人
			いいえ	8 人
	10*3	「はい」の場合、解決できましたか。	はい	0 人
			いいえ	2 人
11*3	ネットとは関係なく、日常生活のコミュニケーションで困ったことがありますか。	はい	5 人	
		いいえ	6 人	
12*3	「はい」の場合、解決できましたか。	はい	5 人	
		いいえ	2 人	
理解度	2	インターネットの特性を理解している。		3.1
	3	ネットでのコミュニケーションの特徴、対面との違い・類似点について理解している。		3.5
	4	相手の気持ちも自分の気持ちも尊重して、自分の言いたいことを伝える方法や注意点を理解している。		3.7
	5	自分の気持ちも相手の気持ちも尊重して、自分の言いたいことを言葉や文章にして伝えることができる。		3.5
期待度	6	メールなどのネットでのコミュニケーションの特徴や留意点などを知りたい。		3.1
	7	相手を傷つけずに自分の言いたいことを伝えたい。		3.9

\*3 :

各選択肢を選んだ人数によって評価。その他の項目は「とてもそう思う=5」「そう思う=4」「どちらともいえない=3」「そう思わない=2」「まったくそう思わない=1」の5段階で評価している。



表 5-33 生徒用授業実施後アンケート<s02>結果

	No	アンケート項目	回答	平均
満足度	1	この授業を受けてよかった。	3.0	3.0
	2	参考：授業前に期待していた内容とあっていたと思う。	3.0	
	3	参考：この授業を他の人に勧めたいと思う。	3.0	
理解度	4	インターネットの特性を理解した。	3.7	3.6
	5	ネットでのコミュニケーションの特徴、対面との違い・類似点について理解した。	3.5	
	6	相手の気持ちも自分の気持ちも尊重して、自分の言いたいことを伝える方法や注意点を理解した。	3.7	
	7	自分の気持ちも相手の気持ちも尊重して、自分の言いたいことを言葉や文章にして伝えることができる。	3.5	
講師	8	講師の説明はわかりやすかった。	3.8	3.8
教授法	10	グループディスカッションは学習に役立った。	3.4	3.7
	11	ロールプレイは学習に役立った。	3.3	
補助資料	9	映像資料は学習に役立った。	3.4	3.3
	12	ワークシートは学習に役立った。	3.3	
	13	掛図は学習に役立った。	3.4	
活用意識	14	この授業で学んだことを今後活かしていきたいと思う。	3.2	3.2

表 5-34 指導者用授業実施後アンケート<t02>結果

	No	アンケート項目	回答	項目平均	
満足度	1	指導する立場としてこの授業全般に満足した。	3.3	3.4	
	2	参考：授業を実施する前に考えていた目的と合っていた。	4.0		
	3	参考：この授業を他の人に勧めたいと思う。	3.0		
内容 学習	4	取り扱っている学習内容は学習目標に照らして適切だった。	3.3	3.3	
	5	取り扱っている学習項目は内容に照らして適切だった。	3.3		
教授法	6	講義、映像資料、演習（ロールプレイ、グループディスカッション）の組み合わせは指導に役立った。	3.7	3.8	
	7	映像資料の使用は指導に役立った。	4.7		
	14	映像資料を使う指導方法は、学習目標に照らして適切だった。	4.0		
	17	指導の中で映像資料を使うタイミングは適切だった。	4.7		
	8	グループディスカッションの実施は指導に役立った。	3.0		
	9	ロールプレイの実施は指導に役立った。	2.7		
	10	ワークシートの使用は指導に役立った。	3.0		
	19	ワークシートを使う指導方法は、学習目標に照らして適切だった。	3.0		
	22	指導の中でワークシートを使うタイミングは適切だった。	3.3		
	11	掛図の使用は指導に役立った。	4.3		
	24	掛図を使う指導方法は、学習目標に照らして適切だった。	4.3		
	26	指導の中で掛図を使うタイミングは適切だった。	4.5		
時間 学習	12	1コマ（50分間）は内容に照らして適切だった。	3.0	3.0	
映像 （ビデオ） 補助資料	13	映像資料の内容は指導上役に立った。	4.7	4.2	
	15	映像資料はわかりやすかった。	4.0		
	16	映像資料は教材としてとして使いやすかった。	4.0		
シート （ワーク） 補助資料	18	ワークシートの内容は指導上役に立った。	3.3	3.1	
	20	ワークシートの項目はわかりやすかった。	3.0		
	21	ワークシートは生徒にとって記入しやすかった。	3.0		
図 （掛） 料補助資	23	掛図の内容は指導上役に立った。	4.3	4.3	
	25	掛図は教材として使いやすかった。	4.3		
意識 活用	28	この授業を実施してみたいと思われませんか。	2.7	2.7	

5-6-2 第 2 回～第 4 回モデル授業アンケート結果

第 2 回～第 4 回のモデル授業について実施したアンケート結果は次のとおりである。

表 5-35 生徒用授業実施前アンケート<s01>結果

	No	アンケート項目	全体	1 年生	2 年生	
属性	1*10	男女	男子	57 人	36 人	21 人
			女子	43 人	32 人	11 人
	2*10	インターネットを使っていますか	はい	96 人	63 人	33 人
			いいえ	6 人	5 人	1 人
現状	3*10	何を使ってインターネットにアクセスしていますか	携帯	61 人	41 人	20 人
			パソコン	88 人	59 人	29 人
			ゲーム機	34 人	23 人	11 人
	4*10	インターネットの使用目的はなんですか	メール	36 人	25 人	11 人
			ブログ	26 人	18 人	8 人
			情報検索	73 人	48 人	25 人
			音楽	70 人	47 人	23 人
			ゲーム	51 人	34 人	17 人
			ショッピング	20 人	14 人	6 人
			学習	34 人	25 人	9 人
	1	メールやブログでは、相手を思いやって内容や表現に気をつけている。	3.9	3.9	3.9	
	8	自分としては、友達とのコミュニケーションはうまくできている。	3.7	3.6	3.5	
	9*10	携帯電話やインターネット上のコミュニケーションで困ったことがありますか。	はい	16	12	4
			いいえ	84	56	28
10*10	「はい」の場合、解決できましたか。	はい	8	6	2	
		いいえ	6	3	3	
11*10	ネットとは関係なく、日常生活のコミュニケーションで困ったことがありますか。	はい	8	6	2	
		いいえ	89	59	30	
12*10	「はい」の場合、解決できましたか。	はい	5	4	1	
		いいえ	3	1	2	
理解度	2	インターネットの特性を理解している。	3.5	3.5	3.5	
	3	ネットでのコミュニケーションの特徴、対面との違い・類似点について理解している。	3.4	3.5	3.4	
	4	相手の気持ちも自分の気持ちも尊重して、自分の言いたいことを伝える方法や注意点を理解している。	3.6	3.7	3.4	
	5	自分の気持ちも相手の気持ちも尊重して、自分の言いたいことを言葉や文章にして伝えることができる。	3.5	3.6	3.4	
期待度	6	メールなどのネットでのコミュニケーションの特徴や留意点などを知りたい。	3.3	3.2	3.3	
	7	相手を傷つけずに自分の言いたいことを伝えたい。	3.8	3.9	3.6	

\*10

各選択肢を選んだ人数によって評価。その他の項目は「とてもそう思う=5」「そう思う=4」「どちらともいえない=3」「そう思わない=2」「まったくそう思わない=1」の5段階で評価している。

表 5-36 生徒用授業実施後アンケート<s02>結果

	No	アンケート項目	全体		1年生全体		2年生全体	
			回答	平均	回答	平均	回答	平均
満足度	1	この授業を受けてよかった。	3.9	3.9	3.8	3.8	3.9	3.9
	2	参考：授業前に期待していた内容とあっていたと思う。	3.3		3.1		3.5	
	3	参考：この授業を他の人に勧めたいと思う。	3.5		3.5		3.5	
理解度	4	インターネットの特性を理解した。	3.6	3.7	3.6	3.7	3.8	3.8
	5	ネットでのコミュニケーションの特徴、対面との違い・類似点について理解した。	3.7		3.6		3.8	
	6	相手の気持ちも自分の気持ちも尊重して、自分の言いたいことを伝える方法や注意点を理解した。	4.0		4.0		3.9	
	7	自分の気持ちも相手の気持ちも尊重して、自分の言いたいことを言葉や文章にして伝えることができる。	3.7		3.6		3.7	
講師	8	講師の説明はわかりやすかった。	4.2	4.2	4.1	4.1	4.3	4.3
教授法	10	グループディスカッションは学習に役立った。	3.7	3.7	3.6	3.6	3.8	3.8
	11	ロールプレイは学習に役立った。	3.6		3.6		3.7	
補助資料	9	映像資料は学習に役立った。	3.9	3.8	3.9	3.8	3.8	3.8
	12	ワークシートは学習に役立った。	3.8		3.8		3.8	
	13	掛図は学習に役立った。	3.7		3.7		3.8	
活用意識	14	この授業で学んだことを今後活かしていきたいと思う。	4.2	4.2	4.1	4.1	4.2	4.2

表 5-37 指導者用授業実施後アンケート<t02>結果

	No	アンケート項目	回答	項目平均	
満足度	1	指導する立場としてこの授業全般に満足した。	4.5	4.5	
	2	参考：授業を実施する前に考えていた目的と合っていた。	4.2		
	3	参考：この授業を他の人に勧めたいと思う。	4.3		
内容 学習	4	取り扱っている学習内容は学習目標に照らして適切だった。	4.3	4.3	
	5	取り扱っている学習項目は内容に照らして適切だった。	4.2		
教授法	6	講義、映像資料、演習（ロールプレイ、グループディスカッション）の組み合わせは指導に役立った。	4.5	4.3	
	7	映像資料の使用は指導に役立った。	4.5		
	14	映像資料を使う指導方法は、学習目標に照らして適切だった。	4.5		
	17	指導の中で映像資料を使うタイミングは適切だった。	4.5		
	8	グループディスカッションの実施は指導に役立った。	4.3		
	9	ロールプレイの実施は指導に役立った。	3.4		
	10	ワークシートの使用は指導に役立った。	4.3		
	19	ワークシートを使う指導方法は、学習目標に照らして適切だった。	4.3		
	22	指導の中でワークシートを使うタイミングは適切だった。	4.3		
	11	掛図の使用は指導に役立った。	4.3		
	24	掛図を使う指導方法は、学習目標に照らして適切だった。	4.2		
	26	指導の中で掛図を使うタイミングは適切だった。	4.2		
間） （授業時 補助資料	12	1コマ（50分間）は内容に照らして適切だった。	3.4	3.4	
映像） （ビデオ 補助資料	13	映像資料の内容は指導上役に立った。	4.5	4.5	
	15	映像資料はわかりやすかった。	4.5		
	16	映像資料は教材としてとして使いやすかった。	4.5		
シート） （ワーク 補助資料	18	ワークシートの内容は指導上役に立った。	4.5	4.2	
	20	ワークシートの項目はわかりやすかった。	4.2		
	21	ワークシートは生徒にとって記入しやすかった。	3.8		
図） （掛 補助資料	23	掛図の内容は指導上役に立った。	4.2	4.2	
	25	掛図は教材として使いやすかった。	4.2		
意識 活用	28	この授業を実施してみたいと思われませんか。	4.2	4.2	

## 6. まとめと提案

### 6-1 まとめ

本事業では、中学生・高校生を主な対象とし、虚実が混在するインターネット上の情報を主体的に読み解く能力を身につけ、インターネットの特性を理解した上で、メールやブログなどの情報を適切に受発信し、情報交換できる能力等の向上を図るための指導内容や指導資料について調査研究を実施した。

具体的には、以下の3つを実施し、報告書にまとめた。

1. 既存教材の調査及びカリキュラム設計
2. 指導資料等の製作
3. モデル授業の実施と指導項目・指導資料等の評価

「1. 既存教材の調査及びカリキュラム設計」においては、中学生・高校生向けの既存教材 6 教材 43 話について、概要及び「ICT メディアリテラシー学習項目（小学 5・6 年生用）」との対応について調査した。その結果、既存教材においては、ICT メディアリテラシー学習項目の 11 項目のうち、「2.ICT メディアを操作できる能力」「4.情報を処理・編集する能力」「5.情報を表現する能力」「8.主体的にコミュニケーションする能力」について取扱いが少ないことが明らかになった。

次に、中学生・高校生が対象であることに伴い、「ICT メディアリテラシー学習項目（小学 5・6 年生用）」の見直しを行い、新たに「ICT メディアリテラシー学習項目（中学生・高校生用）」を作成した。有識者委員会及び作業部会にて、中学生・高校生時に身につけることが望ましいと考えられる内容、中学生・高校生の現状を鑑みて必要と思われる内容等について検討した結果、12 番目の大項目として、「12.情報化社会を生き抜く能力」を追加するとともに、既存の 11 項目についても、「知識・スキル」「行動」に追加、修正を行った。

さらに、ICT メディアリテラシー学習項目の 11 項目のうち、既存教材において取扱いが少ない項目、また、中学生・高校生時に必要な内容として新たに追加した「12.情報化社会を生き抜く能力」を軸として、有識者委員による議論を元にカリキュラムを設計した。設計したカリキュラムは、「1.主体的なコミュニケーション」「2.メールによるコミュニケーションのポイント」「3.クリティカルシンキング」「4.クリエイティビティ」「5.情報化社会への主体的参加」の 5 つのテーマを設け、それぞれに、ねらい、選定理由、ICT メディアリテラシー学習項目における該当項目、指導を必要とする程度（特に優先するものに◎、優先するものに○）を表記した。

「2. 指導資料等の製作」においては、先に設計したカリキュラムの中から「主体的なコミュニケーション」を選択し、指導者や保護者が指導の際に利用するための指導資料及び補助資料を製作した。「指導資料」は、A4 サイズ約 40 ページの資料とし、運営マニュアル部分には、授業の流れや準備物を掲載し、指導マニュアル部分には、指導の展開例やサンプルシナリオを掲載した。また、指導の展開例については、複数例提示した。

「補助資料」としては、①ビデオクリップ、②ワークシート、③キーシーン黒板用掛図、④提示用スライドを作成した。①ビデオクリップは、中学生を主人公とし、ブログが炎上するストーリーで、視聴時間は約 6 分 30 秒である。②ワークシートは、授業中に指導者の指示に従って学習者が記入するタイプを 2 種類、授業後に期間を置いて記入するタイプを 1 種類作成した。③キーシーン黒板用掛図は、主要な登場人物 3 名と主要なブログ画面 2 種類の計 5 種類を作成した。④提示用スライドとしては、指導者による説明のポイントやイラストを入れたパワーポイントのスライドデータを作成した。

「3. モデル授業の実施と指導項目・指導資料等の評価」においては、指導資料等を用いた授業を実施した。モデル授業ということで、コミュニケーション・情報モラル等に関する授業・セミナー等に実績のある外部講師 1 名が指導者となり、公立中学校の 4 クラスにおいて、それぞれ 50 分の授業をおこなった。

第 1 回目のモデル授業の評価結果から、中学生にとって、どのようにしたらスムーズに授業が進行するか、どのようにしたらワークシートに記入しやすくなるかの観点から再検討した。

まず、「グループディスカッション」や「ロールプレイ」という表現は、「話し合い」「コミュニケーション手法の練習」と言い換え、「I メッセージ」「You メッセージ」といった専門用語を使わずに、「私を主語にする」「あなたを主語にする」というように言い換えた。また、話し合い（グループディスカッション）の内容については質問を絞り、ワークシートに記入する項目を 5 回から 3 回に変更した。自他を尊重する言い換えの練習（ロールプレイ）については、事例を変更し、練習文を用意した。

第 2 回目以降のモデル授業に関して、指導内容の評価項目の教師平均は 5 点満点の 4.2 点であった。「指導する立場としてこの授業全般に満足した」(4.5)、「学習内容が学習目標に照らして適切だった」(4.3)、「学習項目が内容に照らして適切だった」(4.2)、「講義、映像資料、演習（ロールプレイ、グループディスカッション）の組み合わせは指導に役立った」(4.5)ということで、教師によるカリキュラム全体評価はほぼ満足できる結果であった。

指導資料については、教師の事後評価では、「ビデオクリップの内容は指導上役に立った」(4.5)「ワークシートの内容は指導上役に立った」(4.2)「掛図の内容は指導上役に立った」(4.2)とあり、こちらもほぼ満足できる結果であった。

また、生徒による授業への満足度の結果は、3.9 であり、学習者の反応評価としては、ほぼ満足できる結果と言える。

理解度では、「ネットでのコミュニケーションの特徴、対面との違い・類似点について理解した」という項目について、2 年生において有意差があった。また「自分の気持ちも相手の気持ちも尊重して、自分のいいことを言葉や文章にして伝えることができる」という項目については、2 年生に関しては有意傾向が見られた。

行動変容度では、アクションプランワークシートの記述内容に「自分の気持ちを大切に」「相手の気持ちを大切に」という自他尊重の内容が 52% を占めている。1 か月後のアクションプランワークシートへの記入では、「自分の行動やふるまいが変わったと思う」項目については、3.1 であったが、今後についての自由記述では「意識していれば変わることがわかった」「そう簡単には自分のふるまいは変わらないと思いました。でも小さいことからこつこつと直していけたらいいと思います。」といった記述も見られた。アクションプランワークシートは、自分の行動を見直すきっかけづくりとなったと考えられる。

以上が、本事業の目的に沿って実施した事業内容である。

## 6-2 提案

本章では、本事業を通して得た知見を元に、今後の中学生・高校生向けの ICT メディアリテラシー教材の開発に関する提案を行う。

### 6-2-1 教材開発

#### (1) テーマ（カリキュラム）

本事業では、既存教材の調査及び中学生・高校生用の ICT メディアリテラシー学習項目を元に、虚実が混在するインターネット上の情報を主体的に読み解く能力を身につけ、インターネットの特性を理解した上で、メールやブログなどの情報を適切に受発信し、情報交換できる能力等の向上を図るための指導項目を分析し、カリキュラムを設計した（36 ページ参照）。

また、今後の新たな教材の作成の際の参考にするため、「指導を必要とする程度」覧では、特に優先する必要があるテーマには◎、優先する必要があるテーマには○を表記した。

#### (2) 開発方法

##### <ビデオクリップのシナリオの制作>

本事業では、プロのシナリオライターがシナリオを試作し、そのシナリオ案を元に、有識者委員及び事務局、映像制作関係者が、加筆・修正し、最終的なシナリオを完成した。

今後、中学生・高校生を対象としたビデオクリップなどストーリー性のあるものを制作する場合は、教材の受け手である中学生・高校生自身からシナリオの原案を募る方法も一案としてある。Web 上で、シナリオ原案に関するコンテストを実施したり、意見を組み合わせたりするような共同作業を通じ、制作に携わることは、本事業で設計したカリキュラムの「12. 情報化社会を生き抜く能力」の育成にもつながると考えられる。

##### <モデル授業の実施>

本事業においては、公立中学校において、外部講師によるモデル授業を実施し、指導資料等について評価を行った。

外部講師によるモデル授業では、その効果や課題等に関して客観的に検証できる一方、その学校の生徒の実態を把握している担任の教師が実施する場合の利点を考慮する必要がある。また、教育現場での状況を適切に反映するため、指導の流れ及びワークシート類についても、実際に授業を実施する教師に原案作成やチェックを依頼し、有識者委員会等で検討する方法も考えられる。

さらに、一般家庭の保護者等の利用を想定する場合、Web 上でモニター等を募り、複数の家庭で実証した上で、アンケート等により評価する方法もある。また地域等で行われるセミナー等で試用し、評価し、フィードバックすることも教材の汎用性を高めることにつながる。

#### (3) 学習方法

本事業で開発した教材における指導の展開例は、メールやブログなどの情報を適切に受発信し、情報交換できるようにするために、子どものコミュニケーション能力の向上を支援することを目指している。そのため、ビデオクリップを問題提起として視聴する、ワークシートに記入する、グループで話し合う、自他尊重のコミュニケーションを声に出して練習する、という多彩な学習方法を取り入れている。

今回のモデル授業は中学校で実施したが、高等学校で実施するような場合は、グループでの話し合いに慣れていないことも想定されることから、ワークシートへの書き込みと教師主導での会話のやりとりを中心として、授業を進めるような工夫が必要になる。

#### (4) 教材形態

本事業では、「指導資料」及び「補助資料」として、①ビデオクリップ、②ワークシート、③キー



シーン黒板用掛図、④提示用スライドを作成した。特に、④提示用スライドは、ICT メディアリテラシー育成プログラム（小学校 5・6 年生用）では作成されていなかったものであるが、ヒアリングでの評価は、「学習内容のまとめがあり、また大画面に映し出されるため、わかりやすかった」とのことであった。地域で開催されるセミナー等で指導する場合は、スライドを提示することが一般的であるため、今後も、補助教材の一つとしてスライドを制作することが望ましい。

一方、スライドを提示しながら授業を進めることに慣れていない指導者がいることも考えられる。そうした観点からは、授業やセミナーの進行が、スライド中心にならないように、指導の展開方法の工夫や指導資料を充実させる必要がある。また、スライドを用いない指導者のために、掛図だけでなく、既存教材の一部にもあるような黒板の板書例を示すことも指導の一助になると考える。広く一般的な学校等での利用を進める際には、専門的な知識のない指導者でも活用できる教材の充実が必要である。

## 6-2-2 普及方策

### (1) 配布方法

本事業で開発した一連の教材は、Web での公開を想定している。教師だけではなく、地域のボランティアなどの指導者や一般家庭の保護者へ広く普及させるためには、専用 Web サイトでの公開が必要であり、サイトには、教材がダウンロードできるだけでなく、教材の構成や活用事例を掲載することが望ましい。

一方で、有識者の意見の中には、学校ではインターネットに接続してビデオクリップを見せるよりも、DVD 等の媒体の方が扱いやすいという意見もあった。Web 版とは別に、DVD 版の教材を用意し、希望に応じて貸出もしくは提供する方法も考えられる。

### (2) 活用促進方法

本教材を広く国民に認知してもらうためには、ネット安全安心全国推進会議による「ネット安全安心全国推進フォーラム」、「子ども霞が関見学デー」のようなイベント、各種セミナーでの公開やマスコミ、アクセス数の多い Web サイトにおいて取り扱われることが有効である。ただし、その際には、本教材は学習者自身が利用して学ぶためのものではなく、指導者が指導のために使用する教材であるので、その位置づけを明確に示す必要がある。

また、前述したように、ビデオクリップのシナリオを中学生・高校生から募集することも、訴求効果として高い方法になると期待できる。

中学校、高等学校の授業での活用を促進するためには、既存の教科等（道徳や技術・家庭、教科情報、総合的な学習の時間等）で扱えるように関連付けを行うことが有効であると考えられる。また、授業以外で、メールやブログなどの情報を適切に受発信し、情報交換できるようにするため、コミュニケーション能力の向上支援について重点的に取り組む場合にあっては、ロングホームルーム（LHR）や進路活動、キャリアガイダンスなどで活用することもできる。その場合は、教材を活用する時間の例を指導資料上に明記することが望ましい。

また、中学校、高等学校の教師等から、本事業による教材を活用した授業例（指導案や既存教材との関連付け等を含む）を募集し、授業実践事例として公表することも、活用を促進する方法として期待できる。

本事業の成果及び今後への提案が、中学生・高校生の ICT メディアの健全な利用の促進に資することができれば幸いである。